

秋田県文化財調査報告書第349集

碎 測 遺 跡

－ 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 XI －

2003・3

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田郡森西町白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩筒」です。
縄文時代晩期前期、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

じゃき ぶち
砕 渕 遺 跡

－ 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 XI －

2003・3

秋 田 県 教 育 委 員 会

序

本県には、これまでに発見された約4,600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、これまで大きな洪水や渇水の被害に見舞われてきた米代川や阿仁川の流域では、そうした自然災害の脅威や不安を解消するためのダム建設が長く望まれ、洪水被害の軽減、灌漑用水・水道用水の供給、水辺環境の保全などを目的とする森吉山ダムの建設事業が行われております。本教育委員会ではこれら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、森吉山ダム建設に先立って、平成13年度に森吉町において実施した碎測遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査では縄文時代中期末葉～後期後葉の竪穴住居跡やフラスコ状土坑等が検出され、縄文時代の集落が営まれていたことが分かりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所、森吉町、森吉町教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺 清

例 言

- 1 本報告書は、平成13年度に行った碎洲遺跡の発掘調査の成果を収めたもので、森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書としては11冊目に当たる。
- 2 調査の内容については、年報等で一部公表されているが、本報告書を正式のものとする。
- 3 本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1/50,000「米内沢」「大葛」と1/25,000「阿仁前田」「太平湖」および東北地方建設局森吉山ダム工事事務所作成の1/1,000「森吉山ダム貯水池平面図」である。
- 4 本報告書で使用した土色の色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖 1998年版』によった。
- 5 第5章自然科学的分析は右記の機関に業務委託した。株式会社バレオ・ラボ
- 6 空中写真撮影は右記の機関に業務委託した。株式会社ハイマーテック
- 7 本報告書の執筆と編集は、小林稔幸が行った。
第4章第2節は加藤竜、第4章第3節2は宇田川浩一の協力を得た。
- 8 本報告書の作成にあたり、以下の方々からご指導・ご助言を頂いた。記して感謝の意を表する。
小林圭一 手塚均 森谷昌央（敬称略、五十音順）

凡 例

- 1 遺構については、検出順にその種類を示す略記号と通し番号を付したが、後に遺構ではないと判断したものは欠番とした。また遺構に使用した略記号は以下のとおりである。

S I(竪穴住居跡) S R(土器埋設遺構) S N(焼土遺構) S B(掘立柱建物跡)
S K(土坑) S K F(フラスコ状土坑) S K P(柱穴様ピット)

- 2 遺構実測図は、原則として 1/40 を基本とし、適宜 1/20、1/60 を用いた。

- 3 挿図中の遺物に使用した略記号は以下のとおりである。

R P(土器) R Q(石器) S(礫)

- 4 石器の器種で以下の用語を用いた。

R F(剥片を素材とし、部分的な二次加工痕を有するもの)

U F(剥片を素材とし、縁辺に微細剥離痕を有するもの)

- 5 挿図中の方位は日本測地系平面直角座標第 X 系の座標北を示す。座標北と磁北の偏角は西に 8° 10' である。本文及び巻末の報告書抄録記載の経緯度は世界測地系に基づく。

- 6 挿図中の遺物実測図には種別を問わず通し番号を付した。これは本文中及び写真図版中の番号と対応する。また同一挿図中に異なる遺構の遺物が含まれる場合、() 内に出土遺構名を記した。

- 7 遺物実測図は、原則として 1/2 の縮尺で掲載し、また全ての挿図にスケールを付した。ただし完形の土器や礫石器など大形の遺物については 1/3 もしくは 1/4 の縮尺で掲載し、同一挿図中に異なる縮尺の遺物実測図が含まれる場合、スケールの左下に該当する遺物番号を記した。

- 8 挿図中で使用したスクリーントーンの凡例は以下のとおりである。

焼土



天然アスファルト



黒色の漆状物質



目 次

序	
例言	ii
凡例	iii
目次	iv
挿図目次	v
表目次・図版目次	vi
第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	4
第2章 遺跡の環境	5
第1節 遺跡の位置と立地	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 発掘調査の概要	9
第1節 遺跡の概観	9
第2節 調査の方法	9
1 野外調査	9
2 室内整理	9
第3節 調査の経過	10
第4章 調査の記録	12
第1節 基本層位	12
第2節 検出遺構と出土遺物	12
1 竪穴住居跡	14
2 土器埋設遺構	23
3 焼土遺構	23
4 掘立柱建物跡	26
5 土坑	26
6 フラスコ状土坑	34
7 柱穴様ビット	66
第3節 遺構外出土遺物	75
1 縄文時代の遺物	75
2 近世の遺物	79
第5章 自然科学的分析	102
第1節 炭化材の樹種同定	102
第2節 放射性炭素年代測定	104
第6章 まとめ	106
報告書抄録	

挿図目次

第1図	森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡	3	第33図	S K F 41・42・43・44フラスコ状土坑	54
第2図	周辺の遺跡分布図	7	第34図	S K F 45フラスコ状土坑	56
第3図	グリッド配置図	11	第35図	S K F 75・86・92フラスコ状土坑	57
第4図	基本土層図	12	第36図	S K F 93・95フラスコ状土坑	59
第5図	遺構配置図	13	第37図	S K F 96・97・98フラスコ状土坑	60
第6図	S I 90竪穴住居跡	15	第38図	S K F 104・106・111フラスコ状土坑	62
第7図	S I 90竪穴住居跡複式炉	16	第39図	S K F 105フラスコ状土坑	63
第8図	S I 90竪穴住居跡出土石器	17	第40図	S K F 112・116フラスコ状土坑	65
第9図	S I 90竪穴住居跡出土石器	18	第41図	S K F 05・12・13・21・35・41・42・43・45出土石器	67
第10図	S I 94竪穴住居跡	19	第42図	S K F 97・98・104・105・111・112・116出土石器	68
第11図	S I 94竪穴住居跡炉・出土石器	20	第43図	S K F 05・10出土石器	69
第12図	S I 94竪穴住居跡出土石器・石器	21	第44図	S K F 22・29・36・37・43・44出土石器	70
第13図	S I 94竪穴住居跡出土石器	22	第45図	S K F 45・95・97・105出土石器	71
第14図	S R 01土器埋設遺構・出土石器	24	第46図	S K F 105・111・112出土石器	72
第15図	S N 46・91焼土遺構、S N 91出土石器	25	第47図	遺構外出土石器 縄文時代	80
第16図	S B 107縦立柱建物跡	27	第48図	遺構外出土石器 縄文時代	81
第17図	S B 108縦立柱建物跡	28	第49図	遺構外出土石器 縄文時代	82
第18図	S K 02・03・07土坑	29	第50図	遺構外出土石器 縄文時代	83
第19図	S K 08・24・25・27土坑	31	第51図	遺構外出土石器 縄文時代	84
第20図	S K 30・72・73・84・99土坑	33	第52図	遺構外出土石器 縄文時代	85
第21図	S K 100・101・102・103・110土坑	35	第53図	遺構外出土石器・土製品 縄文時代	86
第22図	S K 114土坑、S K 08・101出土石器、S K 02出土石器	36	第54図	遺構外出土石器	87
第23図	S K F 04・05・06フラスコ状土坑	38	第55図	遺構外出土石器	88
第24図	S K F 10・12・13フラスコ状土坑	40	第56図	遺構外出土石器	89
第25図	S K F 11・14フラスコ状土坑	41	第57図	遺構外出土石器	90
第26図	S K F 16・19・20フラスコ状土坑	43	第58図	遺構外出土石器	91
第27図	S K F 17・18フラスコ状土坑	44	第59図	遺構外出土石器	92
第28図	S K F 21フラスコ状土坑	46	第60図	遺構外出土石器	93
第29図	S K F 22・26フラスコ状土坑	47	第61図	遺構外出土石器	94
第30図	S K F 29・32・34フラスコ状土坑	49	第62図	遺構外出土石器 縄文時代、陶器・土製品 近世	95
第31図	S K F 35・36フラスコ状土坑	51			
第32図	S K F 37・38・40フラスコ状土坑	52			

表目次

第1表	森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡	3	第6表	縄文土器観察表	96
第2表	周辺遺跡一覧	8	第7表	石器観察表	100
第3表	土坑一覧表	73	第8表	出土炭化材の樹種同定結果	103
第4表	フラスコ状土坑一覧表	73	第9表	放射性炭素年代測定及び暦年代校正の結果	105
第5表	柱穴様ヒット一覧表	74			

図版目次

図版1	遺跡全景	図版13	フラスコ状土坑、出土土器
図版2	竪穴住居跡	図版14	フラスコ状土坑、出土土器
図版3	竪穴住居跡	図版15	フラスコ状土坑、出土土器、作業風景
図版4	土器埋設遺構	図版16	遺構内出土土器・石器
図版5	焼土遺構	図版17	遺構内出土土器
図版6	掘立柱建物跡	図版18	遺構内出土土器・石器
図版7	土坑	図版19	遺構外出土土器
図版8	土坑	図版20	遺構外出土土器
図版9	土坑、フラスコ状土坑	図版21	遺構外出土土器・土製品
図版10	フラスコ状土坑	図版22	遺構外出土石器・石製品・陶器・土製品
図版11	フラスコ状土坑	図版23	出土炭化材顕微鏡写真
図版12	フラスコ状土坑		

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経過

岩手県二戸郡安代町田山に源を發し、秋田県北部を東から西に流れる米代川は、31の支川を合わせながら日本海に注ぐ河川である。米代川が貫流する花輪・大館・鷹巣の各盆地地下流付近は、山が迫っていて川幅も狭い。中でも、鷹巣盆地地下流の七座神社付近から荷上場にかけての地域は、蛇行が激しいうえ急激に川幅が狭まる。さらに、北流する阿仁川と南流する藤琴川が合流するため、しばしば大洪水が起こっている。

昭和47(1972)年7月3日、北九州で始まった梅雨前線による集中豪雨は、日本列島を縦断し全国各地に被害をもたらした。秋田県では、県中央部から北部を中心に集中豪雨が襲い、全壊家屋73戸・半壊78戸・床上浸水3,379戸・床下浸水4,160戸の他、農地、農業施設1,779箇所・土木関係1,863箇所などあわせて256億2,408万円余りの被害を被った。秋田県に天災融資法と激甚災害法とが適用され、能代市・二ツ井町・森吉町・合川町・西仙北町・角館町には災害救助法が適用された。この豪雨時に小阿仁川上流の萩形ダムの他、藤琴川上流の霧波里ダム、小又川上流の森吉ダムもダム本体を守るために放水したため、三つの鉄砲水のような流れが米代川で一緒になり、下流の二ツ井町・能代市を襲った。米代川の堤防が致箇所にわたって決壊して氾濫し、特に能代市中川原地区の被害は甚大であった。翌年、大洪水を機に「米代川工事実施基本計画」の見直しが行われ、二ツ井基準地点の基本高水流量を $9,200\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち $1,000\text{m}^3/\text{s}$ は上流ダム群によって調節することとなった。こうした上流ダム群の一つとして阿仁川支流の小又川に建設されることになったのが阿仁川ダムである。後に森吉山ダムと名称が変更されたこのダムは、洪水調節の他、灌漑用水の供給、水道水の供給、水力発電などを目的とする多目的ダムである。建設地点における計画高水流量 $2,300\text{m}^3/\text{s}$ の内、 $2,200\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節作用を持ち、二ツ井基準地点での維持流量は $45.0\text{m}^3/\text{s}$ 、堤高 90.0m 、湛水面積 3.2km^2 、総事業費は当初予算で約910億円の中央コア型ロックフィルダムである。

森吉山ダム建設にともない、事業対象区域内の住民の移転が進む中、事業主体である建設省(現国土交通省)東北地方建設局森吉山ダム工事事務所は、文化財保護法に基づき、秋田県教育委員会に対し貯水池流域面積 248.0km^2 の遺跡分布調査を依頼した。秋田県教育委員会は、遺跡分布調査を平成4(1992)・平成5(1993)年の2箇年にわたって実施し、その結果、桐内遺跡(縄文時代前期・後期)、二重鳥遺跡(縄文時代後期)、漆下遺跡(縄文時代後期)、棚岱遺跡(縄文時代後期・晩期)、碎淵遺跡(縄文時代)、丹瀬口遺跡(縄文時代後期)の新発見の遺跡6箇所が開発区域に係ることを確認した。この結果に基づき、森吉山ダム工事事務所と秋田県教育委員会は協議を重ね、平成3(1991)年発行の『秋田県遺跡地図(東北版)』に記載された「周知の遺跡」、及び遺跡分布調査で発見された「新発見の遺跡」の双方についての範囲確認調査を秋田県教育委員会へ実施依頼し、遺構・遺物の広がり把握していることを申し合わせた。

秋田県教育委員会では、平成4(1994)年度より範囲確認調査を実施し、平成10(1998)年にすべての遺跡の範囲確認調査を終了した。その結果、新発見の遺跡が増え、現在貯水予定地周辺地域では60

跡を数えている。

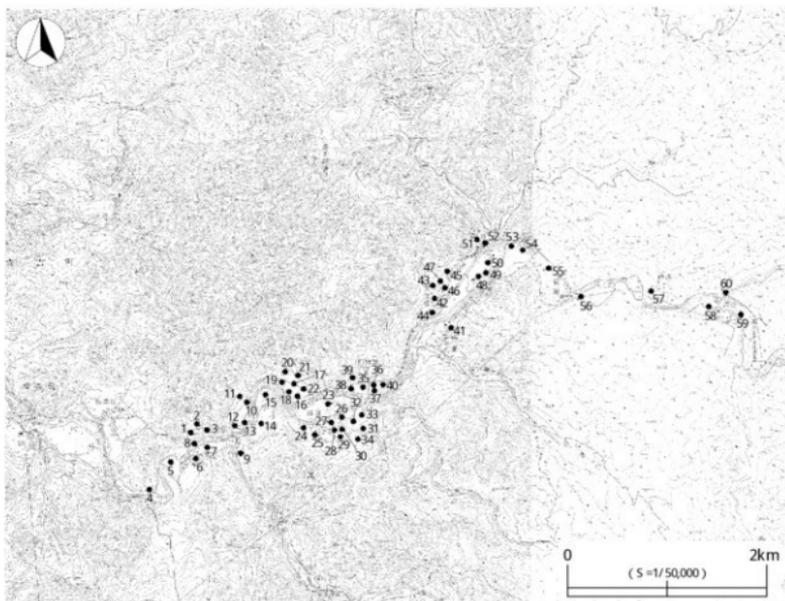
森吉山ダム関連の工事は、平成 6 (1994) 年の下流工用道路から開始され、翌年には事業地内の材料運搬路に移った。一方、第12回日本ジャンボリーが平成10 (1998) 年に森吉山麓において開催されることとなった。ジャンボリーの開催には総合管理施設、飲料水供給施設、総合駐車場等の整備と人員の大規模な輸送を行う道路の整備が必要のため、平成 7 (1995) 年に日廻岱 A 遺跡・砕測遺跡、平成 8 (1996) 年には上悪戸 D 遺跡・深渡遺跡・地蔵岱遺跡・森吉家ノ前 B 遺跡・天津場 C 遺跡のアクセス道路線部を森吉町教育委員会が調査した。

森吉山ダム建設事業に係る発掘調査については確認調査を行った遺跡の中から、記録保存の必要なものについて、工事工程に合わせて発掘調査を実施する合意が森吉山ダム工事事務所と秋田県教育委員会の間でなされている。秋田県では平成 9 (1997) 年～平成13 (2001) 年の5年間で深渡遺跡、姫ヶ岱 C・D 遺跡、桐内 A～D 遺跡、日廻岱 A 遺跡、向椋田 A～F 遺跡、漆下遺跡、砕測遺跡の発掘調査を実施している。

砕測遺跡の発掘調査は、平成13 (2001) 年5月18日から7月19日まで遺跡総面積3,800㎡を調査した。

参考文献

- 無明舎 『秋田県昭和史』 1989 平成元 年
秋田魁新報社 『ダムに沈む「むら」森吉町森吉』 モリトピア選書 1
建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所 1993 平成 4 年
川村公一 『子孫に残す歴史の記録 森吉路 過去から未来へ』 モリトピア選書 2
建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所 1993 平成 5 年
森吉町教育委員会 『平成 7 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』
1996 平成 8 年
森吉町教育委員会 『平成 8 年度 埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』
1997 平成 9 年
秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第251集 1994 平成 6 年
秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第259集 1995 平成 7 年
秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第267集 1996 平成 8 年
秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第270集 1997 平成 9 年
秋田県教育委員会 『桐内 C 遺跡- 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ-』
秋田県文化財調査報告書第299集 2000 平成12 年
秋田県教育委員会 『桐内 B 遺跡・桐内 D 遺跡- 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 V -』
秋田県文化財調査報告書第318集 2001 平成13 年



第1図 森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡

第1表 森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡

番号	遺跡名	遺跡所在地	時期	番号	遺跡名	遺跡所在地	時期
1	上奥戸 A	森吉町朝高字上奥戸4-1,5,10-1,11-9,12-9,4,13,16-1,16-9,20	縄文前期	31	二重 南 F	森吉町高字二重南14-1	縄文時代
2	上奥戸 B	森吉町朝高字上奥戸1-2	古土層	32	二重 南 G	森吉町高字二重南01-1,3-6-1	縄文前期
3	上奥戸 C	森吉町朝高字上奥戸7-8-9	縄文前期	33	二重 南 H	森吉町高字二重南04,14,15	縄文前期
4	上奥戸 D	森吉町朝高字上奥戸14,7,14,29+41,34-60-61-67,54,6	縄文後・縄文	34	赤 正	森吉町高字赤正2-02-1,43-1,44,113-6	縄文中期・縄文
5	福 吉 A	森吉町高字福吉田01-1,6-9-3,30	縄文中期・縄文	35	西 福 田 A	森吉町高字西福吉田7,9,10,9-1,2,11,16,31-1,2,3,24	縄文前期
6	福 吉 B	森吉町高字福吉7,16,学内南31-1,34-1,37-6	縄文前期	36	西 福 田 B	森吉町高字西福吉田7,9,10,9-1,2,7,9,7,1-1,72,74,75,6	縄文後・縄文
7	福 吉 C	森吉町高字福吉学上土田17,16	縄文前期・縄文	37	西 福 田 C	森吉町高字西福吉田7,9,10,9-1,2,7,9,7,1-1,72,75	縄文後・縄文
8	福 吉 D	森吉町高字福吉学上土田15,19	縄文前期	38	西 福 田 D	森吉町高字西福吉田7,9,10,9-1,2,7,9,7,1-1,2,0	縄文前期
9	福 吉 沢	森吉町高字福吉沢下野103	縄文前期・縄文	39	西 福 田 E	森吉町高字西福吉田7,9,10,9-1,2,7,9,7,1-1,2,0	縄文前期
10	福 中 田 A	森吉町高字福中田9,1-10-1	縄文前期	40	西 福 田 F	森吉町高字西福吉田7,9,10,9-1,2,7,9,7,1-1,2,0	縄文前期
11	福 中 田 B	森吉町高字福中田9,1-10-1,12	縄文時代	41	西 福 田	森吉町高字西福吉田6	縄文後期・古墳時代
12	福 中 田 C	森吉町高字福中田9,1-10-1,11,15,6	縄文中期	42	天 澤 南 A	森吉町高字天澤南15-1	縄文後期
13	福 中 田 D	森吉町高字福中田9,1-10-1,12	縄文中期	43	天 澤 南 B	森吉町高字天澤南16-1	縄文後期
14	日 赤 田 A	森吉町高字日赤田01,63-9-8	縄文前期・縄文	44	天 澤 南 C	森吉町高字天澤南17,1-1,8,9-2	縄文中期・縄文
15	日 赤 田 B	森吉町高字日赤田01,63,85,90,91	縄文後期	45	赤 山 沢 A	森吉町高字赤山沢01,27,28,29,30,31,32,33,34,35	古土層・縄文後期
16	横 堤 田 A	森吉町高字横堤田01,45,50-1,51	縄文中期	46	赤 山 沢 B	森吉町高字赤山沢01,7,19,22	縄文後期
17	横 堤 田 B	森吉町高字横堤田01,45,50-1,78,6	縄文後・縄文	47	赤 山 沢 C	森吉町高字赤山沢01,6-1	縄文後期
18	横 堤 田 C	森吉町高字横堤田02,61,62,6	縄文後・縄文	48	森吉野 / 南 A	森吉町高字森吉野南01,145,174,175,176,177,178	縄文後期
19	横 堤 田 D	森吉町高字横堤田110-1	縄文時代	49	森吉野 / 南 B	森吉町高字森吉野南01,38,139,140,141,142	縄文後期
20	横 堤 田 E	森吉町高字横堤田110-1	縄文時代	50	森吉野 / 南 C	森吉町高字森吉野南01,1-1,103,114,115,116	古土層
21	横 堤 田 F	森吉町高字横堤田110,110,110,110	縄文後期	51	西 福 田	森吉町高字西福吉田01,1-1,103,114,115,116	縄文後期
22	横 堤 田 G	森吉町高字横堤田206-1,39,40,46	縄文後期	52	西 福 田	森吉町高字西福吉田69	縄文後期
23	道 下	森吉町高字道下2-1,4,5,4,7,8,14,12,17,6	縄文前期・縄文	53	西 福 田	森吉町高字西福吉田74,6	縄文中期・古墳時代
24	上 八 田 A	森吉町高字上八田012,104,105,106,6	縄文前期	54	西 福 田	森吉町高字西福吉田212,40,6	縄文中期・縄文
25	上 八 田 B	森吉町高字上八田070,71,72	縄文前期	55	西 福 田	森吉町高字西福吉田201,6	縄文後期
26	二重 南 A	森吉町高字二重南01-1,31,2,47-1,104-1,104,115	縄文前期	56	西 福 田	森吉町高字西福吉田14,6	縄文後・縄文
27	二重 南 B	森吉町高字二重南01-1,39,10,10,6	縄文前期・縄文	57	西 福 田	森吉町高字西福吉田144,116	縄文後期
28	二重 南 C	森吉町高字二重南01-1,34,91,94,97,110	縄文後期	58	天 澤 南	森吉町高字天澤南104,116	縄文後・縄文
29	二重 南 D	森吉町高字二重南01-1	縄文後期	59	天 澤 南	森吉町高字天澤南01-1	縄文後・縄文
30	二重 南 E	森吉町高字二重南01-1,66-1,69,70,2,70-3	縄文前期・縄文	60	赤 山 沢	森吉町高字赤山沢1-1,6	縄文後期

第2節 調査要項

遺 跡 名	碎測遺跡(略号2JB)
遺跡所在地	秋田県北秋田郡森吉町森吉字碎測144-1外
調査期間	平成13(2001)年5月18日～7月19日
調査目的	森吉山ダム建設事業に係る発掘調査
調査面積	3,800㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	加藤 竜(秋田県埋蔵文化財センター 文化財主事) 小林 稔幸(秋田県埋蔵文化財センター 学芸主事) 高橋 俊幸(秋田県埋蔵文化財センター 非常勤職員) 藤田 大誠(秋田県埋蔵文化財センター 非常勤職員)
総務担当者	佐藤 悟(秋田県埋蔵文化財センター 総務課長) 嶋田 敬輝(秋田県埋蔵文化財センター 主査) 高橋 修(秋田県埋蔵文化財センター 主任) 佐々木敬隆(秋田県埋蔵文化財センター 主事) 成田 誠(秋田県埋蔵文化財センター 主事)
調査協力機関	国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所 森吉町 森吉町教育委員会

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地

砕測遺跡は森吉町北部の米内沢地区にある森吉町役場より南東約16km、秋田内陸縦貫鉄道阿仁前田駅から南東約10km、北緯40° 2' 57"、東経140° 30' 42"に位置している。調査範囲は森吉山の北麓を西流する小又川右岸の砂礫段丘面に立地し、標高194～196mの舌状台地上の平坦面にあたる。平成7(1995年)に森吉町教育委員会が実施した砕測遺跡の発掘調査は、低地を挟んだ南西の台地上で行われ、土坑、性格不明遺構等を検出し、遺物は縄文時代中期の土器等が出土した。

遺跡の所在する森吉町は秋田県の内陸北部に位置し、町西部を北流する阿仁川と鹿角市境から流れ出て、阿仁川に合流する小又川流域からなる。東は鹿角市・仙北郡田沢湖町、北は北秋田郡比内町・鷹巣町・合川町、西は北秋田郡小阿仁村と接する。南の北秋田郡阿仁町との境には町名の由来となった標高1,454mのアスピーテ・トロイデ複式火山である森吉山があり、その東側一帯は森吉山県立自然公園となっている。森吉山の北側には、谷底平野である小又川低地をはさんで、北北東に小繁森(標高1,010m)、北に高鳥帽子(標高764m)、北西に源五郎岳(標高559m)などが東西に連なっており、森吉山頂上からの距離は、いずれも約10～11kmである。これらの山地は分水嶺をなし、行政区分上も鷹巣町や比内町との境界をなしている。

本遺跡近くを流れる小又川は、北秋田郡・仙北郡・鹿角市の境界をなす三ツ又森(標高1,119m)・柴倉岳(標高1,178m)に源を発し、六郎沢・糠様沢・ノロ川・連瀬沢などの支流を合わせ、森吉山北麓を蛇行しながら西流し、阿仁前田地内で阿仁川と合流する。

この地域に分布する地質は、いわゆる東北地方日本海側グリーンタフ地域に属し、新第三紀中新世の地層を主としている。先第三紀の古期堆積岩(粘板岩、ホルンフェルス)が小繁森の頂上付近に顔を出しているが、それ以外の地域では、新第三紀中新世初期～中期の火山岩類、火山砕屑岩類および堆積岩類を基盤岩としている。また、第四紀層の森吉山及び柴倉岳の火山活動に伴う泥流堆積物・段丘堆積物・扇状地堆積物・河床堆積物・現河床堆積物が小又川に沿う平坦地を中心に被覆している。

当地区の地質を概観すると、小又川を境に右岸側は火山性砕屑岩類が分布し、左岸側には粗粒玄武岩が急崖を形成し、第四紀火山泥流堆積物が広く被覆している。

第2節 歴史的環境

『秋田県遺跡地図(県北版)』によると、森吉町には58箇所の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)が周知されている。その後、秋田県教育委員会による平成4(1992)年度～平成5(1993)年度の森吉山ダム建設事業に係る分布調査と、平成6(1994)年度からの同事業に係る確認調査によって、合計60遺跡が小又川流域の根森田・森吉地区で新しく見つかり、町の遺跡分布図は大幅に塗り替えられた。

これまで森吉町では旧石器時代の遺跡は確認されていなかったが、二重鳥A遺跡、二重鳥B遺跡、ネネム沢A遺跡で旧石器時代の遺物が出土した。

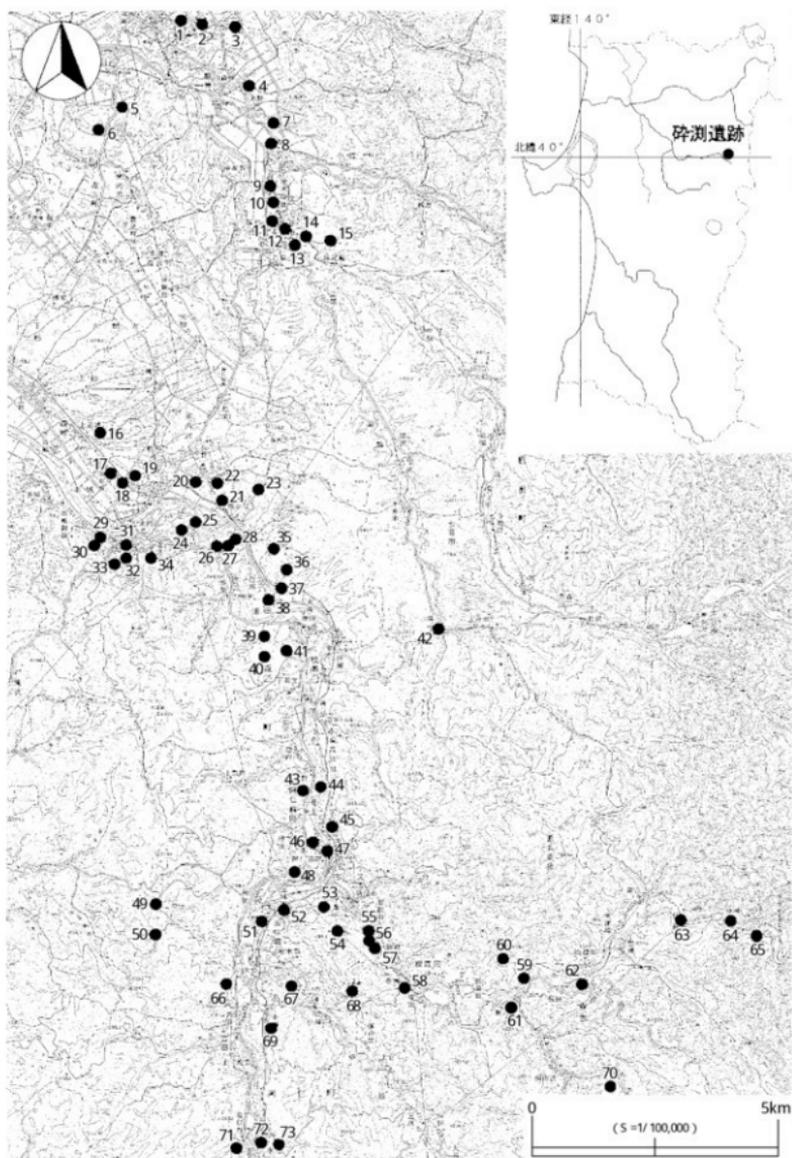
縄文時代の遺跡は、爪形文・貝殻沈線文・条痕文の遺物が出土した早期の桂の沢遺跡、前期の長野岱I遺跡・地藏岱遺跡、前期から後期にかけての大規模な集落跡が確認された狐岱遺跡がある。中期から晩期にかけては、姫ヶ岱C遺跡・姫ヶ岱D遺跡・碓淵遺跡・日廻岱A遺跡・天津場C遺跡・上悪戸D遺跡・深渡遺跡・森吉家ノ前B遺跡・白坂遺跡がある。これらの遺跡の中で、深渡遺跡の石棺様組石、白坂遺跡の『笑う岩偶』は、大きく報道され話題となった。

古代にあっては、現在の森吉町域を含む阿仁川・小阿仁川流域は『日本三代実録』に記す『榎淵村』に擬定されており、律令化外の地として考えられている。古代の遺跡は狐岱遺跡や諏訪遺跡などで平安時代の集落跡、地藏岱遺跡で製鉄関連遺構が確認されており、その他天津場A遺跡・ネネム沢A遺跡・森吉家ノ前A遺跡でも古代の遺構、遺物が確認されている。

中世以降の遺跡はいわゆる中世城館跡が町全域で10箇所確認されているが、森吉山ダム建設区域では確認されていない。しかし、森吉家ノ前B遺跡で馬具の一部と思われる金具と、室町時代に属すると思われる珠洲系陶器が出土しており、当該地域の中世の様相を示す数少ない資料となっている。

引用・参考文献

- 秋田県農政部農地整備課 『大野台開発計画区域 土地分類基本調査 米内沢』 1978(昭和53)年
- 川村公一 『子孫に残す歴史の記録 森吉路 過去から未来へ』 モリトピア選書2
建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所 1993(平成5)年
- 角川書店 『角川日本地名大辞典 5 秋田県』 1980(昭和55)年
- 秋田県教育委員会 『秋田県遺跡地図(東北版)』 1993(平成5)年
- 秋田県 『秋田県史 考古編』 1978(昭和52)年
- 奈良修介・豊島昂 『秋田県の考古学』 郷土考古学叢書3 吉川弘文館 1968(昭和41)年
- 大和久震平 『北秋田郡森吉町米内沢狐岱遺跡調査報告』 『昭和三十二年調査研究報告』 秋田県文化財保護協会 1958(昭和33)年
- 大野憲司 『狐岱遺跡について～1989年の範囲確認調査から～』 『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第5号 1990(平成2)年
- 高橋 学 『森吉町長野岱I遺跡採集の岩偶』 『秋田考古学』 第42号 秋田考古学協会 1993(平成5)年
- 森吉町教育委員会 『平成7年度 埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』 1996(平成8)年
- 森吉町教育委員会 『平成8年度 埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』 1997(平成9)年
- 森吉町教育委員会 『上悪戸D遺跡発掘調査報告書～比内・森吉線地方道改良工事に係る発掘調査～』 1997(平成9)年
- 秋田県教育委員会 『秋田県の中世城館』 秋田県文化財調査報告書第86集 1988(昭和56)年
- 秋田県教育委員会 『白坂遺跡発掘調査報告書～県営園地整備に係る埋蔵文化財発掘調査報告書～』 秋田県文化財調査報告書第244集 1994(平成6)年
- 秋田県教育委員会 『桂の沢遺跡発掘調査報告書～小滝阿仁前田停車場線地方道改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書～』 秋田県文化財調査報告書第247集 1994(平成6)年
- 秋田県教育委員会 『遺跡詳細分布調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第270集 1997(平成9)年



第2図 周辺の遺跡分布図

第2表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	主な時代	遺構・遺物
1	石の巻込Ⅰ	黒瀬町御神字石の巻込60	縄文	縄文土器片(晩期)
2	石の巻込Ⅱ	黒瀬町御神字石の巻込65	縄文	縄文土器片(晩期)、香炉型土器
3	高倉遺	黒瀬町御神字高倉遺16	縄文	縄文土器片(前期・中期)
4	屋株	黒瀬町御神字屋株塚ノ5434	縄文	習六住居跡、Tビッド、縄文土器、土製品、石器、石製品
5	からむし遺Ⅰ	黒瀬町御神字からむし521	続縄文	続縄文土器片
6	からむし遺Ⅱ	黒瀬町御神字からむし5293	続縄文	続縄文土器片、香形土器
7	タモノ木	黒瀬町小森字タモノ木17	縄文	縄文土器片(中期)
8	小森	黒瀬町小森字小森881	縄文	縄文土器片(晩期)
9	根木屋敷遺Ⅰ	黒瀬町七日市字根木屋敷遺20	古代	土師器
10	根木屋敷遺Ⅱ	黒瀬町七日市字根木屋敷遺61	縄文	縄文土器片(晩期・晩期)
11	山の上	黒瀬町七日市字山の上57	縄文	縄文土器片(中期)
12	園の内	黒瀬町七日市字園の内80	縄文	縄文土器片(晩期)
13	石倉遺	黒瀬町七日市字石倉遺31	縄文	縄文土器片(中期)
14	伊勢堂遺	黒瀬町七日市字伊勢堂遺84	縄文	縄文土器片(前期・中期・晩期)
15	野尻	黒瀬町七日市字野尻82	縄文	縄文土器片(晩期)
16	大野	合川町上道城字大野1	縄文	縄文土器片(中期)
17	向本城	森吉町米内沢字本城向屋敷3	縄文	縄文土器片、石鏡
18	桐木遺A	森吉町米内沢字桐木遺41-65	縄文	縄文土器片(晩期)、石器
19	桐木遺B	森吉町米内沢字桐木遺20-23	縄文	縄文土器片、土塊
20	長野田Ⅱ	森吉町米内沢字長野田361	縄文・弥生	縄文土器片
21	長野田Ⅰ	森吉町米内沢字長野田561	縄文・弥生・古代	円形ビッド、組石積、縄文土器片、弥生土器片、土師器、石器
22	根小屋遺	森吉町米内沢字根小屋561	中世	空室
23	根小屋遺	森吉町米内沢字根小屋1-34	縄文・古代	縄文土器片(前期・中期・晩期)、土師器、石器
24	冷水遺	森吉町米内沢字冷水遺771	縄文・古代	縄文土器片(前期・中期・晩期)、土師器、石器
25	凧田	森吉町米内沢字凧田88	縄文・古代	習六住居跡(縄文・古代)、土坑、配石墓、縄文土器片、土師器、石器
26	山崎	森吉町米内沢字山崎571	縄文	土坑、配石遺構、縄文土器片
27	吉野Ⅰ	森吉町米内沢字吉野131	縄文・弥生	土坑、縄文土器片、弥生土器片
28	吉野Ⅱ	森吉町米内沢字吉野51	古代	土師器片
29	御留	森吉町米内沢字御留621	古代	土師器片
30	御留	森吉町米内沢字御留2	中世	空室、土盛
31	寺ノ上Ⅰ	森吉町米内沢字寺ノ上1228	縄文	縄文土器片(晩期)、石鏡、石鏡
32	寺ノ上Ⅱ	森吉町米内沢字寺ノ上271	古代	土師器片
33	米内沢城	森吉町米内沢字米ノ沢出川995	中世	空室、土盛、井戸跡
34	伊勢の森	森吉町米内沢字伊勢ノ森5257	古代	土師器片
35	浦田うるし沢	森吉町浦田字うるし沢501	縄文	縄文土器片、石器
36	比内道下山榎	森吉町浦田字白坂山92	縄文	縄文土器片(晩期)、石器
37	浦田の志	森吉町浦田字浦田の志80	縄文	土器(晩期)、土塊、岩塊
38	白坂	森吉町浦田字白坂上1922	縄文	習六住居跡、土坑、配石遺構、縄文土器、岩塊、石器、土製品
39	豊野堂	森吉町浦田字豊野堂40	縄文	縄文土器片(中期)、石器破片
40	浦田館	森吉町浦田字豊野堂下44	中世	館跡
41	石倉塚	森吉町浦田字石倉塚3	縄文	縄文土器片(前期・中期)、石器
42	若木遺	黒瀬町七日市字若木遺292	縄文	縄文土器片、石器
43	岡山	森吉町阿仁前田字通行沢1361	縄文	縄文土器片
44	下野上野遺	森吉町阿仁前田字下野上野遺345	縄文	縄文土器片
45	下前下山榎	森吉町阿仁前田字下前下山榎36	縄文	縄文土器片、石器
46	前田館	森吉町阿仁前田字八幡館1-1	中世	館跡
47	八幡館	森吉町阿仁前田字八幡館1-1	縄文	縄文土器片(前期・中期)
48	陣場遺Ⅰ	森吉町阿仁前田字陣場遺141-1	縄文	縄文土器片(前期・中期)、石器
49	冷水沢A	上小阿仁村仏社字冷水沢	縄文	縄文土器片(晩期)、石器
50	冷水沢B	上小阿仁村仏社字冷水沢	縄文	縄文土器片(晩期)、石器
51	五味館	森吉町五味館字五味館1	縄文	縄文土器片、石器
52	ボケツ堂	森吉町五味館字堂ノボケツ46	縄文	縄文土器片(晩期)
53	五味館高麗布	森吉町五味館字下夕久久保遺174	縄文	縄文土器片
54	五味館大久保遺	森吉町五味館字大久保遺20	縄文	縄文土器片(晩期)、独鈷石
55	小文小平屋A	森吉町小文字通坪74	縄文	縄文土器片(晩期)、石器
56	小文小平屋B	森吉町小文字上529	縄文	縄文土器片(晩期)、石器
57	片平館	森吉町根倉田字片平館3	縄文	縄文土器片(晩期)、石器
58	埜の沢	森吉町根倉田字埜ノ沢1	縄文	土坑、縄文土器(早期・晩期)、石器
59	桐内A	森吉町根倉字桐内前田5198	縄文	習六住居跡、土坑、土器埋設遺構、縄文土器、弥生土器、石器、土塊
60	仲ノ文館	森吉町根倉田字仲ノ文75	中世	空室
61	郷ノ志	森吉町根倉田字郷ノ志6-15	縄文	縄文土器片、石器
62	榎田	森吉町森吉字榎田二番馬131	縄文	縄文土器片、石器
63	藤ノ瀬	森吉町森吉字藤ノ瀬31-1	縄文	縄文土器片(前期)
64	特洞	森吉町森吉字特洞	縄文	縄文土器片(中期・晩期)
65	深渡	森吉町森吉字深渡家の前	縄文	縄文土器(前期・晩期)、石鏡伊
66	風張城	阿仁町吉田字寺屋敷1-7	中世	空室、井戸跡
67	花館	森吉町五味館字野崎1-62	中世	空室
68	天館	森吉町五味館字天館101	中世	館跡
69	高田館	阿仁町小瀬字山ノ内65-32	中世	空室
70	桐内沢清具倉遺	森吉町森吉字清具倉遺246	縄文	縄文土器片(晩期・晩期)
71	熊堂	阿仁町水無字浦口内451-1	縄文	縄文土器片(中期)、石器
72	上田Ⅰ	阿仁町水無字上田1042	縄文	習六住居跡、フラスコ状土坑、縄文土器(中期・晩期)
73	上田Ⅱ	阿仁町水無字上田1362	縄文	縄文土器片(中期)

第3章 発掘調査の概要

第1節 遺跡の概観

砂淵遺跡は森吉山の北麓を西流する小又川右岸に立地する。本遺跡は、南西に張り出した舌状台地上の平坦面にあり、調査区の標高は194～196mである。遺跡の現況は、ほぼ全域が荒蕪地で、南西部を除いた遺跡平坦面は地山面まで削平されており、遺物包含層がほとんど失われている。

第2節 調査の方法

1 野外調査

調査の方法はグリッド法で行った(第3図)。対象面積全域にグリッドを設定するため、建設省打設の3級基準点No.23を原点の基準杭とした。この基準杭を通る日本測地系平面直角座標第X系の南北方向に南北基準線X軸を設定した。またこの基準線と直交して原点の基準杭を通る線を東西基準線Y軸とし、これらX・Y軸に両軸に4×4mの方眼メッシュを割り付けた。

原点をMA50とし、東西方向には、Y軸上を西に4m進む毎にMB・MC・MD・・・と正順に、東に4m進む毎にLT・LS・LR・・・と逆順に各々A～Tまでの、2文字のアルファベットの組み合わせを付した。南北方向には、X軸を北に4m進む毎に51・52・53・・・、南に4m進む毎に49・48・47・・・と増減する2桁のアラビア数字を付した。各グリッドの呼称は、南東隅に杭を通るX軸とY軸の組み合わせで、MA50・MB51・MC52・・・のように呼ぶこととした。

遺構は、種別を問わず確認した順に01から番号を付し、精査を行った。また番号を登録した後、遺構と判断されなかったものについては欠番とした。原則として半截または十字に土層断面観察用のベルトを残して、2または4分割法による精査を行った。

遺物は、遺構内出土のものは、遺跡名・出土遺構・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入し、遺構外出土のものは遺跡名・出土グリッド・出土層位・出土年月日を記入した袋に入れ、取り上げた。調査の記録として図面と写真によった。平面図及び断面図を原則として1/20の縮尺で作成し、土器埋設遺構や炉跡などは細部に状況を表すため1/10の縮尺で作成し、それぞれにレベルを記入した。

作図について、基本的に平面図はトータルステーションによる機械実測で作成し、土器埋設遺構、炉跡など一部を手実測で作成した。断面図はすべて手実測によって作成した。断面図には、土色・しまり・粘性・土性・混入物を注記し、必要に応じてエレベーション図も作成した。

発掘調査における写真撮影は、遺構・遺物を対象とする地上撮影を行い、発掘調査終了の際は全景写真を撮影するためラジコンヘリによる空中撮影を行った。写真は35mmカメラを使用し、フィルムはモノクロ、カラーリバーサル、ネガカラーを使用した。

2 室内整理

各遺構は、現場で作成した図を第1原図とし、これをもとに平面図と断面図を組み合わせた図を第2原図とした。平面図を手実測で作成した図は断面図と組み合わせてから、スキャナーで読み込み、

遺跡管理システムで第2原因を作成した。トータルステーションのデータはすべて遺跡管理システムで処理し、第2原因を作成した。また、トレースはすべてプロッターによった。

遺物は、洗浄・注記の後、報告書に記載する遺物の選別を行い、その後は基本的に1/1で実測図を作成し、報告書に掲載するにあたっては適宜縮尺を変え、トレースした。図にはスケールを入れて示した。また、土器片などは拓影図の作成を合わせて行い、これらの作業後写真撮影を行った。

第3節 調査の経過

第1週(5月17日～18日)発掘機材、ベルトコンベアーの搬入、事務所周辺の条件整備を行った。調査区南西部斜面にトレンチを4本設定し、掘削を開始した。2トレンチより縄文時代後期の土器が出土した。

第2週(5月21日～25日)調査区南西部から粗掘を開始する。21日芳賀所長、児玉副主幹来跡。25日、㈱シン技術コンサル来跡。

第3週(5月28日～6月1日)調査区南西部から中央部にフラスコ状土坑20基を検出。29日、杉湖北調査課長、労務士宮川氏来跡。31日、杉湖北調査課長の指示で排土全体にシートを被せる。6月1日、森吉山ダム工事事務所川村調査設計課長、笹木専門職が来跡。排土の扱いについて指示があった。

第4週(6月4日～8日)調査区中央部でフラスコ状土坑12基を検出。ME52グリッドで焼土遺構1基を検出。5日、杉湖北調査課長、鷹巣高等学校牧野教諭来跡。7日、鈴木文化財保護室長、大野副主幹、杉湖北調査課長、嶋田主査来跡。

第5週(6月11日～15日)すべての粗掘を終了し、ベルトコンベアーを撤収した。SKF45の底面からほぼ完形の深鉢形土器が出土した。15日、加藤が森吉山ダム工事事務所主催の安全パトロールに参加した。

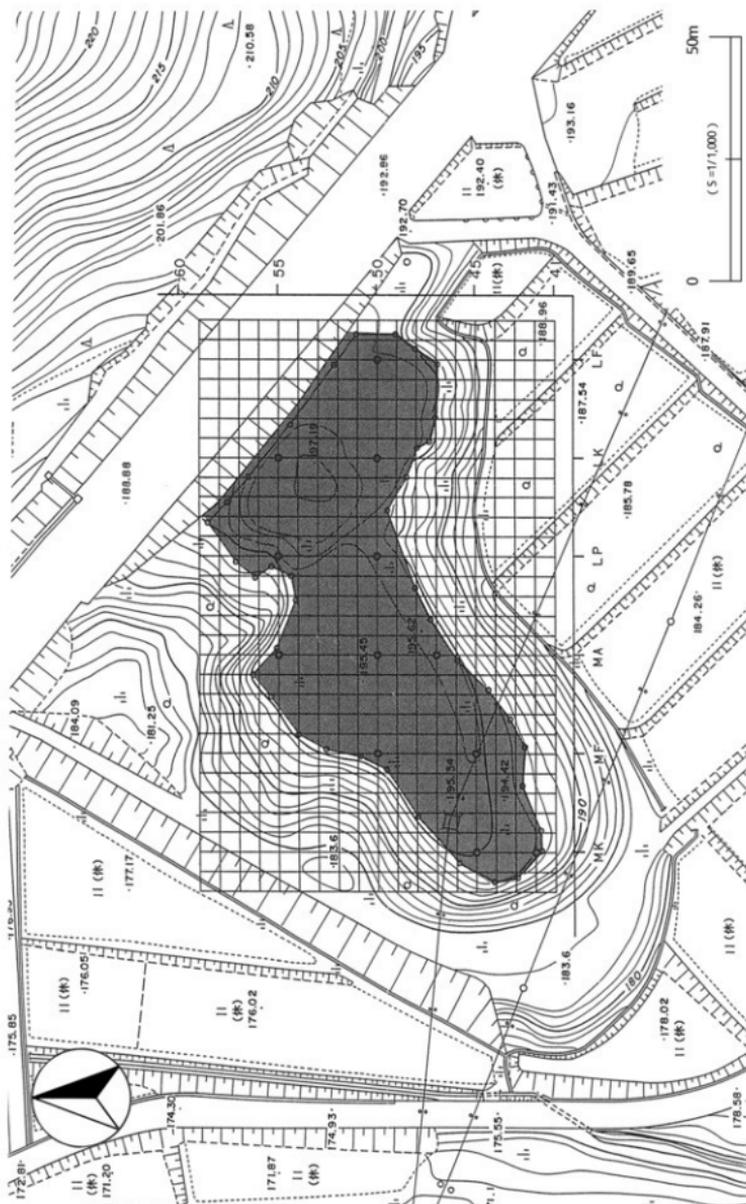
第6週(6月19日～22日)粗掘が終了し、精査作業に入ったが、天候が不順なため調査が難航する。21日、前田集落基幹センターで作業員の健康診断を行った。

第7週(6月25日～29日)調査区北西部のフラスコ状土坑群の精査を中心に作業を進める。26日、櫻田南調査課長、児玉副主幹、安全衛生管理者佐々木氏来跡、調査区内を視察し、安全衛生についての指示があった。

第8週(7月2日～6日)調査区南西部で複式炉を伴う竪穴住居跡1軒を検出。3日、文化財保護室谷地学芸主事、児玉副主幹来跡。

第9週(7月9日～13日)調査区北東部で竪穴住居跡1軒を検出。床面より縄文時代後期の土器片がまとめて出土した。11日、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。

第10週(7月16日～19日)調査期間終了間際になって遺構を多数検出したため、非常勤職員鈴木博文、松橋淳、成田雄毅、田中多喜子、藤原泰史、横山香菜子が実測の応援に来る。亀甲形の掘立柱建物跡2棟を検出する。SKF104の底面からほぼ完形の台付鉢形土器が出土した。すべての遺構精査が終了し、現場撤収作業を行う。16日、杉湖北調査課長来跡。19日、調査終了。



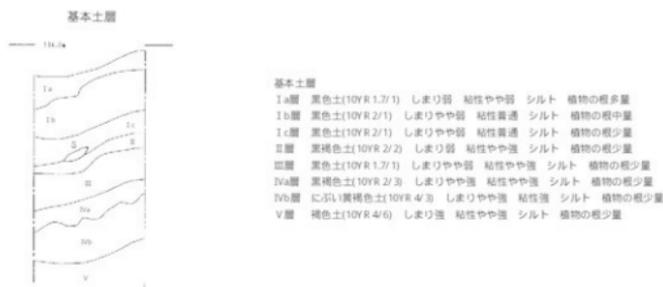
第3図 グリッド配置図

第4章 調査の記録

第1節 基本層位

砂測遺跡の発掘調査では、基本土層を南西側斜面に設定した。大別してV層に分層した。遺跡全体が耕地整理され、平坦面では地山まで削平を受けている。一部段丘縁辺にのみ良好に遺物包含層が残存していた。

- I a層 近～現代の表層である。
- I b層 表層直下の層。近～現代の遺物を含む。
- I c層 近世以降に堆積したクロボク土と考えられる。
- II層 再堆積層と考えられ、部分的に細粒状のバミスを含む。
- III層 地山漸移層上に形成され、縄文時代中期から後期の遺物を包含する層である。調査区南西部斜面にのみ残存する。
- IV層 地山漸移層で遺物は包含しない。調査区南西部斜面にのみ残存する。
- V層 地山層である。遺物の確認の大半はこの層の上面で行った。

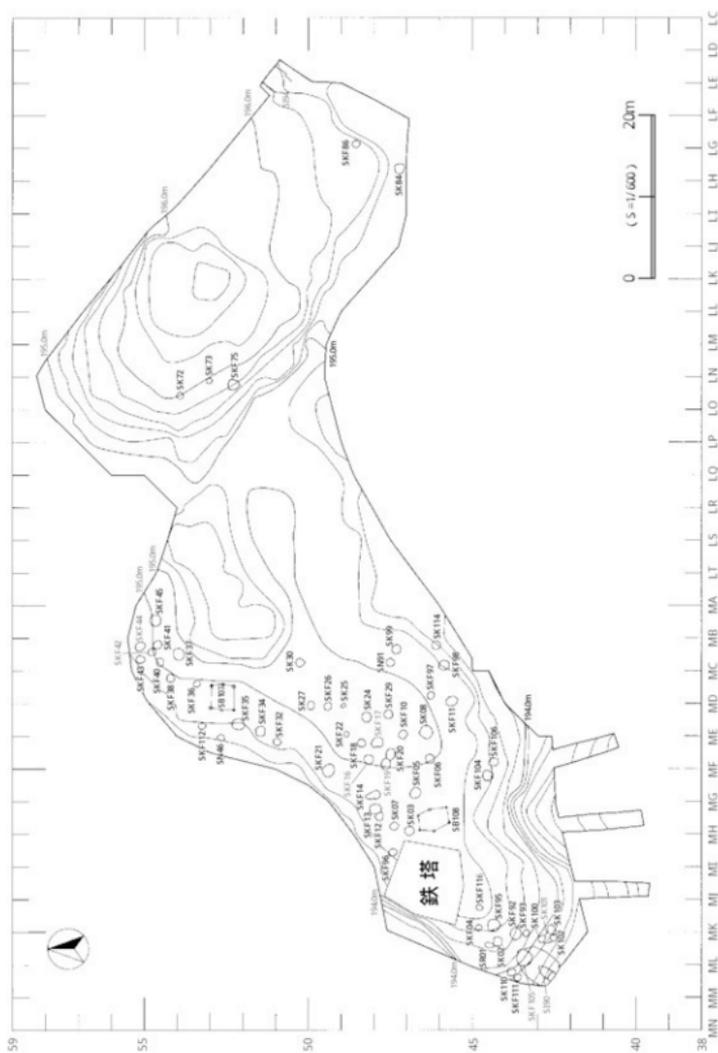


第4図 基本土層図

第2節 検出遺構と出土遺物

概要

砂測遺跡で検出された遺構は竪穴住居跡2軒、土器埋設遺構1基、焼土遺構2基、掘立柱建物跡2棟、土坑36基、フラスコ状土坑43基、柱穴樫ビット85基の計171基であった。各遺構の構築時期は、遺物の出土がなく不明瞭なものもあるが、概ね縄文時代中期末葉から縄文時代晩期前葉であり、遺物の出土状況から縄文時代後期が主体となると考えられる。遺構の分布は遺跡西半、特に遺跡南西端、遺跡北西端といった段丘の縁辺に集中する。また、旧集落の耕地整理や基地の造成により、遺跡の大半が上部削平を受けている。



第5図 遺構配置図

1 竪穴住居跡

竪穴住居跡は2軒検出し、所属時期は縄文時代中期末葉1軒、縄文時代後期後葉が1軒である。

SI 90竪穴住居跡(第6～9図、図版2・16)

M K 42・43、M L 42・43グリッドに位置する。地山面精査中に複式炉を確認し、サブトレンチを入れて掘り下げ、平面形を確認した。北西側でS K F 105と重複し、本遺構が古い。

平面形は耕地整理の際上部が削平を受け、南西側が斜面の崩落により大半が消失しているが、東壁は良好に残存する。推定で長軸(北東-南西)約5m、短軸(北西-南東)約4mの楕円形を呈していたと考えられ、長軸方向はN39°Eである。

壁は壁高が29～39cmで、急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

柱穴は2基確認し、P1は深さ16cm、P2は31cmといずれも浅い。複式炉の土器埋設部を挟んで対称的に配置されており、主柱穴と考えられる。

炉は住居の南西部で土器埋設部、石組部、前庭部からなる複式炉を検出した。土器埋設部は中期末葉の深鉢形土器胴部上半(第8図1)を正位に埋設し、周囲に礫を配している。1は単節L Rの斜行縄文を施し、内面・外面ともに煤状炭化物が付着している。石組部は扁平な大礫を側面に配しており、内面側は被熱していた。土器埋設部との間には大礫を縦に配していた。掘り込みの底面は一部硬化しており、本来礫が敷かれていたものを抜き取ったと考えられる。前庭部は楕円形を呈し、立ち上がりはほぼ垂直で、底面は平坦である。

遺物は縄文土器片が58点(第8図2～9)、スクレイパー3点(第9図10～12)、R F 1点、剥片1点、敲磨器類1点(第9図13)が出土した。6、7は同一個体の深鉢形土器で、口縁部は沈線で区画して無文帯を形成し、胴部には単節L Rの斜行縄文を施す。6はその無文帯に斜位に粘土紐を貼り付ける。8、9は縄文時代中期中葉に比定され、8は鉢形土器の口縁部に縄文原体の側面圧痕を施し、胴部には単節L Rの斜行縄文を施す。9は隆線で方形を区画し、区画に沿って縄文原体の側面圧痕を施す。区画内は無文である。10は一側縁を背面から、11は一側縁を背面、一側縁を腹面から、12は側縁全面を背腹両面から剥離調整し、刃部を形成する。13は角礫の端部に敲打痕を有する。

SI 94竪穴住居跡(第10～13図、図版3・16)

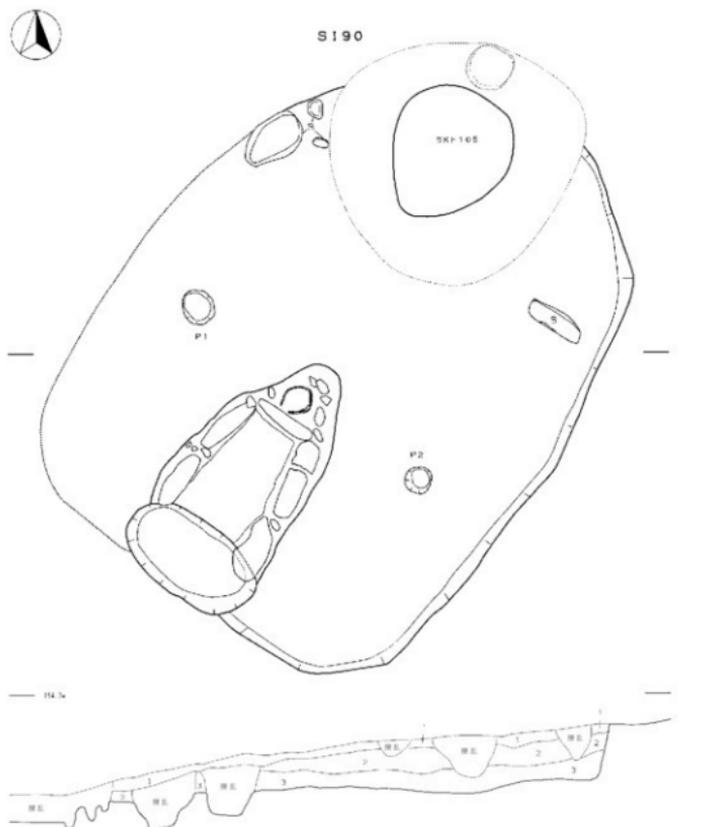
L D 50・51、L E 50・51グリッドに位置する。地山直上面の遺物集中箇所を精査中に炉を検出したため、竪穴住居跡と認定した。

平面形は宅地造成時に上部が削平、南東側が水道管敷設による攪乱を受けているため、大半が消失しているが、良好に残存する西壁がゆるやかな弧を描いていたことと、西壁から225cm離れたところで検出した炉が住居の中心部に構築していると仮定すれば、約4～5mの略円形を呈すると考えられる。

壁の立ち上がりはほとんど残存しないため不明である。床面はほぼ平坦である。

柱穴は7基確認した。この中でP2～7は平面形が不整で、深さ3～20cmと掘り込みが浅く、本遺構に伴うかは不明である。P1は平面形が円形で、深さ26cmと掘り込みが深く、本遺構に伴う柱穴となりうる。

炉は平面形が長軸62cm、短軸52cmの略円形を呈する。掘り込みの底面には大型の凹んだ礫を中心に、周囲に中型の円礫を敷き詰め、壁に同一個体の深鉢形土器の破片を立て並べていた。壁となる土器片は縄文時代後期後葉に比定される無文で器面調整のみ施された深鉢形土器の胴部上半(第11図14)で

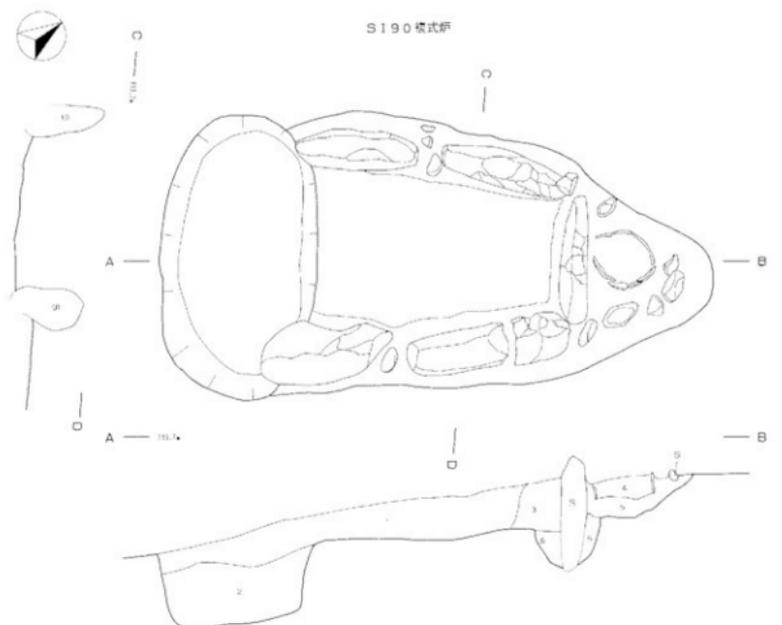


S190

- 1 黒色土(10YR 2/1) しまり器 粘性普通 シルト 植物根が多い 現代の表土
 2 にごり黄褐色土(10YR 4/3) しまりやや器 粘性やや弱 シルト
 地山土塊(10~50mm)30%混入
 3 褐色土(10YR 4/4) しまりやや器 粘性やや弱 シルト
 地山土塊(10~50mm)30%混入

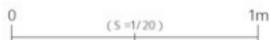
0 (S=1/40) 2m

第6図 S190竪穴住居跡

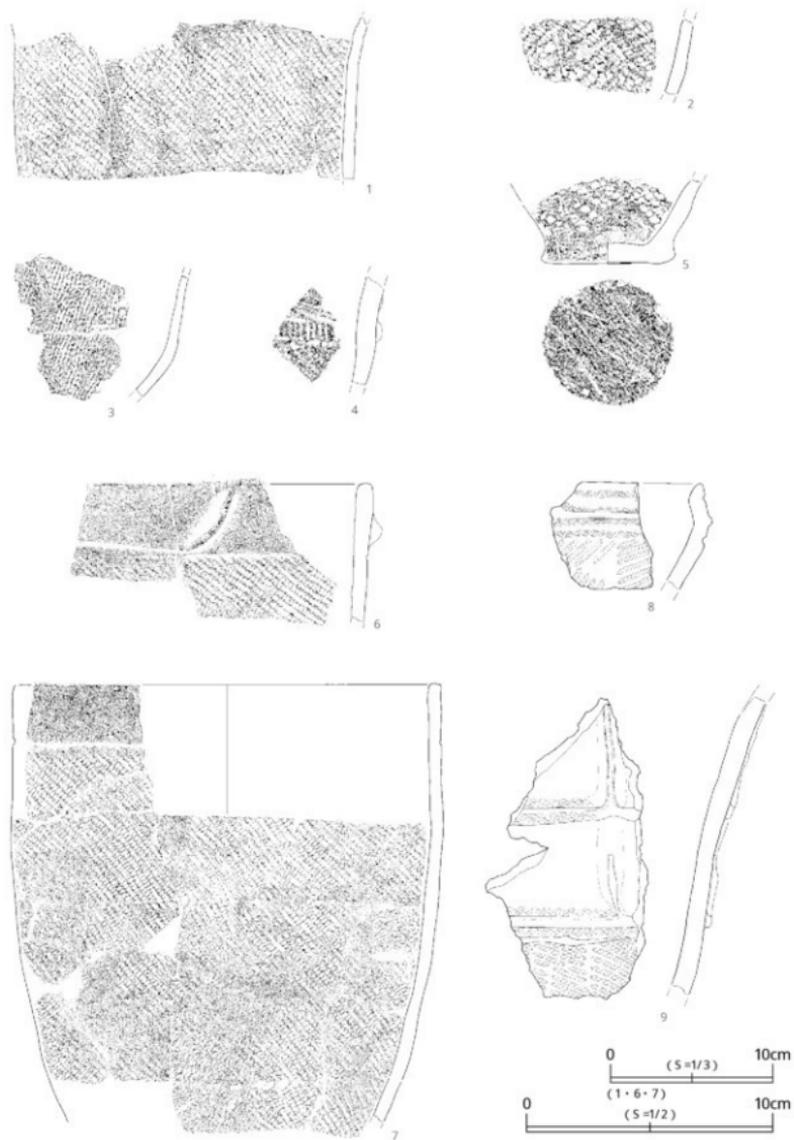


SI 90複式炉

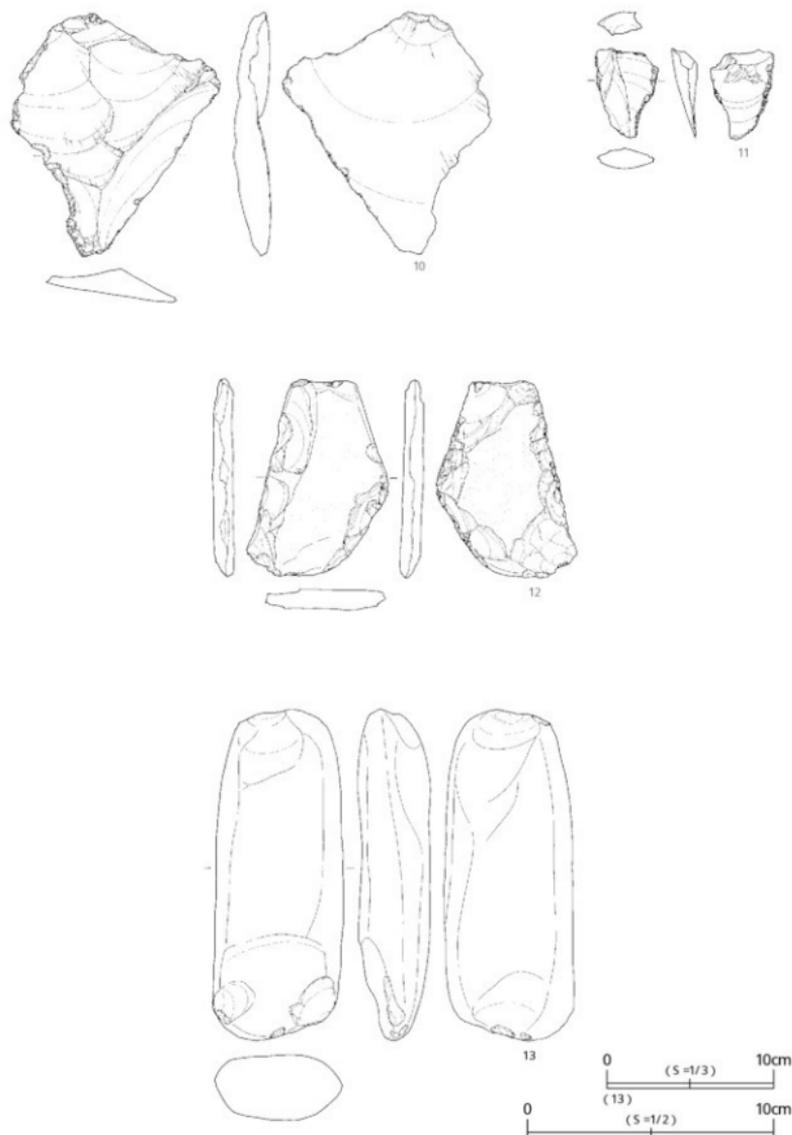
- 1 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)5%混入
- 2 褐色土(10YR 4/4) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)10%混入
- 3 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土粒(5-10mm)10%混入
- 4 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまり弱 粘性弱 シルト
地山土粒(2-5mm)3%混入
- 5 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)5%混入
- 6 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまり普通 粘性やや強 シルト
地山土粒(5-10mm)30%混入



第7図 SI 90竪穴住居跡複式炉



第8図 SI 90竪穴住居跡出土土器



第9図 SI90竪穴住居跡出土石器



SI 94(東西ベルト)

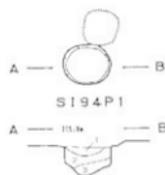
- 1 黒褐色土(10VR 2/2) しまり普通 粘性弱 シルト-細砂
地山土塊(10mm)5%、炭化物(5mm)1%混入
- 2 黒褐色土(10VR 2/3) しまり強 粘性普通 シルト
地山土塊(20mm)20%、炭化物(1mm)1%混入
P4の覆土
- 3 黒褐色土(10VR 2/3) しまり強 粘性強 粘土
地山土塊(10-30mm)40%、炭化物(3-5mm)1%混入
P3の覆土
- 4 黒褐色土(10VR 2/3) しまり強 粘性強 粘土
地山土塊(5-10mm)10%、炭化物(1-3mm)1%混入
P2の覆土

SI 94(南北ベルト)

- 1 黒褐色土(10VR 2/2) しまり普通 粘性弱 シルト-細砂
地山土塊(10mm)5%、炭化物(5mm)1%混入

LD51P01

- 1 黒褐色土(10VR 2/3) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土塊(5-10mm)20%、炭化物(1mm)1%混入
- 2 明黄褐色土(10VR 6/6) しまり弱 粘性強 粘土
黒色土(10VR 2/1)まだら状に20%混入
- 3 黒褐色土(10VR 2/3) しまり強 粘性普通 シルト
地山土塊(5mm)3%混入

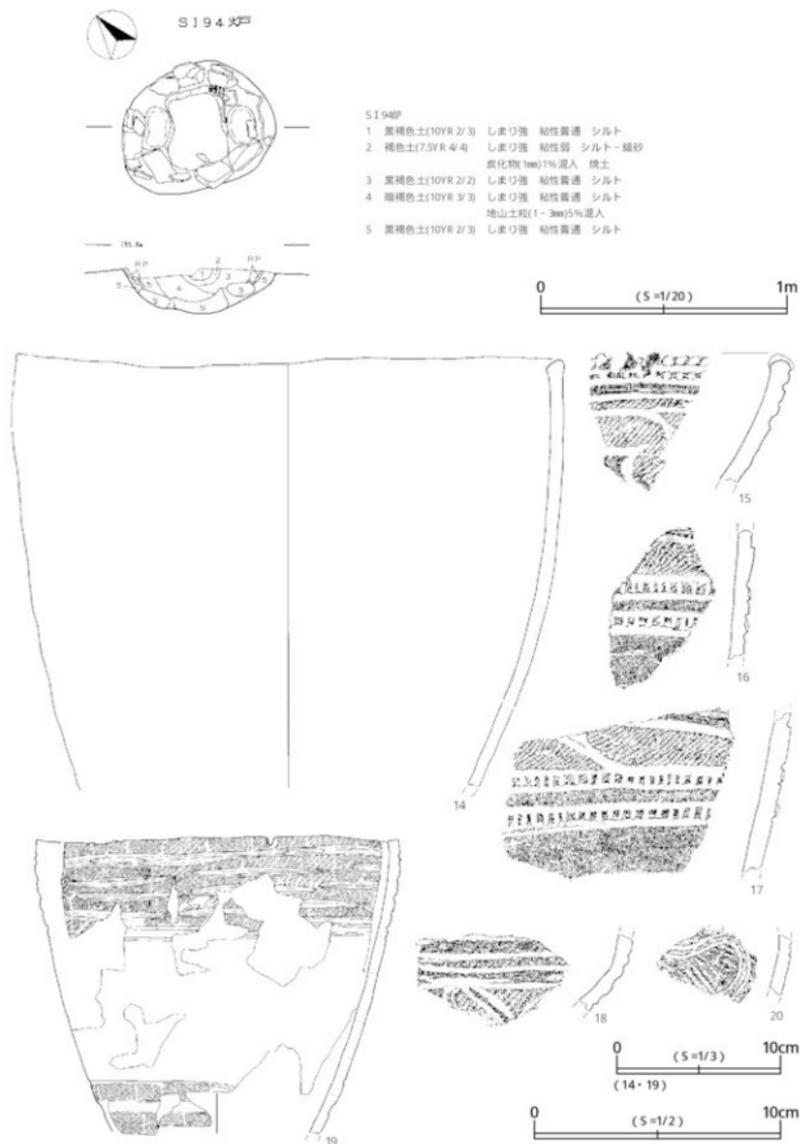


SI 94P1

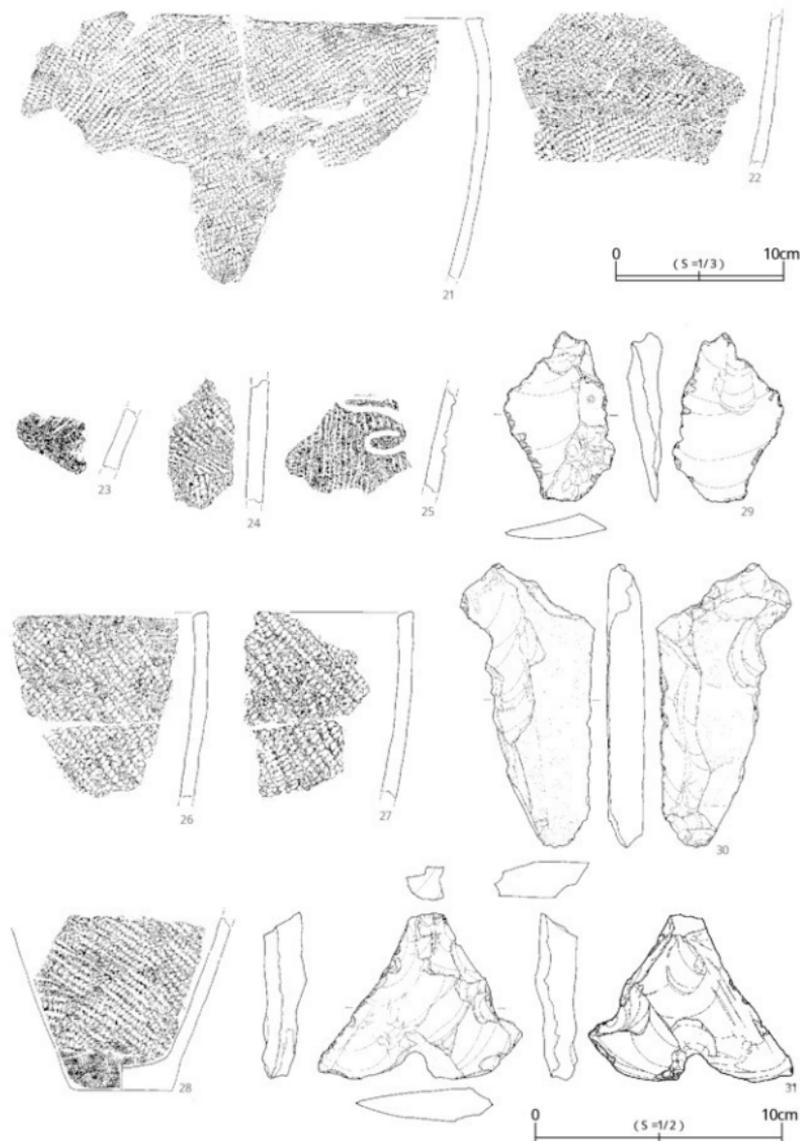
- 1 黒色土(10VR 2/1) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土塊(2-5mm)3%、炭化物(1-5mm)3%混入
- 2 黒褐色土(10VR 2/2) しまりやや強 粘性やや強 シルト
地山土塊(5-20mm)5%、炭化物(2-5mm)3%混入
- 3 黒褐色土(10VR 2/3) しまりやや強 粘性やや強 シルト
地山土塊(10-50mm)20%、炭化物(2-5mm)1%混入



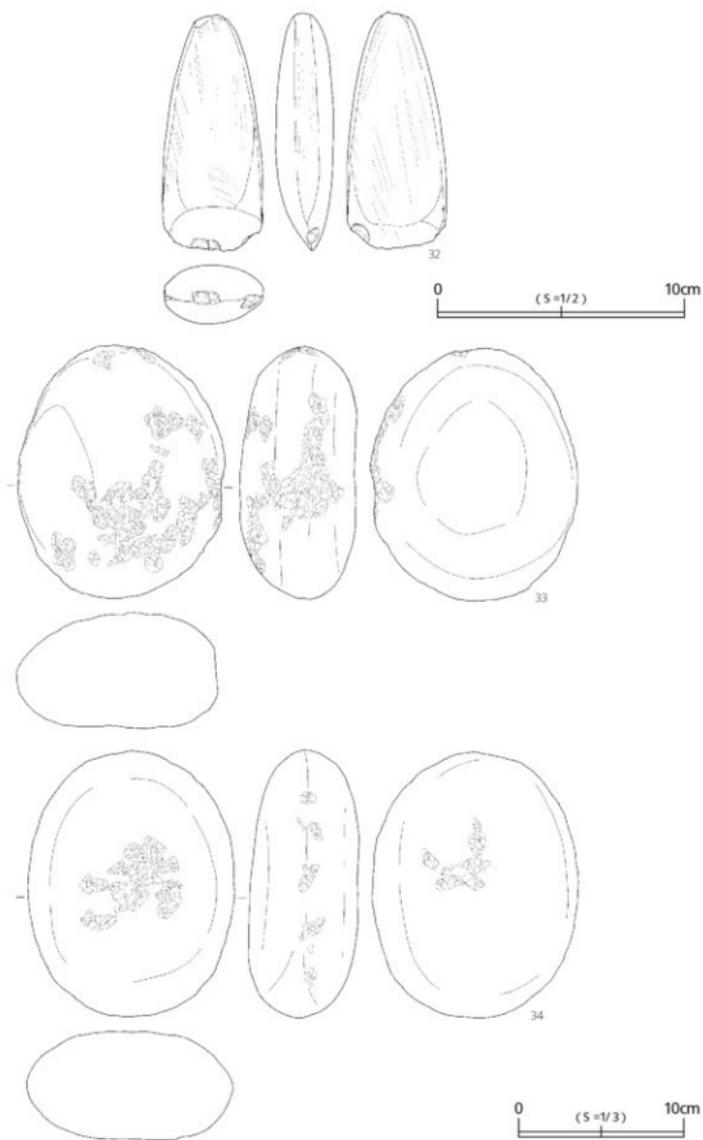
第10図 SI 94竪穴住居跡



第11図 S194穴戸住居跡炉・出土土器



第12図 SI 94竪穴住居跡出土土器・石器



第13図 SI 94竪穴住居跡出土石器

ある。礫、土器片の被熱痕は少なく、炉としての使用頻度が少ないと考えられる。

遺物はほぼ完形の深鉢形土器1点（第11図19）縄文土器片97点（第11・12図15～18、20～28）、スクレイパー4点（第12図29～31）、磨製石斧1点（第13図32）、敲磨器類4点（第13図33・34）、RF1点、剥片3点が出土した。19は縄文時代後期中葉に比定され、口縁部は単節LRの斜行縄文に平行沈線を施し、胴部下半には入組状の磨消縄文を施す。15～18は縄文時代後期後葉に比定され、15は入組状の磨消縄文を施す。16・17は入組状の磨消縄文の下に平行沈線を施し、沈線間には刻みが入る。29は一側縁を背面から、一側縁を背腹両面から剥離調整し、刃部を形成する。32はいわゆる定角式磨製石斧で刃部が一部欠損する。33・34は円礫の礫平坦面中央部にアバタ状の敲打痕が見られる。

2 土器埋設遺構

土器埋設遺構は1基検出した。所属時期は縄文時代中期末葉から後期前葉と考えられる。構造が炉と類似しているが、竪穴住居に伴う炉としての確証は無く、土器埋設遺構として扱った。

S R01土器埋設遺構（第14図、図版4・17）

M K44グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。南東側でS K02と重複し、本遺構が古い。

平面形は3つの掘り込みが連続した形であり、長軸108cm、短軸69cmの不整な楕円形を呈する。南側の掘り込みが深く、確認面からの深さは49cmである。中央の掘り込みには礫が3個配され、礫の内側には煤状炭化物が付着する。北側の掘り込みには縄文時代中期末葉～後期前葉と考えられる深鉢形土器（第14図35）の上半が正位に埋設される。35は口縁部に単節LRの斜行縄文を施し、胴部には施文方向を変え、単節LRと無節Lの二つの斜行縄文を施している。外面には煤状炭化物が付着する。

周囲で柱穴や周溝は見つからなかった。

3 焼土遺構

焼土遺構は2基検出した。所属時期はS N46は不明で、S N91は縄文時代後期中葉と考えられる。構造が炉と類似しているが、2基とも竪穴住居に伴うものか単独の屋外炉か判明できなかったため、焼土遺構として扱った。

S N46焼土遺構（第15図、図版5）

M D・M E52グリッドに位置する。地山面精査中に礫が配されていることを確認した。

平面形は長軸68cm、短軸62cmで、径10～23cmの礫を不整な楕円形に配し、礫には被熱痕が見られた。掘り込みは確認できず、確認面で幅24cm、厚さ4cmの焼土層を確認した。

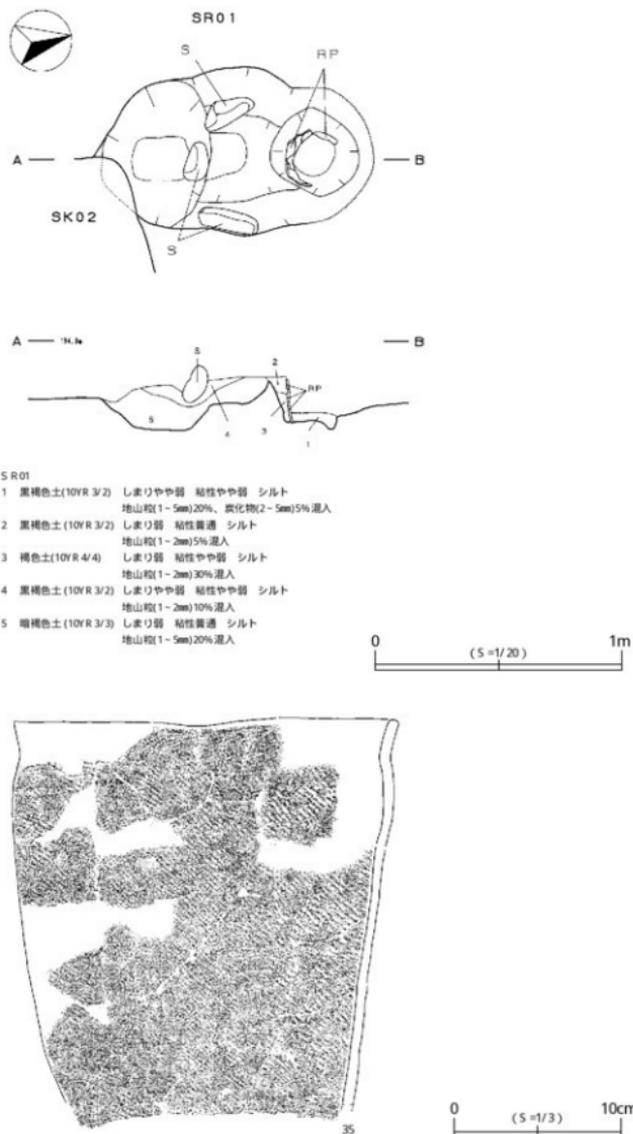
遺物は出土しなかった。周囲から柱穴や周溝は確認できなかった。

S N91焼土遺構（第15図、図版5・17）

M B47グリッドに位置する。地山面精査中に円形に配した礫を確認した。

平面形は長軸75cm、短軸65cmで、径14～20cmの礫を円形に配する。下部に長軸103cm、短軸101cm、高さ17cmの不整な円形を呈する掘り込みを有する。上位で幅33cm、厚さ5cmの焼土層を確認した。

遺物は縄文土器片3点（第15図36～38）が出土した。36は後期中葉に比定される深鉢形土器の胴部で磨消縄文を施す。37は単節LRの斜行縄文を、38は網目状撚糸文を施す。周囲から柱穴や周溝は確認できなかった。



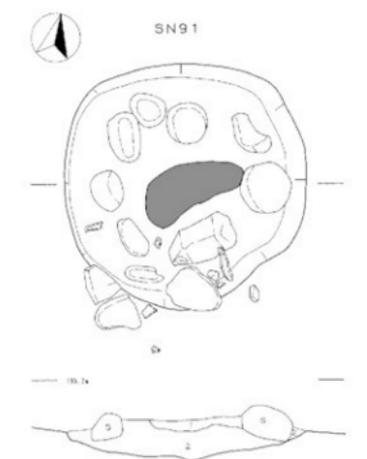
第14図 SR01土器埋設遺構・出土土器



SN46

SN46

- 1 明赤褐色土(SYR 5/6)
しまり薄 粘性弱 シルト 焼土



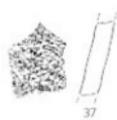
SN91

SN91

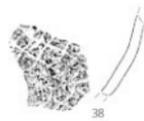
- 1 明褐色土(7.SYR 5/6)
しまり薄 粘性極めて弱 細砂
焼土 炭化物(1mm)1%混入
- 2 褐色土(10YR 4/6)
しまり薄 粘性強 シルト-粘土
焼土粒(1-3mm)1%混入



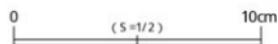
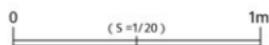
36



37



38



第15図 SN46・91焼土遺構、SN91出土土器

4 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は2棟検出した。所属時期はいずれも不明であるが、遺跡が縄文時代中期末葉～晩期前葉に利用されていることから、いずれかの時期に属すると考える。2棟とも亀甲形を呈する。詳細は不明であるが、同様の性格を持つ構築物であった可能性がある。以下に概要を記す。

S B 107掘立柱建物跡（第16図、図版6）

M C 52、M D 52・53グリッドに位置する。直径30～46cm、確認面からの深さが18～36cmの6基の柱穴からなる。柱穴の配置は亀甲形を呈する。柱穴4基（P1・2・5・6）からなる柱穴間とはともに約2.9mである。長軸方向はN 6° Wである。

覆土は黒褐色土の単一層が主体で、柱穴痕は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

S B 108掘立柱建物跡（第17図、図版6）

M G 45・46グリッドに位置する。直径26～33cm、確認面からの深さ18～28cmの6基の柱穴からなる。柱穴の配置は亀甲形を呈する。柱穴4基（P1・2・5・6）からなる柱穴間は長軸3.72m、短軸1.92mである。長軸方向はN14° Eである。

覆土は黒褐色土を主体で、柱穴痕は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

5 土坑

土坑は36基検出した。そのほとんどが遺物の出土が少なく、詳細な時期や性格は不明であるが、遺跡の利用された時期から縄文時代中期末葉から晩期前葉に構築されたと考えられる。S K 03、07、30、99土坑は一部オーバーハングしており、フラスコ状土坑の可能性があるが、ここでは土坑として扱った。

S K 02土坑（第18・22図、図版7）

M K 44グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。S R 01と重複し、本遺構が新しい。

平面形は長軸127cm、短軸125cmの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは70cmである。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

覆土は5層に分層した。全体的にしまりが弱く、中位で地山土粒を多量に含んでおり、人為堆積と考えられる。遺物は中位から縄文土器の小破片3点とスクレイパー1点（第22図41） 敲磨器類1点（第22図42）、礫1点が出土した。41は一側縁を背腹両面から剥離調整を加え、刃部を形成している。42は円礫の礫平坦面の中央部に磨痕と敲打痕、側縁に敲打痕を有する。

S K 03土坑（第18図、図版7）

M G 46・47、M H 46・47グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

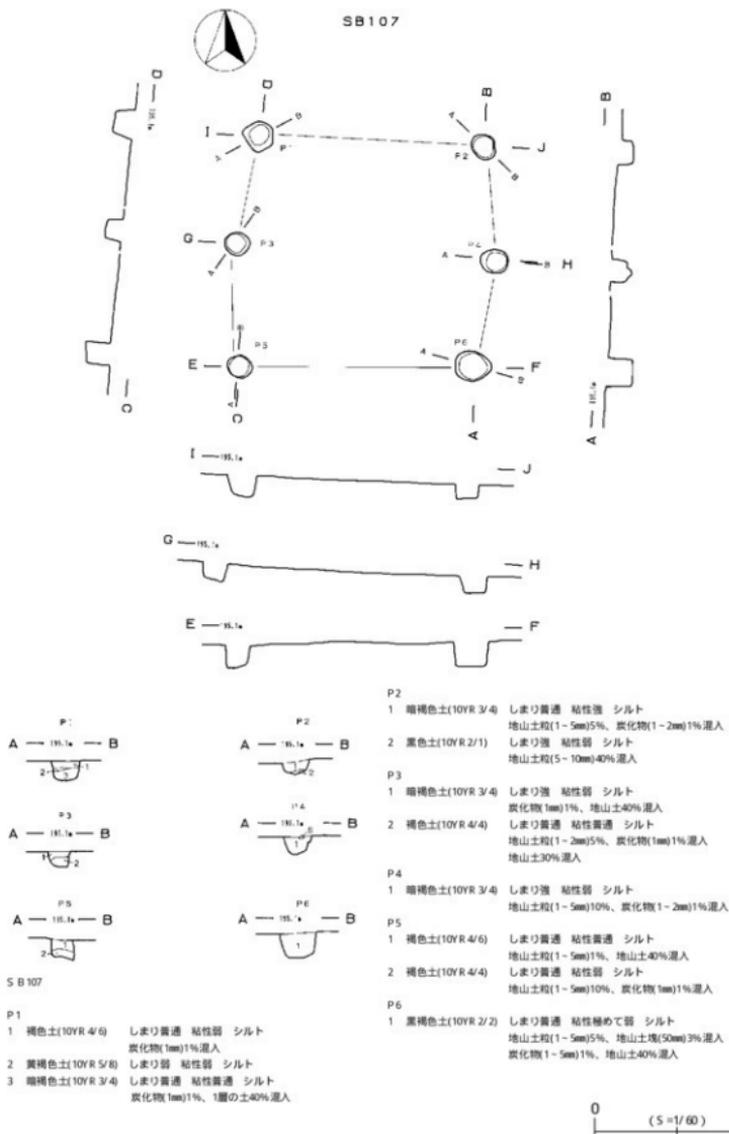
平面形は長軸122cm、短軸114cmの円形を呈し、確認面からの深さは26cmである。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。東側が一部オーバーハングしており、フラスコ状を呈していた可能性がある。

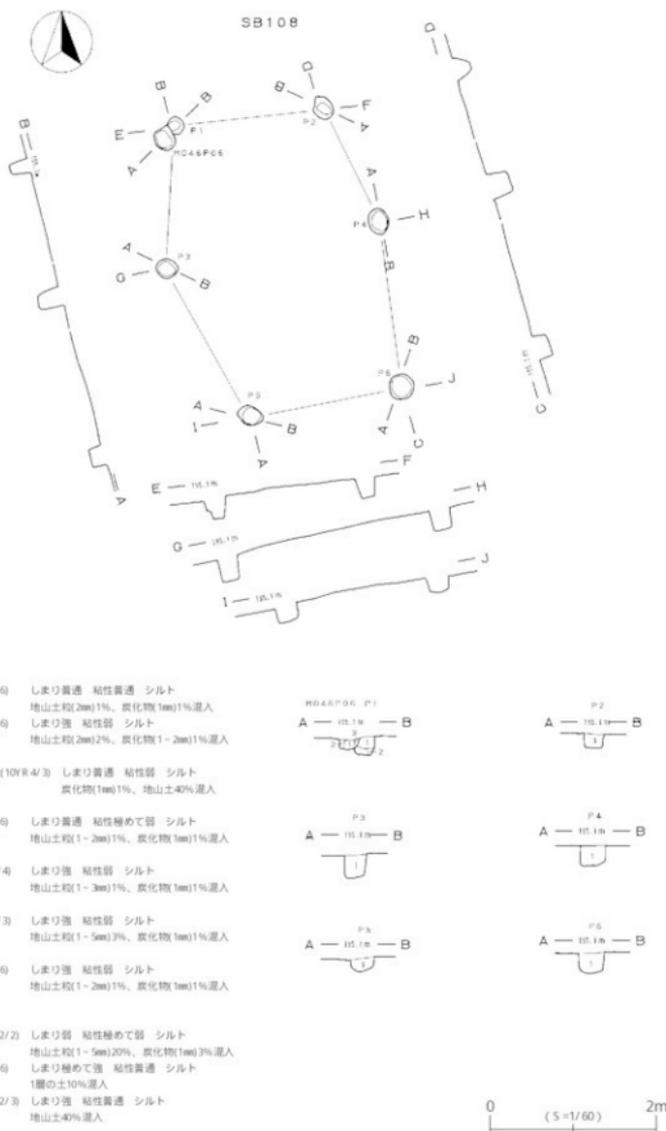
覆土は5層に分層した。覆土全体に地山土が混入しており、人為堆積と考えられる。遺物は、中位から縄文土器小破片が2点が出土した。

S K 07土坑（第18図、図版7）

M G 47グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。



第16図 SB107掘立柱建物跡



SB108

P1

1 褐色土(10YR 4/6) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(2mm)1%、炭化物(1mm)1%混入

2 褐色土(10YR 4/6) しまり強 粘性弱 シルト
地山土粒(2mm)2%、炭化物(1~2mm)1%混入

P2

1 に石い黄褐色土(10YR 4/3) しまり普通 粘性弱 シルト
炭化物(1mm)1%、地山土40%混入

P3

1 褐色土(10YR 4/6) しまり普通 粘性極めて弱 シルト
地山土粒(1~2mm)1%、炭化物(1mm)1%混入

P4

1 褐色土(7.5YR 4/4) しまり強 粘性弱 シルト
地山土粒(1~3mm)1%、炭化物(1mm)1%混入

P5

1 褐色土(7.5YR 4/3) しまり強 粘性弱 シルト
地山土粒(1~5mm)3%、炭化物(1mm)1%混入

P6

1 褐色土(10YR 4/6) しまり強 粘性弱 シルト
地山土粒(1~2mm)1%、炭化物(1mm)1%混入

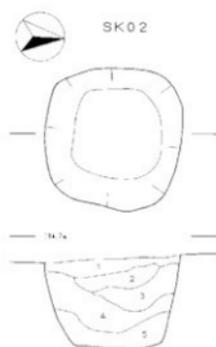
MG46P06

1 黄褐色土(10YR 2/2) しまり弱 粘性極めて弱 シルト
地山土粒(1~5mm)20%、炭化物(1mm)3%混入

2 褐色土(10YR 4/6) しまり極めて強 粘性普通 シルト
1層の土10%混入

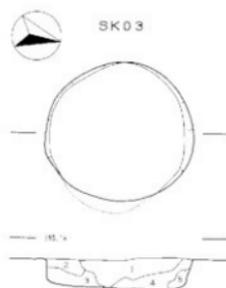
3 黄褐色土(10YR 2/3) しまり強 粘性普通 シルト
地山土40%混入

第17図 SB108掘立柱建物跡



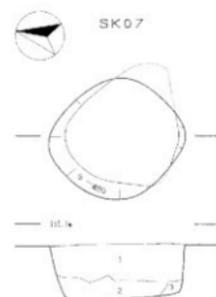
SK02

- 1 黒褐色土(10YR 2/3) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土粒(1-2mm)3%、地山土粒(10mm)1%混入
炭化物(1-2mm)3%混入
- 2 褐色土(10YR 4/4) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土粒(1-30mm)30%、炭化物(1mm)1%混入
地山土7%混入
- 3 暗褐色土(10YR 3/3) しまり弱 粘性普通 シルト-細砂
地山土粒(1-45mm)10%混入
- 4 暗褐色土(10YR 3/4) しまり弱 粘性やや強 シルト-細砂
地山土粒(1-50mm)20%、炭化物(3mm)1%混入
- 5 褐色土(10YR 4/4) しまり弱 粘性強 シルト
地山土粒(1-3mm)5%、黄褐色土(10YR 5/6)7%混入



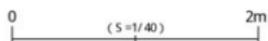
SK03

- 1 黒褐色土(10YR 2/3) しまり強 粘性普通 シルト
地山土粒(2-5mm)20%混入
- 2 暗褐色土(10YR 3/3) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)5%混入
- 3 暗褐色土(10YR 3/4) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土粒(2-5mm)10%、地山土5%混入
- 4 褐色土(10YR 4/4) しまり弱 粘性強 シルト
- 5 褐色土(10YR 4/4) しまり弱 粘性強 シルト



SK07

- 1 黄褐色土(10YR 5/6) しまり強 粘性普通 シルト
地山土粒(1mm)1%混入
- 2 黒褐色土(10YR 2/3) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
地山土粒(1-10mm)5%混入
- 3 暗褐色土(10YR 3/4) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(1-10mm)10%混入



第18図 S K02・03・07土坑

平面形は長軸99cm、短軸94cmの隅丸方形を呈し、確認面からの深さは45cmである。

壁は全体的にほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。一部南東側が若干オーバーハングしており、フラスコ状を呈していた可能性がある。

覆土は3層に分層した。1層は地山土に由来する黄褐色土で一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は上位から縄文土器片3点、中位から礫が1点出土した。

堆積状況から他の土坑の構築時の排土が投げ込まれたと考えられる。周囲ではSKF16が比較的深く掘り込まれていることから、ここに新旧関係を想定することが可能であろう。

SK08土坑（第19・22図、図版7・17）

MD・ME46グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

平面形は長軸166cm、短軸148cmの不整な円形を呈し、確認面からの深さは25cmである。

壁は全体的に急に外傾しながら立ち上がり、一部南側が緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面は凹凸が著しい。

覆土は6層に分層した。全体的に地山土粒が混入し、1・5層からは炭化物が出土した。遺物は覆土中位から縄文土器片1点（第22図39）が出土した。39は縄文時代晩期前葉に比定される深鉢形土器の口縁部で山形突起に刻みを入れ、地文に捩糸文を施し、横位の平行洗線を施す。

SK24土坑（第19図、図版7）

MD48グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

平面形は長軸120cm、短軸116cmの不整な円形を呈し、確認面からの深さは18cmである。

壁は全体的にほぼ垂直に立ち上がり、一部東側が緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面は東側で若干の凹凸がある。

覆土は5層に分層した。堆積状況は不明である。遺物は出土しなかった。

SK25土坑（第19図、図版7）

MC・MD48グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。北西側でMD48P01と重複し、本遺構が古い。

平面形は長軸65cm、短軸51cmの不整な楕円形を呈し、確認面からの深さは62cmである。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は西側で若干の凹凸がある。

覆土は4層に分層した。この内2・4層は厚さ約5cmの炭化物の層である。堆積状況は不明である。遺物は出土しなかった。

SK27土坑（第19図、図版7）

MC49、MD49・50グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

平面形は長軸92cm、短軸73cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは15cmである。

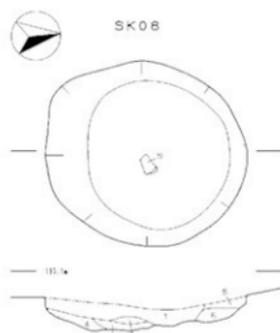
壁は急に外傾しながら立ち上がり、底面は浅い皿形を呈する。

覆土は2層に分層した。各層とも褐色土を主体とし、地山土塊が混入しているが、堆積状況は不明である。遺物は確認面で礫が3点、底面付近で礫が1点出土した。

SK30土坑（第20図、図版7）

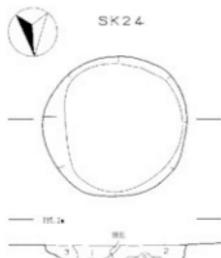
MB50グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

平面形は長軸110cm、短軸99cmの不整な円形を呈し、確認面からの深さは28cmである。



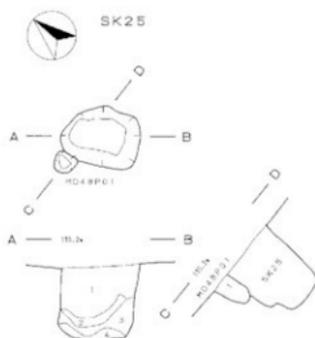
SK08

- 1 黒褐色土(10YR 2/2) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土塊(1-10mm)10%、炭化物(2-5mm)1%混入
- 2 褐色土(10YR 4/4) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土塊(10-50mm)50%混入
- 3 暗褐色土(10YR 3/3) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土塊(5-20mm)30%混入
- 4 黒褐色土(10YR 2/3) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土塊(1-10mm)10%混入
- 5 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土塊(5-10mm)20%、炭化物(1-5mm)1%混入
- 6 暗褐色土(10YR 3/3) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土塊(2-5mm)10%混入



SK24

- 1 暗褐色土(10YR 3/4) しまり普通 粘性強 シルト
地山土塊(1-30mm)10%混入
- 2 黒褐色土(10YR 2/3) しまりやや弱 粘性普通 シルト-細砂
地山土塊(1-5mm)7%混入
- 3 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト-細砂
地山土30%混入
- 4 褐色土(10YR 4/4) しまりやや強 粘性普通 シルト
地山土40%混入
- 5 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性強 シルト
地山土20%混入

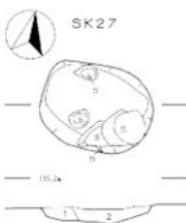


SK25

- 1 黒褐色土(10YR 2/2) しまり普通 粘性強 シルト
炭化物(10-40mm)3%、地山土5%混入
- 2 黒色土(N15/0) しまり強 粘性なし 細砂
炭化物の層
- 3 暗褐色土(10YR 3/3) しまり弱 粘性強 シルト-細砂
地山土塊(1-20mm)7%、炭化物(1-10mm)1%混入
- 4 黒褐色土(10YR 2/3) しまり弱 粘性強 シルト-細砂
炭化物の層

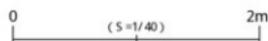
MD48P01

- 1 暗褐色土(10YR 3/3) しまりやや強 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊(1-10mm)10%混入



SK27

- 1 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土塊(1-10mm)5%、炭化物(1mm)1%混入
- 2 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-3mm)3%、炭化物(1-10mm)3%混入



第19図 SK08・24・25・27土坑

壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は若干の凹凸がある。一部南東側が若干オーバーハングしており、フラスコ状を呈していた可能性がある。

覆土は4層に分層した。全体的に地山土塊が多量に混入しており、人為堆積の可能性はある。遺物は出土しなかった。

S K 72土坑（第20図、図版8）

L N 53・54グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

平面形は長軸90cm、短軸89cmの円形を呈し、確認面からの深さは10cmである。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

覆土は暗褐色土の単一層である。遺物は出土しなかった。

S K 73土坑（第20図、図版8）

L N 52・53グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

平面形は長軸78cm、短軸68cmの円形を呈し、確認面からの深さは16cmである。

壁は急に外傾しながら立ち上がり、底面は中央に向かって浅く凹む。

覆土は地山土粒が混入した暗褐色土主体とする。堆積状況は不明である。遺物は出土しなかった。

S K 84土坑（第20図、図版8）

L G 47グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

平面形は長軸129cm、短軸117cmの円形を呈し、確認面からの深さは23cmである。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

覆土は2層に分層した。堆積状況は不明である。遺物は出土しなかった。

S K 99土坑（第20図、図版8）

M B 47グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

平面形は長軸115cm、短軸105cmの不整な円形を呈し、確認面からの深さは21cmである。

壁は南側は垂直に立ち上がり、底面は中央部が浅く凹む。一部北側が若干オーバーハングしており、フラスコ状を呈していた可能性がある。

覆土は3層に分層した。堆積状況は不明である。遺物は剥片1点が出土した。

S K 100土坑（第21図、図版8）

M K 42グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。南側でS K 101と重複し、本遺構の方が新しい。

平面形は長軸98cm、短軸82cmの不整な円形を呈し、確認面からの深さは16cmである。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

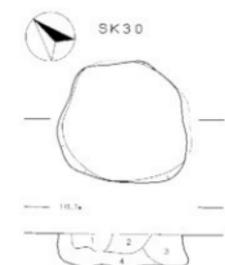
覆土は地山土粒、炭化物を微量に混入する暗褐色土の単一層である。遺物は出土しなかった。

S K 101土坑（第21・22図、図版8・17）

M J・M K 42グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。S K 100、102、103と重複し、すべて本遺構の方が古い。

平面形は推定で長軸が129cm、短軸が118cmの不整な円形を呈していたと考えられる。確認面からの深さは31cmである。

壁は良好に残存する北側から推測すると、ほぼ垂直に立ち上がると考えられる。底面はほぼ平坦で



SK30

- 1 褐色土(10YR 4/6) しまり強 粘性普通 シルト
地山土塊(1-30m)5%、炭化物(1-20m)3%混入
- 2 褐色土(10YR 4/6) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土粒(1-3m)7%、炭化物(1-2m)5%混入
- 3 黄褐色土(10YR 5/6) しまり普通 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-10m)10%、炭化物(1m)1%混入
- 4 暗褐色土(10YR 3/4) しまり普通 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-20m)3%、炭化物(1-5m)5%混入

SK72

- 1 暗褐色土(10YR 3/4) しまり弱 粘性普通 シルト-細砂
地山土塊(5-60m)30%混入

SK73

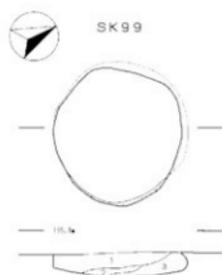
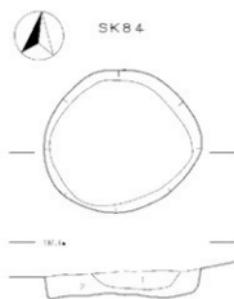
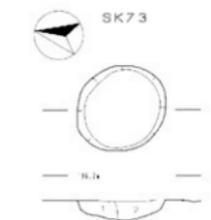
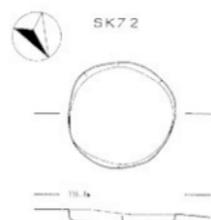
- 1 暗褐色土(10YR 3/4) しまり普通 粘性弱 細砂
地山土粒(1-3m)5%混入
- 2 暗褐色土(10YR 3/4) しまり普通 粘性弱 細砂
地山土塊(5-40m)50%混入

SK84

- 1 黄褐色土(10YR 2/3) しまり弱 粘性弱 シルト-細砂
- 2 に近い黄褐色土(10YR 4/3) しまり普通 粘性弱 シルト
地山土粒(1-3m)20%混入

SK99

- 1 黄褐色土(10YR 3/2) しまり普通 粘性極めて弱 シルト
地山土粒(2-5m)5%、炭化物(1m)1%混入
- 2 暗褐色土(10YR 3/4) しまり弱 粘性弱 シルト
地山土塊50%混入
- 3 黄褐色土(10YR 2/3) しまり普通 粘性極めて弱 シルト
地山土粒(1-3m)15%、炭化物(1m)1%混入



0 (5=1/40) 2m

第20図 SK30・72・73・84・99土坑

ある。

覆土は3層に分層した。褐色土を主体とし、炭化物が微量混入している。遺物は底面付近から縄文土器片2点(第22図40)と剥片2点が出土した。40は単節R Lの斜行縄文を施し、内・外面に煤状炭化物が付着する。

S K 102土坑(第21図、図版8)

M K 42グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。北から西側がS K 101と重複し、本遺構が新しい。

平面形は長軸92cm、短軸81cmの不整な楕円形を呈し、確認面からの深さは5cmである。

壁は良好に残存する北側から推測すると緩やかに外傾しながら立ち上がっていたと考えられる。底面はほぼ平坦である。

覆土は黒褐色土の単一層である。遺物は出土しなかった。堆積状況は不明である。

S K 103土坑(第21図、図版8・9)

M J・M K 42グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。西側がS K 101と重複し、本遺構が新しい。

平面形は長軸が109cm、短軸が101cmの円形を呈し、確認面からの深さは32cmである。

壁は東側が急に外傾しながら立ち上がり、西側では緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面は若干の凹凸がある。

覆土は4層に分層した。全体的に地山土粒、炭化物が混入する。遺物は出土しなかった。

S K 110土坑(第21図、図版9)

M L 43グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

平面形は長軸106cm、短軸95cmの円形を呈し、確認面からの深さは87cmである。

壁は南側が中位で膨らみをもつが、それ以外はほぼ垂直に立ち上がる。底面は北から南へ緩やかに傾斜する。

覆土は17層に分層した。全体的に地山土粒、塊が混入した地山土に由来する褐色土で、一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K 114土坑(第22図、図版9)

M B 45・46グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

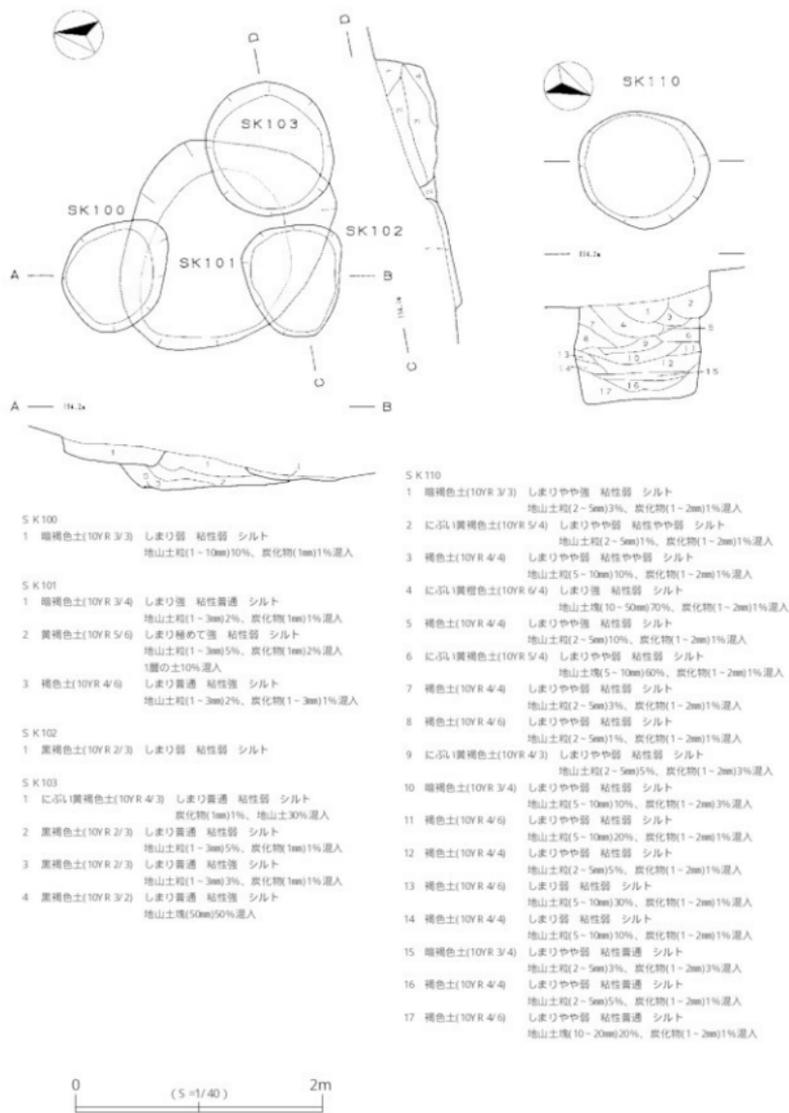
平面形は長軸108cm、短軸105cmの円形を呈し、確認面からの深さは16cmである。

壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

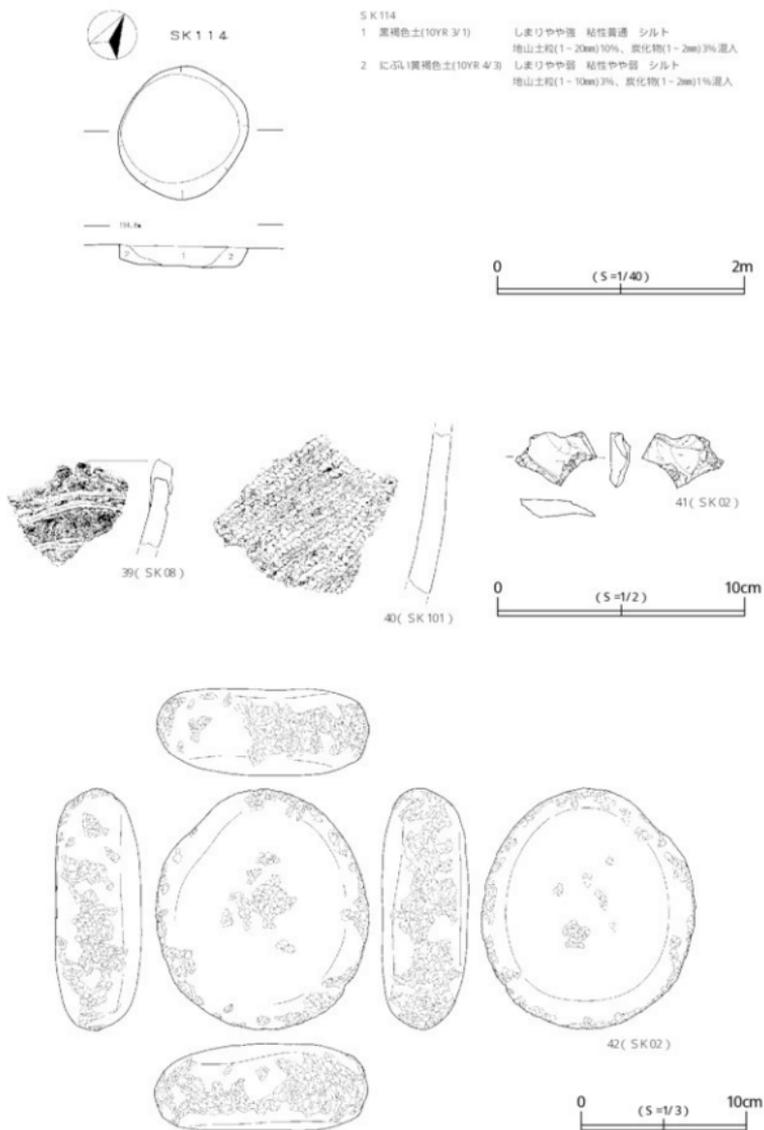
覆土は2層に分層した。自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

6 フラスコ状土坑

フラスコ状土坑は43基検出した。その大半が遺跡西半に分布しており、特に段丘の縁辺に密集して構築されている。所属時期は大半が遺物の出土が無く、詳細は不明だが、概ね縄文時代後期初頭～晩期前葉と考えられる。大半は食料の貯蔵穴と考えられるが、一部S K F 45・97・104・111は底面付近からほぼ完形の土器が出土しており、貯蔵穴から転用した土坑墓と考えられる。



第21図 SK100・101・102・103・110土坑



第22図 SK114土坑、SK08・101出土土器、SK02出土石器

S K F 04 フラスコ状土坑 (第23図、図版9)

M J 44 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸87cm、短軸75cmの不整な円形を呈し、長軸方向はN23° W、確認面からの深さは50cmである。

壁は全体的に大きくオーバーハングしており、急に内傾しながら立ち上がり、底面と壁面は丸みをもって接続する。底面はほぼ平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は8層に分層した。大別して2層に分けられ、上位の黒褐色土は下位層が埋め戻された後の自然堆積と考えられる。下位の褐色土は地山土塊が多量に混入しており、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。

S K F 05 フラスコ状土坑 (第23・41・43図、図版9・18)

M F 46 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸145cm、短軸123cmの円形を呈し、長軸方向はN44° W、確認面からの深さは26cmである。

壁は北側を除きオーバーハングし、底面から確認面まで膨らみをもって立ち上がり、中位で最大径を測る。北側はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は4層に分層した。全体的に地山土粒が混入されており、人為堆積の可能性がある。遺物は、確認面から縄文土器片2点(第41図43・44)、礫器1点(第43図76)、敲磨器類1点(第43図77)、出土した。43・44はともに縄文後期前葉に比定される深鉢形土器の口縁部で、単節LRの斜行縄文に2条の平行沈線が施される。76は角礫の一側縁を背腹両面から剥離調整し、刃部を形成している。77は円礫の礫平坦面に磨痕、側縁に敲打痕を有する。

S K F 06 フラスコ状土坑 (第23図、図版9)

M E 46 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸106cm、短軸101cmの略円形を呈し、長軸方向はN23° E、確認面からの深さは26cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から急に内傾しながら立ち上がり、底面と壁面は丸みをもって接続する。底面はほぼ平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は8層に分層した。全体的に地山土粒が混入されており、人為堆積の可能性がある。遺物は出土しなかった。

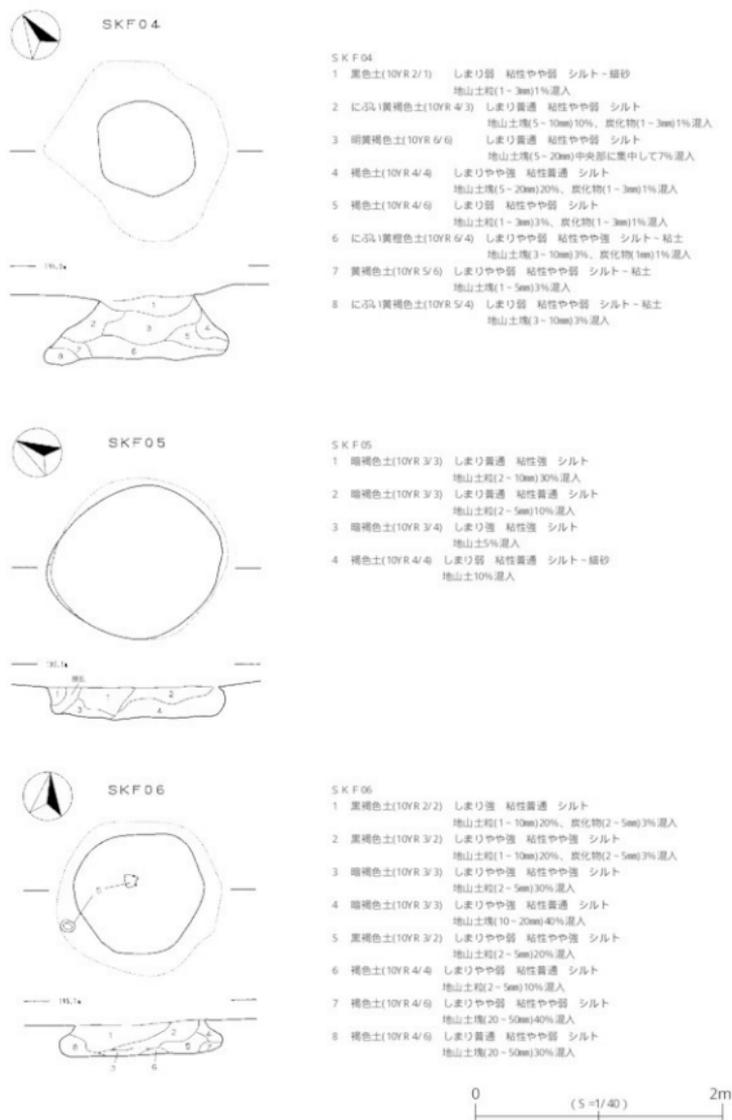
S K F 10 フラスコ状土坑 (第24・43図、図版9)

M D 46・47、M E 46・47 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸111cm、短軸108cmの不整な楕円形を呈し、長軸方向はN16° W、確認面からの深さは53cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、不規則であるが、底面から急に内傾しながら立ち上がり、壁面と底面は丸みをもって接続する。底面は平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は11層に分層した。底面から中位にかけて壁面の崩落土らしき地山土が筋状に見られ、自然堆積と考えられる。遺物は底面付近から敲磨器類1点(第43図78) 礫1点が出土した。78は円礫の礫平坦面に磨痕を有する。



第23図 SK F 04・05・06フラスコ状土坑

S K F 11 フラスコ状土坑 (第25図、図版9)

M C・MD45グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は南側で攪乱を受けるが、推定で長軸142cm、短軸116cmの略円形を呈し、長軸方向はN16° W、確認面からの深さは62cmである。

壁は西側が大きくオーバーハングし、その他はほぼ垂直に立ち上がる。西側は底面から中位にかけてほぼ垂直に立ち上がり、その後内傾する。北側の壁と残存壁から断面形は袋状を呈していたと考えられる。底面は若干の凹凸があり、不整な円形を呈する。

覆土は8層に分層した。全体的に地山土粒が混入しているが、堆積状況は不明である。遺物は底面付近で縄文土器片2点が出土した。

S K F 12 フラスコ状土坑 (第24・41図、図版10・18)

M G47グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。東側でS K F 13と重複し、本遺構の方が新しい。

開口部の平面形は長軸107cm、短軸96cmの不整な円形を呈し、長軸方向はN62° W、確認面からの深さは66cmである。

壁は全体的に大きくオーバーハングし、底面から中位に向かって内傾し、その後屈曲してほぼ垂直に立ち上がる。底面は多少凹凸があり、不整な楕円形を呈する。

覆土は10層に分層した。大別して2層に分けられ、上位の地山土に由来する黄褐色土は一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は上位から縄文土器片2点(第41図45・46)が出土した。ともに縄文時代後期前葉に比定される土器で、45は深鉢形土器の口縁部で波状を呈し、波頂部直下に縦位の粘土紐を貼り付けている。46は深鉢形土器の口縁部で波状を呈し、横位の沈線文を施す。

S K F 13 フラスコ状土坑 (第24・41図、図版10・18)

M G47・48グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。西側でS K F 12と重複し、本遺構の方が古い。

開口部の平面形は推定で長軸138cm、短軸132cmの円形を呈していたと考えられ、長軸方向はN23° W、確認面からの深さは66cmである。

壁は底面から中位に向かって内傾し、中位で袈れを持ち、その後開口部までほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、西半が切られているが、略円形を呈すると考えられる。

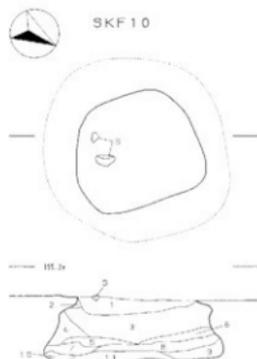
覆土は5層に分層した。大別して3層に分けられ、中位で地山土に由来する黄褐色土が見られ、一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は中位から底面で縄文土器片6点(第41図47・48)とU F 1点、剥片1点、礫3点が出土した。47は深鉢形土器の口縁部で、口唇部に刻みを入れ、口縁部には縄文原体側面圧痕が施される。48は単節LRの斜行縄文を施す。

S K F 14 フラスコ状土坑 (第25図、図版10)

M F47・48グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸115cm、短軸102cmの不整な円形を呈し、長軸方向はN11° E、確認面からの深さは90cmである。

壁は全体的に大きくオーバーハングし、底面から中位に向かって緩やかに内傾し、その後屈曲して急に内傾して立ち上がる。北側は不規則だが本来はフラスコ状を呈すると考えられる。底面はほぼ平



SKF 10

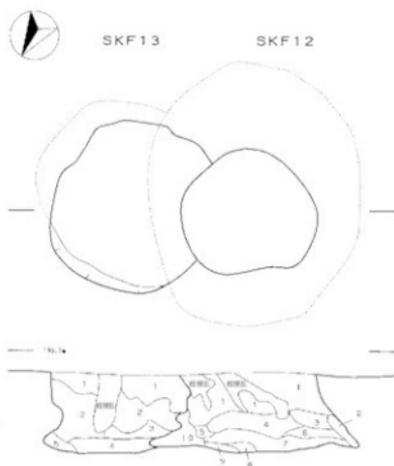
- | | | | | |
|----|----------------|-------|-------|------------------------------|
| 1 | 暗褐色土(10YR 3/3) | しまり強 | 粘性強 | シルト-細砂 |
| | | | | 地山土塊(1-20mm)30%、炭化物(1mm)1%混入 |
| 2 | 褐色土(10YR 4/4) | しまり強 | 粘性普通 | シルト |
| 3 | 暗褐色土(10YR 3/4) | しまり強 | 粘性普通 | シルト |
| | | | | 地山土塊(1-20mm)50%、炭化物(1mm)1%混入 |
| 4 | 褐色土(10YR 4/4) | しまり強 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(1-30mm)10%混入 |
| 5 | 暗褐色土(10YR 3/3) | しまり普通 | 粘性強 | シルト |
| | | | | 地山土塊(1-5mm)10%混入 |
| 6 | 黄褐色土(10YR 5/8) | しまり強 | 粘性普通 | シルト |
| 7 | 黒褐色土(10YR 2/3) | しまり普通 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(1mm)10%混入 |
| 8 | 褐色土(10YR 4/6) | しまり普通 | 粘性強 | シルト |
| 9 | 黒色土(10YR 2/1) | しまり普通 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(1-10mm)5%混入 |
| 10 | 褐色土(10YR 4/4) | しまり普通 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| 11 | 褐色土(10YR 4/4) | しまり普通 | 粘性やや強 | シルト-粘土 |

SKF 12

- | | | | | |
|----|-----------------|--------|-------|--------------------------------|
| 1 | 明黄褐色土(10YR 6/6) | しまり強 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(1-10mm)7%、炭化物(1mm)1%混入 |
| 2 | 褐色土(10YR 4/6) | しまり弱 | 粘性強 | シルト-細砂 |
| | | | | 黄褐色土(10YR 5/8)10%混入 |
| 3 | 褐色土(10YR 4/4) | しまり弱 | 粘性強 | シルト |
| | | | | 地山土塊(1-10mm)10%混入 |
| 4 | 褐色土(10YR 4/4) | しまり強 | 粘性やや強 | シルト-細砂 |
| | | | | 地山土塊(1-15mm)15%、炭化物(1-2mm)1%混入 |
| 5 | 明黄褐色土(10YR 6/6) | しまりやや弱 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| 6 | 褐色土(10YR 4/6) | しまりやや弱 | 粘性やや強 | シルト |
| | | | | 地山土塊(1-10mm)7%、炭化物(1mm)1%混入 |
| 7 | 褐色土(10YR 4/4) | しまり普通 | 粘性強 | シルト |
| | | | | 地山土塊(1-10mm)15%、炭化物(1mm)1%混入 |
| 8 | 黄褐色土(10YR 5/8) | しまり弱 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(1-2mm)5%混入 |
| 9 | 黄褐色土(10YR 5/6) | しまり弱 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(1-3mm)3%、炭化物(1mm)3%混入 |
| 10 | 褐色土(10YR 4/4) | しまり弱 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(1-30mm)7%混入 |

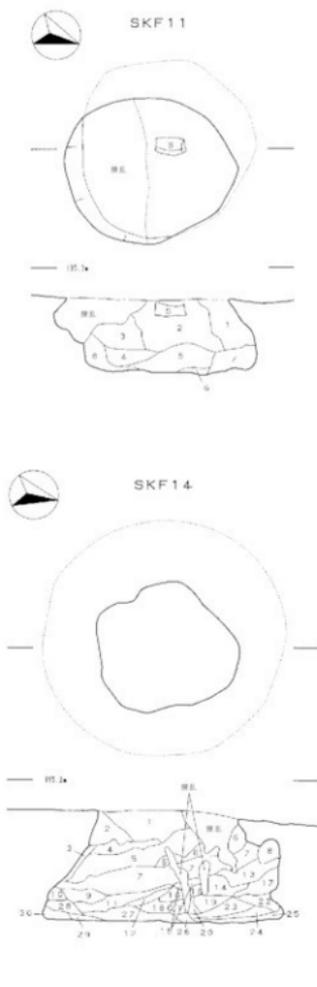
SKF 13

- | | | | | |
|---|----------------|--------|-------|---------------------------------|
| 1 | 黒褐色土(10YR 2/2) | しまり普通 | 粘性強 | シルト-細砂 |
| | | | | 地山土塊(1-15mm)25%、炭化物(1-3mm)10%混入 |
| 2 | 黄褐色土(10YR 5/8) | しまり強 | 粘性やや強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(1-10mm)5%、炭化物(1mm)1%混入 |
| | | | | 暗褐色土(10YR 3/3)30%混入 |
| 3 | 褐色土(10YR 4/4) | しまり普通 | 粘性強 | シルト |
| | | | | 地山土塊(1-15mm)20%、炭化物(1-10mm)1%混入 |
| 4 | 暗褐色土(10YR 3/3) | しまりやや強 | 粘性やや強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(1-15mm)15%、炭化物(1mm)1%混入 |
| 5 | 黄褐色土(10YR 5/8) | しまり強 | 粘性強 | シルト-粘土 |
| | | | | 地山土塊(30mm)1%混入 |



0 (S=1/40) 2m

第24図 SKF 10・12・13フラスコ状土坑



- SKF 11
- 1 褐褐色土10/R 3/3 しまり普通 粘性強 シルト
地山土塊(1-5cm)5%、炭化物(1cm)1%混入
 - 2 黄褐色土10/R 3/2 しまり普通 粘性強 シルト
地山土塊(1-3cm)10%、地山土塊(5-20cm)5%混入
炭化物(1cm)1%混入
 - 3 褐褐色土10/R 3/4 しまり強 粘性強 シルト
地山土塊(3-5cm)5%、炭化物(10cm)1%混入
 - 4 褐褐色土10/R 3/3 しまり普通 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-3cm)1%混入
 - 5 じい5A(黄褐色土)10/R 4/3 しまり強 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(3-10cm)1%混入
 - 6 じい5A(黄褐色土)10/R 4/3 しまり普通 粘性強 シルト
地山土塊(3-10cm)5%、炭化物(1cm)3%混入
 - 7 褐色土10/R 4/4 しまり普通 粘性強 シルト-粘土
 - 8 黄褐色土10/R 2/2 しまり普通 粘性強 シルト-粘土
- SKF 14
- 1 黄褐色土10/R 2/3 しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土塊(1-30cm)40%、炭化物(1-2cm)3%混入
 - 2 褐褐色土10/R 3/4 しまりやや弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-10cm)30%、地山土塊20%混入
 - 3 褐色土10/R 4/4 しまり普通 粘性やや強 シルト-粘土
 - 4 黄褐色土10/R 5/4 しまり普通 粘性やや強 シルト-粘土 黄褐色土10/R 2/3 30%混入
 - 5 黄褐色土10/R 2/3 しまり普通 粘性強 シルト-緑砂
地山土塊(1-30cm)50%、炭化物(1cm)7%混入
 - 6 黄褐色土10/R 5/4 しまり強 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-10cm)10%、褐褐色土10/R 3/3 30%混入
 - 7 黄褐色土10/R 2/3 しまりやや弱 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-40cm)45%、炭化物(1-2cm)1%混入
 - 8 黄褐色土10/R 3/4 しまり強 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-10cm)7%、炭化物(1cm)1%混入
 - 9 黄褐色土10/R 2/3 しまり普通 粘性強 シルト 地山土塊(1-10cm)7%混入
 - 10 黄褐色土10/R 5/4 しまりやや弱 粘性強 シルト-粘土 地山土塊(1-10cm)1%混入
 - 11 黄褐色土10/R 5/4 しまり強 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-2cm)5%、地山土塊(70cm)1%混入
 - 12 黄褐色土10/R 2/3 しまり普通 粘性強 シルト-緑砂 地山土塊(1-10cm)15%混入
 - 13 褐色土10/R 4/4 しまり強 粘性強 シルト
地山土塊(1-50cm)2%、炭化物(1-2cm)1%混入
 - 14 褐色土10/R 4/4 しまりやや弱 粘性強 シルト 地山土塊(1-5cm)15%混入
 - 15 黄褐色土10/R 5/4 しまり強 粘性やや強 シルト-粘土 褐色土10/R 4/4 3%混入
 - 16 黄褐色土10/R 5/4 しまり普通 粘性強 シルト-粘土
 - 17 じい5A(黄褐色土)10/R 5/4 しまりやや弱 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-10cm)7%、褐褐色土10/R 3/3 15%混入
 - 18 黄褐色土10/R 5/4 しまり強 粘性やや強 シルト-粘土 褐褐色土10/R 3/3 40%混入
 - 19 黄褐色土10/R 5/4 しまり普通 粘性強 シルト-粘土 地山土塊(10cm)1%混入
 - 20 褐褐色土10/R 3/4 しまり普通 粘性強 シルト-緑砂 地山土塊(1-3cm)5%混入
 - 21 黄褐色土10/R 5/4 しまり強 粘性強 シルト-粘土 黄褐色土10/R 2/3 1%混入
 - 22 褐色土10/R 4/4 しまり普通 粘性強 シルト-緑砂 炭化物(1-2cm)3%混入
 - 23 黄褐色土10/R 5/4 しまり強 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-2cm)5%、褐色土10/R 4/4 5%混入
 - 24 じい5A(黄褐色土)10/R 5/4 しまりやや弱 粘性強 シルト-粘土
 - 25 黄褐色土10/R 5/4 しまり弱 粘性強 シルト-粘土 地山土塊(1-2cm)2%混入
 - 26 褐色土10/R 4/4 しまり普通 粘性強 シルト 地山土塊(1-5cm)5%混入
 - 27 黄褐色土10/R 2/3 しまり弱 粘性強 シルト
地山土塊(1-15cm)30%、炭化物(1-3cm)1%混入
 - 28 黄褐色土10/R 5/4 しまり強 粘性強 シルト-粘土 地山土塊(10cm)1%混入
 - 29 褐色土10/R 4/4 しまり弱 粘性強 シルト-粘土 地山土塊(1-2cm)3%混入
 - 30 黄褐色土10/R 5/4 しまり強 粘性強 シルト-粘土

第25図 SKF 11・14フラスコ土坑

坦で、円形を呈する。

覆土は30層に分層した。底面から中位に見られる地山土に由来する黄褐色土は壁面の崩落と考えられ、自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K F 16 フラスコ状土坑 (第26図、図版10)

M E 48 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸112cm、短軸108cmの円形を呈し、長軸方向はN18° E、確認面からの深さは37cmである。

壁は南側を除きオーバーハングし、底面から中位で丸みをもつ袋状の断面を呈する。南側はほぼ垂直に立ち上がる。底面は南から北に緩やかに傾斜し、円形を呈する。

覆土は5層に分層した。褐色土を主体とし、堆積状況は不明である。遺物は礫1点が出土した。

S K F 17 フラスコ状土坑 (第27図、図版10)

M D 47・48、M E 47・48 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸150cm、短軸126cmの不整な円形を呈し、長軸方向はN21° W、確認面からの深さは76cmである。

壁は北側を除き全体的にオーバーハングし、底面から急に内傾して立ち上がり、底面と壁面は丸みをもって接続する。北側は不規則だが、ほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、不整な楕円形を呈する。

覆土は15層に分層した。堆積状況は不明である。遺物は中位から礫が1点出土した。

S K F 18 フラスコ状土坑 (第27図、図版10)

M E 48 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸102cm、短軸94cmの不整な円形を呈し、長軸方向はN6° W、確認面からの深さは31cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、北側が緩やかに、南側は急に内傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は12層に分層した。中位で地山土に由来する黄褐色土が多量に混入されており、一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K F 19 フラスコ状土坑 (第26図、図版10)

M E・M F 47 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。南東側でS K F 20と重複し、本遺構の方が新しい。

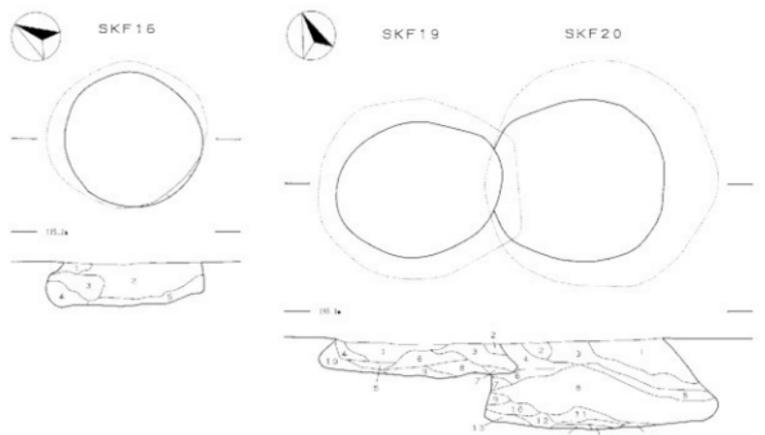
開口部の平面形は長軸138cm、短軸110cmの楕円形を呈し、長軸方向はN82° W、確認面からの深さは28cmである。

壁は全体的に大きくオーバーハングし、底面から緩やかに内傾して立ち上がる。底面と壁面は丸みをもって接続する。底面は南東部にやや凹凸があり、楕円形を呈する。

覆土は10層に分層した。底面直上に地山土に由来する黄褐色土が見られ、人為堆積と考えられる。遺物は底面付近からU F 1点が出土した。

S K F 20 フラスコ状土坑 (第26図、図版10)

M E 47 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。南西側でS K F 19と重複し、本遺構の方が



SKF 16

- 1 褐色土(10R 4/0) しまり強 粘性普通 シルト-緑砂
堆山土40%混入
- 2 褐色土(10R 4/0) しまり普通 粘性やや強 シルト
炭化物1-2割3%, 堆山土4%混入
- 3 暗褐色土(10R 3/3) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
堆山土約1-3割30%, 炭化物1-2割2%混入
- 4 黄褐色土(10R 5/0) しまりやや弱 粘性強 粘土
炭化物1-2割2%, 堆山土9%混入
- 5 褐色土(10R 4/4) しまり弱 粘性強 シルト-緑砂
堆山土約1-5割10%, 炭化物1-3割2%混入

SKF 19

- 1 黄褐色土(10R 2/3) しまり普通 粘性やや強 シルト
堆山土塊(1-2割)7%混入
- 2 褐色土(10R 4/0) しまりやや弱 粘性普通 シルト-緑砂
- 3 褐色土(10R 4/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
堆山土約(1-5割)5%混入
- 4 にび(黄褐色土)10R 4/0) しまり普通 粘性やや強 シルト
堆山土塊(1-3割)2%混入
- 5 にび(黄褐色土)10R 4/0) しまりやや強 粘性普通 シルト-緑砂
堆山土塊(1-3割)1%混入
- 6 にび(黄褐色土)10R 5/0) しまり普通 粘性やや弱 シルト
暗褐色土(10R 3/3)約3%混入
- 7 黄褐色土(10R 5/0) しまり普通 粘性やや強 シルト
- 8 にび(黄褐色土)10R 5/0) しまり普通 粘性やや強 シルト-緑砂
褐色土(10R 4/0)約5%混入
- 9 にび(黄褐色土)10R 5/0) しまりやや強 粘性やや強 シルト
暗褐色土(7.5R 5/0)塊1%混入
- 10 褐色土(10R 4/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
堆山土塊(1-2割)5%混入

SKF 19

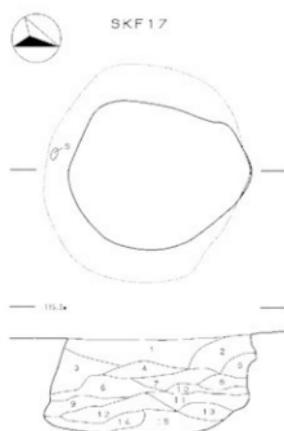
SKF 20

SKF 20

- 1 黄褐色土(10R 5/0) しまり強 粘性やや弱 シルト-緑砂
堆山土塊(1-2割)5%混入
- 2 褐色土(10R 4/0) しまり普通 粘性やや強 シルト
堆山土塊(1-3割)40%, 炭化物(1-15割)10%混入
- 3 暗褐色土(10R 3/0) しまりやや弱 粘性強 シルト-粘土
堆山土塊(1-5割)50%, 炭化物(1-2割)5%混入
黄褐色土(10R 1.7/1)塊2%混入
- 4 褐色土(10R 4/0) しまり普通 粘性やや強 シルト
堆山土塊(1-10割)40%混入
- 5 暗褐色土(10R 3/0) しまり普通 粘性強 シルト
堆山土塊(1-2割)30%, 炭化物(1-5割)3%混入
- 6 黄褐色土(10R 5/0) しまりやや弱 粘性普通 シルト
堆山土塊(1-10割)10%混入
- 7 にび(黄褐色土)10R 5/0) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
- 8 にび(黄褐色土)10R 5/0) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
堆山土塊(1-2割)7%, 炭化物(1-5割)5%混入
褐色土(10R 4/0)塊2%混入
- 9 にび(黄褐色土)10R 5/0) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
炭化物(1-3割)5%混入
- 11 黄褐色土(10R 5/0) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
- 12 黄褐色土(10R 5/0) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
堆山土塊(2割)1%, 炭化物(1割)1%混入
- 13 にび(黄褐色土)10R 6/0) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
堆山土塊(1-1割)1%, 炭化物(1割)1%混入
- 14 暗褐色土(10R 3/0) しまり弱 粘性強 シルト-緑砂
堆山土塊(1-5割)10%混入
- 15 にび(黄褐色土)10R 5/0) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
- 16 褐色土(10R 4/0) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
堆山土塊(1-10割)5%, 炭化物(1割)1%混入

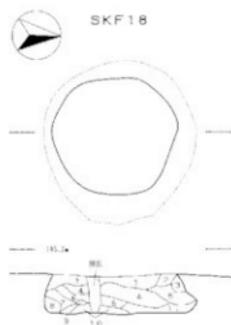
0 (S=1/40) 2m

第26図 S K F 16・19・20プラスチック土坑



SKF 17

- 1 暗褐色土(10YR 3/3) しまり強 粘性普通 シルト
地山土粒(1-20mm)20%、炭化物(1mm)1%混入
- 2 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまり強 粘性普通 シルト-細砂
地山土粒(1-20mm)50%、炭化物(1mm)1%混入
- 3 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまり強 粘性普通 シルト-細砂
地山土粒(1-10mm)50%混入
- 4 黒褐色土(10YR 2/2) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(1-30mm)10%、地山土塊(20mm)1%混入
- 5 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) しまり強 粘性強 シルト-粘土
地山土粒(2mm)1%混入
- 6 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまり強 粘性普通 シルト-細砂
地山土粒(1-5mm)30%、地山土塊(50mm)1%混入
- 7 暗褐色土(10YR 3/3) しまり普通 粘性強 シルト
地山土粒(1mm)10%、地山土塊(20mm)1%混入
- 8 褐色土(10YR 4/4) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(5mm)10%混入
- 9 褐色土(10YR 4/6) しまり強 粘性普通 シルト
地山土粒(1-5mm)15%混入
- 10 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり強 粘性普通 シルト-細砂
地山土40%混入
- 11 暗褐色土(10YR 3/3) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
地山土粒(1-5mm)20%、地山土塊(10mm)1%混入
- 12 暗褐色土(10YR 3/3) しまり強 粘性強 シルト-粘土
地山土粒(1-5mm)50%、地山土塊(10-30mm)10%混入
- 13 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
地山土90%混入
- 14 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり強 粘性普通 シルト-細砂
地山土塊(10-30mm)50%混入
- 15 暗褐色土(10YR 3/3) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(10-30mm)5%混入



SKF 18

- 1 黒褐色土(10YR 2/2) しまり強 粘性普通 シルト
地山土粒(1-5mm)15%、地山土塊(20-30mm)1%混入
- 2 暗褐色土(10YR 3/3) しまり強 粘性普通 シルト-細砂
地山土粒(1-5mm)15%、地山土塊(10mm)1%混入
- 3 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまり強 粘性強 シルト
地山土90%混入
- 4 褐色土(10YR 4/6) しまり強 粘性弱 シルト-細砂
地山土粒(1-5mm)10%、地山土塊(50mm)1%混入
- 5 暗褐色土(10YR 3/4) しまり強 粘性弱 シルト-細砂
地山土粒(1-5mm)15%、地山土塊(10mm)1%混入
- 6 黒褐色土(10YR 2/2) しまり強 粘性弱 シルト-細砂
地山土粒(1-3mm)15%、地山土塊(10mm)1%混入
- 7 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり強 粘性強 シルト
地山土粒(3mm)5%、地山土塊(10mm)1%混入
炭化物(1mm)1%混入
- 8 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり強 粘性強 シルト
地山土塊(1mm)1%混入
- 9 黒褐色土(10YR 2/2) しまり強 粘性強 シルト
地山土粒(1-5mm)5%混入
- 10 灰黄褐色土(10YR 4/2) しまり強 粘性強 シルト
地山土粒(1-5mm)5%混入
- 11 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり強 粘性強 シルト
炭化物(3mm)1%、地山土90%混入



第27図 SKF 17・18フラスコ状土坑

古い。

開口部の平面形は推定で長軸153cm、短軸133cmの不整な円形を呈し、長軸方向はN89° W、確認面からの深さは72cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から緩やかに内傾しながら立ち上がる。底面と壁面は丸みをもって接続する。南西側は上部がSKF19に切られているが、底面から中位に内傾し、中位で扶れ、その後外傾しながら立ち上がると考えられる。底面は中央に向かって浅く凹み、円形を呈している。

覆土は16層に分層した。中位で地山土に由来する黄褐色土がみられ、一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

SKF21フラスコ状土坑（第28・41図、図版11・18）

ME・MF49グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸170cm、短軸142cmの楕円形を呈し、長軸方向はN62° W、確認面からの深さは98cmである。

壁は西側を除き、大きくオーバーハングしている。底面から中位は外傾し、中位（確認面から深さ約50cm）で最大径を測る膨らみをもつ。その後屈曲して緩やかに内傾しながら立ち上がる。西側はほぼ垂直に立ち上がるが、覆土の状況から壁面が崩落したものと考えられ、本来は袋状の断面を呈していたと考えられる。底面はほぼ平坦で、不整な楕円形を呈する。

覆土は39層に分層した。底面直上で壁面崩落土と考えられる地山土に由来する黄褐色土と褐色土が互層をなしており、地山由来土は非常に固く締まっていた。壁面崩落後も貼り床としてつき固め、継続して使用された可能性がある。遺物は中位から縄文土器片3点（第41図49）、剥片1点、礫2点が出土した。49は深鉢形土器の胴部で単節RLの斜行縄文を施し、表面に煤状炭化物が付着している。

SKF22フラスコ状土坑（第29・44図、図版11）

MD・ME48グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。西側でME48P01と重複し、本遺構が古い。

開口部の平面形は推定で長軸71cm、短軸52cmの不整な楕円形を呈し、長軸方向はN72° W、確認面からの深さは50cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から急に内傾しながら立ち上がる。底面と壁面は丸みをもって接続する。底面は平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は7層に分層した。底面付近の地山土に由来する黄褐色土は一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は底面付近から縄文土器の小破片1点、スクレイパー1点（第44図79）、RF1点が出土した。79は一側縁を背腹両面から剥離調整し、刃部を形成している。

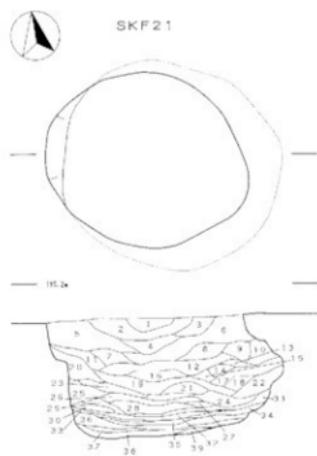
SKF26フラスコ状土坑（第29図、図版11）

MC・MD49グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸109cm、短軸93cmの円形を呈し、長軸方向はN45° W、確認面からの深さは104cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、不規則だが、急に内傾しながら立ち上がる。底面は緩やかに南東から北西に傾斜し、円形を呈する。

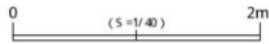
覆土は27層に分層した。下位から中位にかけて壁面崩落土と考えられる地山土に由来する黄褐色土



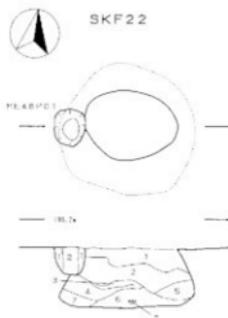
SKF 21

- 1 黒褐色土(10R 2/3) しまり層 粘性普通 シルト 地山土塊(1-10mm)7%混入
- 2 暗褐色土(10R 3/3) しまりや中層 粘性普通 シルト-細砂 地山土塊(1-10mm)10%混入
- 3 暗褐色土(10R 3/3) しまり普通 粘性普通 シルト-細砂 地山土塊(1-20mm)10%、炭化物(1mm)1%混入
- 4 黒褐色土(10R 2/3) しまりや中層 粘性普通 シルト 地山土塊(1-10mm)7%、炭化物(1mm)1%混入
- 5 暗褐色土(10R 3/3) しまりや中層 粘性普通 シルト 地山土塊(1-20mm)15%、炭化物(1mm)7%混入
- 6 に近い黄褐色土(10R 4/3) しまり弱 粘性普通 シルト 地山土塊(1-30mm)30%、炭化物(1-2mm)1%混入
- 7 灰黄褐色土(10R 4/2) しまり普通 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-10mm)10%、炭化物(1mm)1%混入
- 8 暗褐色土(10R 3/3) しまり弱 粘性普通 シルト 地山土塊(1-10mm)3%、炭化物(1mm)1%混入
- 9 黄褐色土(10R 5/3) しまり弱 粘性やや強 シルト-細砂 黒褐色土(10R 2/3)5%混入
- 10 褐色土(10R 4/3) しまり弱 粘性普通 シルト しまりや中層 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-10mm)3%混入
- 11 暗褐色土(10R 3/3) しまりや中層 粘性普通 シルト-細砂 地山土塊(1-30mm)5%混入
- 12 暗褐色土(10R 3/3) しまりや中層 粘性普通 シルト-細砂 地山土塊(1-30mm)5%混入
- 13 に近い黄褐色土(10R 5/4) しまり弱 粘性やや強 シルト-細砂 黒褐色土(10R 2/3)3%混入
- 14 褐色土(10R 4/4) しまり弱 粘性やや強 シルト-細砂 地山土塊(1-2mm)3%、炭化物(1mm)1%混入
- 15 暗褐色土(10R 3/3) しまり弱 粘性普通 シルト 地山土塊(1-2mm)1%、炭化物(1mm)1%混入
- 16 褐色土(10R 4/4) しまりや中層 粘性普通 シルト 地山土塊(1-30mm)5%、炭化物(1-2mm)1%混入
- 17 褐色土(10R 4/4) しまりや中層 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-2mm)3%混入
- 18 黄褐色土(10R 5/3) しまり弱 粘性やや強 シルト 黒褐色土(10R 2/3)1%混入
- 19 暗褐色土(10R 3/3) しまりや中層 粘性普通 シルト-細砂 地山土塊(1-30mm)7%、炭化物(1-2mm)1%混入
- 20 褐色土(10R 4/4) しまり普通 粘性やや弱 シルト-細砂 炭化物(1-2mm)2%、地山土15%混入

- 21 に近い黄褐色土(10R 5/4) しまり弱 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-2mm)3%混入
- 22 黄褐色土(10R 5/3) しまり弱 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-2mm)1%混入
- 23 暗褐色土(10R 3/3) しまり弱 粘性普通 シルト 地山土塊(1mm)1%、地山土塊(10mm)1%混入
- 24 に近い黄褐色土(10R 4/3) しまり弱 粘性やや強 シルト-細砂 地山土塊(1-2mm)3%、地山土塊(30mm)1%混入、炭化物(1mm)1%混入
- 25 暗褐色土(10R 3/3) しまり弱 粘性普通 シルト-細砂 地山土塊(1-20mm)5%、炭化物(1mm)1%混入
- 26 暗褐色土(10R 3/3) しまりや中層 粘性やや強 シルト-細砂 地山土塊(1-3mm)7%、炭化物(1mm)1%混入
- 27 に近い黄褐色土(10R 4/3) しまりや中層 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-3mm)3%混入
- 28 に近い黄褐色土(10R 4/3) しまりや中層 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-10mm)5%混入
- 29 暗褐色土(10R 3/3) しまりや中層 粘性やや強 シルト-細砂 地山土塊(1-30mm)5%混入
- 30 黄褐色土(10R 5/3) しまり弱 粘性やや強 シルト
- 31 黄褐色土(10R 5/3) しまり普通 粘性やや強 シルト-細砂 地山土塊(5-10mm)1%混入
- 32 黄褐色土(10R 5/3) しまり普通 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-10mm)10%混入
- 33 黄褐色土(10R 5/3) しまり弱 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-3mm)1%混入
- 34 黄褐色土(10R 5/3) しまりや中層 粘性普通 シルト
- 35 に近い黄褐色土(10R 5/4) しまり普通 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-5mm)3%混入
- 36 黄褐色土(10R 5/3) しまり弱 粘性やや強 シルト
- 37 黄褐色土(10R 2/2) しまり弱 粘性普通 シルト 地山土40%混入
- 38 に近い黄褐色土(10R 6/4) しまり弱 粘性やや強 シルト 地山土塊(1-10mm)1%、炭化物(1mm)1%混入、地山土5%混入
- 39 に近い黄褐色土(10R 6/4) しまり普通 粘性やや強 シルト



第28図 SKF 21フラスコ状土坑



SKF 22

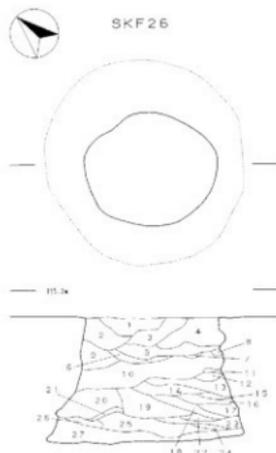
- 1 黒褐色土(10YR 2/3) しまりやや弱 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊(1-5cm)7%混入
- 2 暗褐色土(10YR 3/3) しまり弱 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊(1-7cm)10%混入
- 3 にごり黄褐色土(10YR 5/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-3cm)1%混入
- 4 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(5-10cm)3%混入
- 5 褐色土(10YR 4/4) しまり普通 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊(1-2cm)2%混入
- 6 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-2cm)2%混入

ME48P01

- 1 暗褐色土(10YR 3/3) しまり普通 粘性普通 シルト
- 2 黒褐色土(10YR 2/2) しまりやや強 粘性普通 シルト
地山土塊(1-2cm)2%混入

SKF 26

- 1 にごり黄褐色土(10YR 4/3) しまり普通 粘性普通 シルト-細砂
地山土塊(1-30cm)10%、炭化物(1mm)1%混入
- 2 褐色土(10YR 4/6) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土塊(1-10cm)7%、黒色土(10YR 1.7/1)1%混入
- 3 にごり黄褐色土(10YR 5/3) しまり普通 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊(1-20cm)20%混入
- 4 にごり黄褐色土(10YR 5/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土塊(1-10cm)3%混入
- 5 暗褐色土(10YR 3/3) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土塊(1-20cm)5%、炭化物(1-5cm)1%混入
- 6 黒褐色土(10YR 2/3) しまり弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-2cm)3%、炭化物(1-3cm)1%混入
- 7 にごり黄褐色土(10YR 6/4) しまり弱 粘性やや強 シルト
- 8 黄褐色土(10YR 5/8) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
にごり黄褐色土(10YR 4/3)10%混入
- 9 黄褐色土(10YR 5/8) しまり弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-20cm)3%混入
- 10 黒褐色土(10YR 2/3) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-20cm)20%、炭化物(1mm)1%混入
- 11 にごり黄褐色土(10YR 5/4) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
- 12 黄褐色土(10YR 5/6) しまり弱 粘性やや強 シルト-粘土
暗褐色土(10YR 3/3)7%混入
- 13 暗褐色土(10YR 3/3) しまりやや弱 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊(1-10cm)15%、炭化物(1mm)1%混入
- 14 灰黄褐色土(10YR 5/2) しまりやや弱 粘性弱 細砂
地山土塊(1-10cm)30%、炭化物(2-3cm)5%混入
- 15 にごり黄褐色土(10YR 4/3) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-20cm)15%混入
- 16 暗褐色土(10YR 3/3) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-20cm)10%混入
- 17 灰黄褐色土(10YR 4/2) しまりやや弱 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-5cm)5%混入
- 18 暗褐色土(10YR 3/3) しまり弱 粘性強 シルト
- 19 灰黄褐色土(10YR 4/2) しまり弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-20cm)3%混入
- 20 にごり黄褐色土(10YR 5/4) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-25cm)3%混入
- 21 褐色土(10YR 4/6) しまりやや弱 粘性やや強 シルト-細砂
黒褐色土(10YR 2/3)5%混入



SKF 26

- 22 にごり黄褐色土(10YR 5/4) しまり普通 粘性普通 シルト
- 23 にごり黄褐色土(10YR 4/3) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-20cm)5%混入
- 24 暗褐色土(10YR 3/3) しまり普通 粘性強 シルト
地山土塊(1-30cm)7%混入
- 25 褐色土(10YR 4/6) しまりやや弱 粘性普通 シルト
黄褐色土(10YR 5/6)1%混入
- 26 にごり黄褐色土(10YR 4/3) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-20cm)40%、炭化物(1mm)1%混入
- 27 黄褐色土(10YR 5/8) しまり弱 粘性強 粘土
暗褐色土(10YR 3/3)40%混入

0 (S=1/40) 2m

第29図 SKF 22・26フラスコ状土坑

の薄層が見られ、堆積は緩やかに進行した自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K F 29 フラスコ状土坑 (第30・44図、図版11)

MD47グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸111cm、短軸105cmの円形を呈し、長軸方向はN43° E、確認面からの深さは18cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面からやや急に内傾しながら立ち上がり、底面と壁面は丸みをもって接続する。底面は南側で若干の凹凸があり、円形を呈する。

覆土は黒褐色土の単一層である。堆積状況は不明である。遺物は中位から敲磨器類1点(第44図80)が出土した。80は円礫の礫端部に敲打痕がみられる。

小型のフラスコ状土坑の底部の残欠の可能性がある。

S K F 32 フラスコ状土坑 (第30図、図版11)

ME50・51グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸80cm、短軸72cmの楕円形を呈し、長軸方向はN41° W、確認面からの深さは69cmである。

壁は全体的に大きくオーバーハングし、底面から急に内傾しながら立ち上がる。一部西側は中位で屈曲し、その後ほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、不整な円形である。

また、底面を掘り込んで小型のフラスコ状土坑が確認された。平面形は長軸34cm、短軸24cmの楕円形を呈し、上位のフラスコ状土坑の底面からの深さは57cmである。壁は中位で最大径を測る丸フラスコ状を呈する。底面は鍋底状を呈する。

覆土は13層に分層された。上位のフラスコ状土坑と下位のフラスコ状土坑の覆土の主体が異なり、下位の方が黒色土を主体とするため、堆積が連続していないと考えられる。9層の地山土に由来する褐色土は下位のフラスコ状土坑の蓋状になった可能性も考えられる。遺物は中位から礫1点が出土した。

S K F 34 フラスコ状土坑 (第30図、図版12)

MD51グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸110cm、短軸103cmの不整な隅丸方形を呈し、長軸方向はN82° E、確認面からの深さは85cmである。

壁は全体的に大きくオーバーハングし、急に内傾しながら立ち上がる。底面は平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は14層に分層した。褐色土を主体とし、堆積状況は不明である。遺物は出土しなかった。

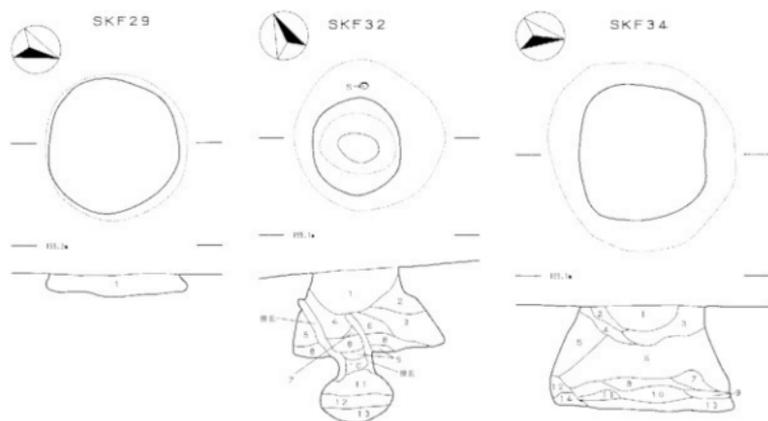
S K F 35 フラスコ状土坑 (第31・41図、図版12・18)

MD51・52グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸154cm、短軸134cmの円形を呈し、長軸方向がN16° E、確認面からの深さは126cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、不規則だが、底面から急に内傾して立ち上がる。一部北東側は底面付近が袋状を呈し、中位が突出している。底面はほぼ平坦で、円形を呈する。

覆土は25層に分層した。底面付近に見られる地山土に由来する褐色土は壁面の崩落土と考えられ、



S K F 29

- 1 黒褐色土(10R 2/2) しまり普通 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-10mm)20%混入

S K F 32

- 1 暗褐色土(10R 3/4) しまり普通 粘性普通 シルト-細砂
地山土塊(1-3mm)30%、炭化物(1-15mm)3%混入
2 暗褐色土(10R 3/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土塊(1-15mm)7%混入
3 暗褐色土(10R 3/3) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-10mm)15%、炭化物(1-3mm)1%混入
4 暗褐色土(10R 3/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土塊(1-3mm)10%、炭化物(1-5mm)3%混入
5 黒褐色土(10R 2/3) しまり弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-3mm)7%混入
6 暗褐色土(10R 3/3) しまり普通 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊(1-20mm)5%混入
7 黒褐色土(10R 2/3) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土塊(1-2mm)5%混入
8 暗褐色土(10R 3/4) しまりやや弱 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊(1-10mm)20%、炭化物(1mm)1%混入
9 褐色土(10R 4/4) しまりやや弱 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊50%混入
10 黒色土(10R 2/1) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-3mm)7%混入
11 黒色土(10R 2/1) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-3mm)10%混入
12 黒褐色土(10R 2/3) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-2mm)5%混入
13 黒色土(10R 2/1) しまりやや弱 粘性強 シルト-粘土

S K F 34

- 1 暗褐色土(10R 3/4) しまりやや強 粘性普通 シルト
地山土塊(1-15mm)5%、炭化物(1mm)1%混入
2 褐色土(10R 4/4) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土塊(1-10mm)7%混入
3 褐色土(10R 4/4) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-10mm)10%混入
4 暗褐色土(10R 3/4) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土塊(1-15mm)5%、炭化物(1-2mm)1%混入
5 暗褐色土(10R 3/4) しまり普通 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-20mm)20%、炭化物(1mm)1%混入
6 にごり黄褐色土(10R 4/3) しまり普通 粘性やや強 シルト-細砂
地山土塊(1-30mm)30%、炭化物(1-5mm)3%混入
7 暗褐色土(10R 3/4) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土塊(1-10mm)5%混入
8 にごり黄褐色土(10R 4/3) しまり普通 粘性やや強 シルト-粘土
地山土塊(1-20mm)15%、炭化物(1mm)1%混入
9 にごり黄褐色土(10R 4/3) しまり普通 粘性やや強 シルト-粘土
地山土塊(1-10mm)20%、炭化物(1-3mm)3%混入
10 黄褐色土(10R 5/8) しまりやや弱 粘性強 粘土
地山土塊(1-10mm)3/4
11 暗褐色土(10R 3/4) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
地山土塊(1-20mm)5%混入
12 褐色土(10R 4/4) しまりやや弱 粘性やや強 シルト-粘土
地山土塊(1-10mm)3%、炭化物(1mm)1%混入
13 暗褐色土(10R 3/3) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土塊(1-10mm)5%、炭化物(1-2mm)1%混入
14 にごり黄褐色土(10R 4/3) しまりやや弱 粘性強 シルト-粘土
地山土塊(1-20mm)25%、炭化物(1mm)1%混入



第30図 S K F 29・32・34フラスコ状土坑

緩やかに堆積が進行した自然堆積と考えられる。遺物は上位から縄文土器片5点(第41図50-52)、剥片1点が出土した。50は深鉢形土器の胴部で、単節LRの斜行縄文が施される。51・52は、同一個体の深鉢形土器の口縁部で、無文で内・外面に煤状炭化物が付着している。

S K F 36 フラスコ状土坑(第31・44図、図版12)

M C 53 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸93cm、短軸82cmの円形を呈し、長軸方向がN16° E、確認面からの深さは43cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面付近が膨らみ、その後内傾しながら立ち上がる。一部西側は底面付近で膨らみをもって上位までほぼ垂直に立ち上がり、その後屈曲して緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面は北東側で若干の凹凸があり、円形を呈する。

覆土は10層に分層した。黒褐色土主体とした自然堆積と考えられる。遺物は楔形石器1点(第44図81)、礫1点が出土した。81は対向した端部に微細な剥離が集中する。

S K F 37 フラスコ状土坑(第32・44図、図版12)

M B 53・54 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸138cm、短軸120cmの不整な円形を呈し、長軸方向はN75° E、確認面からの深さは32cmである。

壁は底面から中位まで袋状に膨らみ、中位からほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は11層に分層した。中位で地山土塊が多量に混入されていることから人為堆積と考えられる。遺物は石皿1点(第44図82)、礫1点が出土した。82は角礫素材の1面を使用している。

S K F 38 フラスコ状土坑(第32図、図版12)

M C 54 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸121cm、短軸119cmの略円形を呈し、長軸方向はN53° W、確認面からの深さは55cmである。

壁は全体的に大きくオーバーハングし、底面から緩やかに内傾して立ち上がり、底面と壁面は丸みをもって接続する。底面は平坦で、不整な隅丸方形を呈する。

覆土は9層に分層した。大別して2層に分けられ、上位は黒褐色土を、下位は褐色土を主体とする。堆積状況は不明である。遺物はR F 1点、礫2点が出土した。

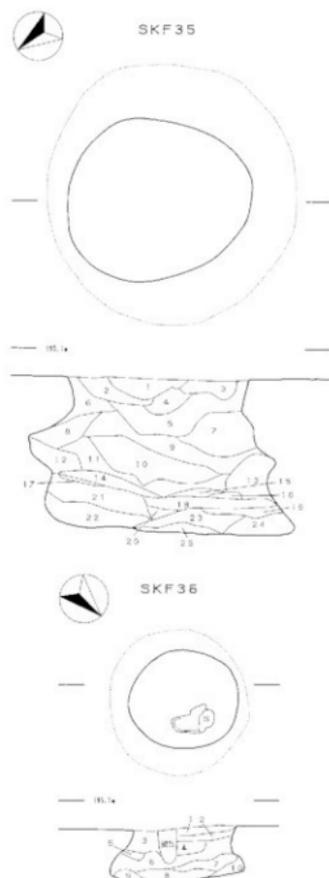
S K F 40 フラスコ状土坑(第32図、図版12)

M B 54 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は西側で攪乱を受けているが、推定で長軸104cm、短軸90cmの円形を呈していると考えられ、長軸方向はN81° E、確認面からの深さは67cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、東側は底面から緩やかに内傾して立ち上がり、それ以外は急に内傾しながら立ち上がる。底面と壁面は丸みをもって接続する。底面は平坦で、不整な楕円形を呈する。

覆土は15層に分層した。覆土全体に地山土塊が多量に混入されていることから、人為堆積と考えられる。遺物は上位から縄文土器の無文の小破片1点、R F 1点が出土した。



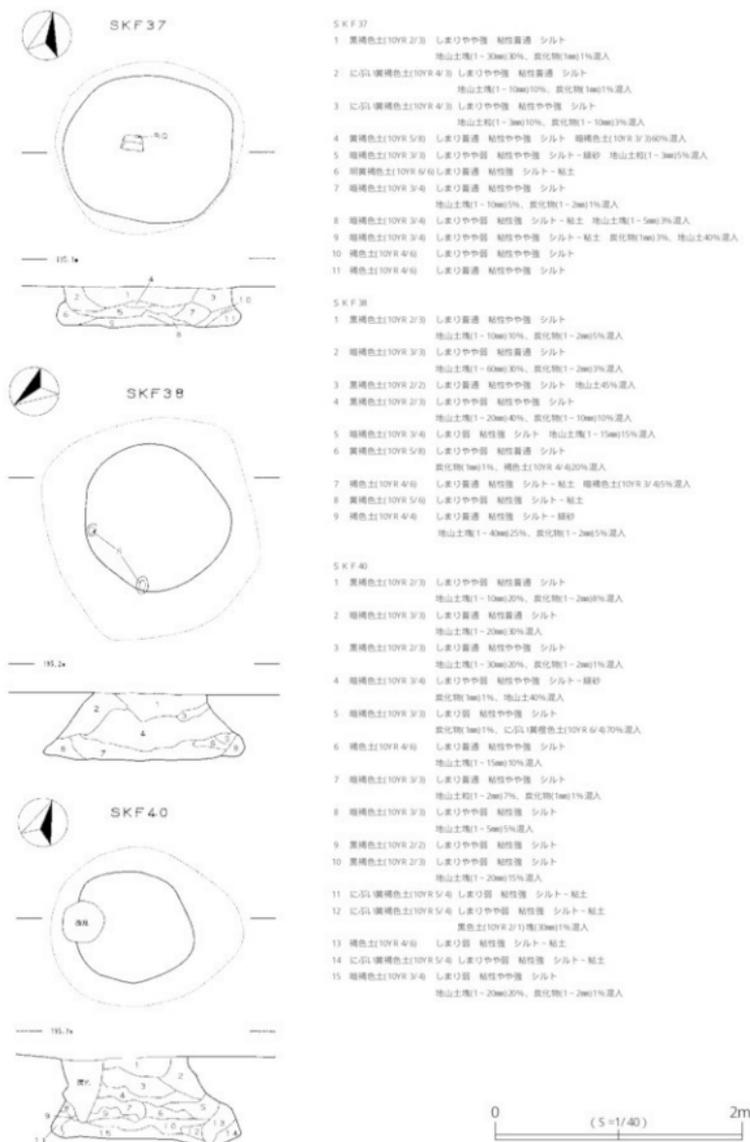
SKF 36

- 1 暗褐色土(10YR 3/4) しまり弱 粘性强 細砂
地山土粒(1~3mm)10%、地山土塊(10mm)1%混入
- 2 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(1~5mm)5%、地山土5%混入
- 3 黒褐色土(10YR 2/3) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土粒(1mm)5%、地山土塊(10mm)1%混入
炭化物(1mm)1%混入
- 4 黒褐色土(10YR 2/3) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土粒(1mm)5%、地山土塊(10mm)1%混入
炭化物(1mm)1%混入
- 5 黒褐色土(10YR 2/3) しまり強 粘性普通 シルト
地山粒(1mm)5%混入

SKF 35

- 1 黒色土(10YR 2/1) しまり普通 粘性强 シルト
炭化物(1mm)1%混入
- 2 黒褐色土(10YR 3/2) しまり普通 粘性强 シルト
地山土粒(2mm)3%、炭化物(1mm)1%混入
- 3 黒褐色土(10YR 3/1) しまり普通 粘性强 シルト
地山土粒(2~3mm)3%、炭化物(1mm)1%混入
- 4 暗褐色土(10YR 3/3) しまり普通 粘性極めて弱 シルト-細砂
地山土粒(1~3mm)10%混入
- 5 黒褐色土(10YR 2/2) しまり普通 粘性極めて弱 シルト
地山土粒(2~3mm)5%、炭化物(1mm)2%混入
にぶい黄褐色土(10YR 6/4)粒1~5mm)5%混入
- 6 黒褐色土(10YR 2/3) しまり弱 粘性極めて弱 シルト-細砂
地山土粒(3~10mm)30%、炭化物(1~2mm)1%混入
- 7 黒褐色土(10YR 3/1) しまり強 粘性强 シルト
地山土粒(2~3mm)5%、炭化物(1mm)3%混入
- 8 暗褐色土(7.5YR 5/8) しまり強 粘性普通 シルト
0層の土20%混入
- 9 黒褐色土(10YR 2/3) しまり極めて弱 粘性極めて弱 シルト
地山土粒(1~10mm)10%、炭化物(1~2mm)1%混入
にぶい黄褐色土(10YR 6/4)粒(1mm)3%混入
- 10 黒褐色土(10YR 3/1) しまり弱 粘性極めて弱 シルト
地山土塊50%、炭化物(1mm)1%混入
にぶい黄褐色土(10YR 6/4)1%混入
- 11 黒褐色土(10YR 3/1) しまり弱 粘性極めて弱 シルト
10層と同位 地山土塊30%混入
- 12 暗褐色土(10YR 3/3) しまり普通 粘性强 シルト
地山土粒(5mm)3%、炭化物(1mm)3%混入
にぶい黄褐色土(10YR 6/4)5%混入
- 13 暗褐色土(10YR 3/3) しまり極めて弱 粘性極めて弱 シルト
地山土粒(2~3mm)5%、炭化物(1mm)1%混入
- 14 褐色土(10YR 4/6) しまり普通 粘性强 シルト
- 15 暗褐色土(10YR 3/3) しまり普通 粘性强 シルト 地山土塊50%混入
- 16 黄褐色土(10YR 5/6) しまり普通 粘性强 シルト 13層の土50%混入
- 17 黒褐色土(10YR 2/3) しまり普通 粘性强 シルト 14層の土50%混入
- 18 黒褐色土(10YR 2/2) しまり強 粘性極めて弱 シルト
地山土塊30%混入
- 19 褐色土(10YR 4/6) しまり強 粘性極めて弱 シルト
- 20 黒褐色土(10YR 3/2) しまり弱 粘性普通 シルト-細砂
炭化物(1mm)1%、にぶい黄褐色土(10YR 6/4)1%混入
- 21 褐色土(10YR 4/6) しまり強 粘性極めて弱 シルト
にぶい黄褐色土(10YR 6/4)混入
- 22 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり弱 粘性極めて弱 シルト
21層の土10%混入
- 23 緑灰色土(10YR 4/1) しまり弱 粘性强 シルト
地山土粒(1~5mm)5%、炭化物(1mm)1%混入
- 24 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり弱 粘性極めて弱 シルト
にぶい黄褐色土(10YR 6/4)塊(5mm)10%混入
- 25 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり極めて弱 粘性極めて弱 シルト

第31図 S K F 35・36フラスコ状土坑



第32図 SKF 37・38・40フラスコ状土坑

S K F 41 フラスコ状土坑 (第33・41図、図版12・18)

M B 54 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。西側で S K F 42 と重複しているが、重複部分が攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

開口部の平面形は推定で長軸111cm、短軸100cmの円形を呈し、長軸方向はN29° W、確認面からの深さは48cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から内傾しながら立ち上がり、底面と壁面は丸みをもって接続する。底面は平坦で、円形を呈していたと考えられる。

覆土は5層に分層した。上位で地山土に由来する褐色土が見られ、一括して埋め戻した人為堆積と考えられる。また、周囲でこの地山土層まで掘り込んだ遺構は S K F 45 のみであり、S K F 45 の構築時の排土で本遺構を埋め戻したと想定することが可能であろう。

遺物は中位から縄文土器片9点(第41図53・54)が出土した。53は後期中葉に比定される深鉢形土器の口縁部から胴部で、口縁部に単節 L R の帯状の磨消縄文を施す。54は底部で上げ底になっている。

S K F 42 フラスコ状土坑 (第33・41図、図版12・18)

M B 54 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。東側が S K F 41 と重複しているが、重複部分が攪乱を受けているため、新旧関係は不明である。

開口部の平面形は推定で長軸104cm、短軸87cmの円形を呈し、長軸方向はN22° W、確認面からの深さは47cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、良好に残存する西側から推定すると底面から緩やかに内傾しながら立ち上がり、底面と壁面は丸みをもって接続すると考えられる。底面はほぼ平坦で、円形を呈していたと考えられる。

覆土は9層に分層した。底面から中位で地山土に由来する黄褐色土が見られ、人為堆積と考えられる。遺物は中位から縄文土器片3点(第41図55・57)、礫1点(第41図56)が出土した。55は縄文時代中期と考えられる深鉢形土器の胴部で羽状縄文が施される。56・57は縄文時代後期前葉に比定され、56は深鉢形土器の胴部で単節 R L の斜行縄文を施し、2条の平行沈線で曲線を描く。57は深鉢形土器の胴部で、2条の沈線によって曲線を描く。

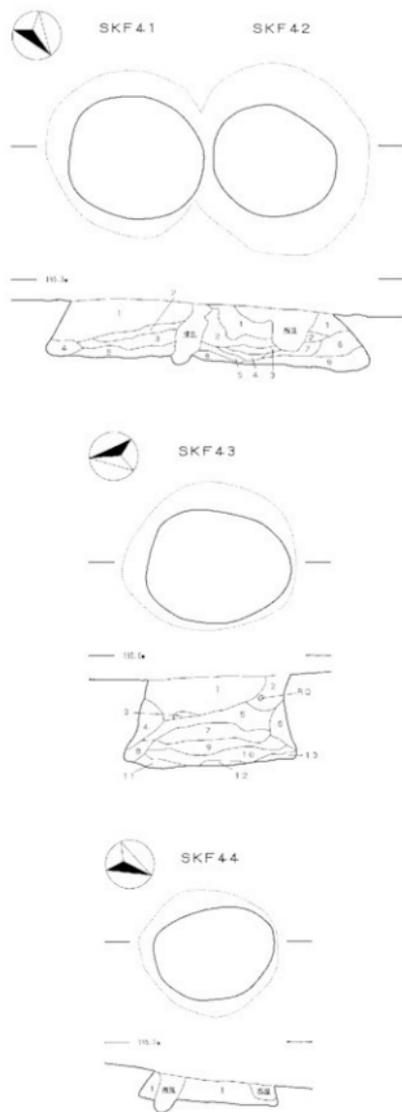
S K F 43 フラスコ状土坑 (第33・41・44図、図版13・18)

M B 54・55 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸118cm、短軸93cmの楕円形を呈し、長軸方向はN70° W、確認面からの深さは73cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から急に内傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦で、楕円形を呈する。

覆土は13層に分層した。褐色土を主体とするが、堆積状況は不明である。縄文土器片6点(第41図58・61)、礫器1点(第44図83)が出土した。58・60は縄文時代後期前葉に比定される深鉢形土器の胴部で、58は単節 R L の斜行縄文に沈線で曲線を施す。61は縄文時代晩期前葉に比定される深鉢形土器の口縁部で、口唇に刻み、口縁部に横位の平行沈線を施す。83は角礫の一側縁を背腹両面から敲打し、刃部を形成している。



- SKF 41
- 1 褐色土(10R 4/6) しまり普通 粘性普通 シルト-細砂
炭化物(1-2mm)3%、磁褐色土(10R 3/4)40%混入
 - 2 磁褐色土(10R 3/4) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土混入
 - 3 黄褐色土(10R 2/3) しまり弱 粘性やや弱 シルト
地山土混入(1-10mm)30%混入
 - 4 褐色土(10R 4/6) しまり普通 粘性強 シルト
 - 5 磁褐色土(10R 3/4) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土混入(1-20mm)40%混入
- SKF 42
- 1 褐色土(10R 4/6) しまり強 粘性普通 シルト-細砂
炭化物(1-2mm)3%、 CaSO_4 (黄褐色土(10R 4/3)20%混入)
 - 2 黄褐色土(10R 5/6) しまり普通 粘性普通 シルト
磁褐色土(10R 3/4)10%混入
 - 3 磁褐色土(10R 3/4) しまり普通 粘性やや弱 シルト
地山土混入(1-40mm)5%混入
 - 4 褐色土(10R 4/6) しまり普通 粘性やや弱 シルト
磁褐色土(10R 3/4)1%混入
 - 5 CaSO_4 (黄褐色土(10R 4/3) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土混入(1-10mm)5%、炭化物(1mm)1%混入)
 - 6 褐色土(10R 4/6) しまり弱 粘性やや弱 シルト-細砂
炭化物(1-4mm)1%混入
 - 7 褐色土(10R 4/6) しまり弱 粘性やや弱 シルト-細砂
地山土混入(1-20mm)7%混入
 - 8 黄褐色土(10R 5/6) しまり普通 粘性やや弱 シルト-粘土
 - 9 CaSO_4 (黄褐色土(10R 5/4) しまり普通 粘性やや弱 シルト-粘土
炭化物(1mm)1%、磁褐色土(10R 3/4)1%混入)
- SKF 43
- 1 褐色土(10R 4/6) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土混入(1-10mm)15%、炭化物(1mm)1%混入
 - 2 褐色土(10R 4/6) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土混入(1-2mm)7%混入
 - 3 褐色土(10R 4/6) しまり弱 粘性やや弱 シルト
磁褐色土(10R 3/4)25%混入
 - 4 CaSO_4 (黄褐色土(10R 5/4) しまり弱 粘性やや弱 シルト
地山土混入(1-15mm)5%、炭化物(1mm)1%混入)
 - 5 磁褐色土(10R 3/4) しまり弱 粘性強 シルト-細砂
地山土混入(1-50mm)10%、炭化物(1mm)1%混入
 - 6 褐色土(10R 4/6) しまり普通 粘性強 シルト
地山土混入(1-8mm)3%、炭化物(1-3mm)1%混入
 - 7 磁褐色土(10R 3/4) しまり普通 粘性強 シルト
地山土混入(1-10mm)10%、炭化物(1-2mm)3%混入
 - 8 褐色土(10R 4/6) しまりやや弱 粘性強 シルト
地山土混入(1-5mm)7%、炭化物(1-2mm)1%混入
 - 9 CaSO_4 (黄褐色土(10R 5/4) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
 - 10 褐色土(10R 4/6) しまり普通 粘性やや弱 シルト
地山土混入(1-10mm)15%、 CaSO_4 (黄褐色土(10R 6/4)5%混入)
 - 11 CaSO_4 (黄褐色土(10R 5/4) しまり普通 粘性強 シルト-粘土
炭化物(1mm)1%混入)
 - 12 磁褐色土(10R 3/4) しまりやや弱 粘性強 シルト
黄褐色土(10R 5/6)3%混入
 - 13 CaSO_4 (黄褐色土(10R 5/4) しまり弱 粘性強 シルト-粘土
炭化物(1mm)1%、褐色土(10R 4/4)3%混入)
- SKF 44
- 1 褐色土(10R 4/6) しまり弱 粘性普通 シルト
炭化物(1-10mm)1%、磁褐色土(10R 3/4)20%混入

第33図 SKF 41・42・43・44フラスコ状土坑

S K F 44 フラスコ状土坑 (第33・44図、図版13)

M B 54・55グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸98cm、短軸75cmの楕円形を呈し、長軸方向がN44° W、確認面からの深さは19cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から急に内傾しながら立ち上がる。底面は南側で攪乱を受けているが、ほぼ平坦で、円形を呈する。

覆土は褐色土の単一層である。一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は、スクレイパー1点(第44図84)が出土した。84は一側縁を腹面から剥離調整を加え、刃部を形成している。

S K F 45 フラスコ状土坑 (第34・41・45図、図版13・17・18)

M A 54グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸134cm、短軸132cmの円形を呈し、長軸方向はN85° W、確認面からの深さは93cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から中位までほぼ垂直に立ち上がり、その後不規則だが、内傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦で、円形を呈する。底面から3基のビットを検出した。平面形は50～60cmの不整な楕円形を呈し、深さは23～35cmであり、すべて外側に向かって斜めに掘り込まれている。このうちP3からはほぼ完形の深鉢形土器(第41図62)が逆位の状態で出土した。62は縄文時代後期後葉に比定される無文の深鉢形土器で底部に高台を有する。内・外面ともに煤状炭化物が付着する。

覆土は27層に分層した。底面から縄文土器片1点(第41図63)、石匙1点(第45図85)が出土した。63は深鉢形土器の口縁部で単節LRの斜行縄文が施される。85は主要刃部がつまみ部に対して縦につき、背面全面に剥離調整し、刃部を形成している。

土器の出土状況から、貯蔵穴から転用した土坑墓の可能性がある。

S K F 75 フラスコ状土坑 (第35図、図版13)

L N 52グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は東側で木根の攪乱を受けるが、推定で長軸133cm、短軸101cmの楕円形を呈し、長軸方向はN27° W、確認面からの深さは58cmであると考えられる。

壁は良好に残存する西側から推測すると、底面から急に内傾しながら立ち上がると考えられる。底面は東側で若干の凹凸があり、楕円形を呈する。

覆土は6層に分層した。全体的に地山土粒を含む褐色土を主体としているが、堆積状況は不明である。遺物は出土しなかった。

S K F 86 フラスコ状土坑 (第35図、図版13)

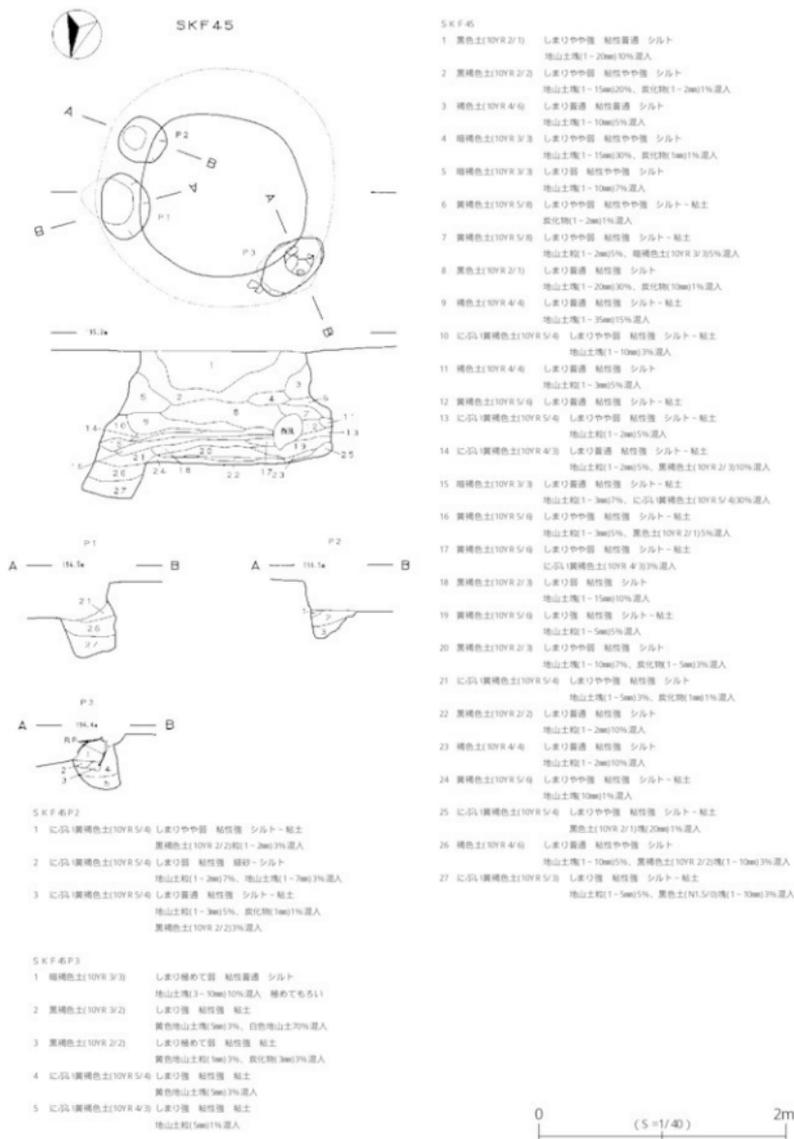
L F 48グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸90cm、短軸84cmの円形を呈し、長軸方向はN14° W、確認面からの深さは31cmである。

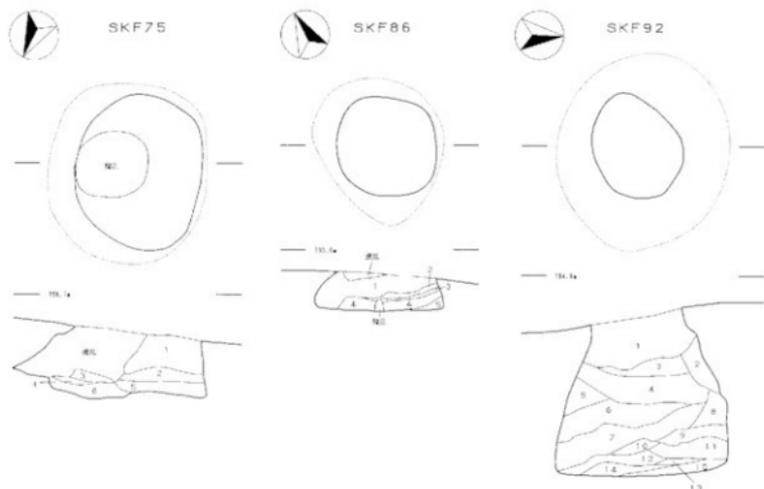
壁は全体的にオーバーハングし、底面から内傾しながら立ち上がり、底面と壁面は丸みをもって接続する。底面はほぼ平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は5層に分層した。底面付近に地山土に由来する黄褐色土が見られ、人為堆積と考えられる。

第4章 調査の記録



第34図 SKF45フラスコ状土坑



SKF75

- 1 暗褐色土(10YR 3/4) しまり強 粘性強 シルト
地山土粒(1-3mm)13%混入
- 2 暗褐色土(10YR 3/4) しまり強 粘性強 シルト
地山土塊(5-15mm)5%混入
- 3 にぶい黄褐色土(10YR 4/3) しまり強 粘性普通 シルト
地山土粒(1-3mm)5%混入
- 4 暗褐色土(10YR 3/3) しまり強 粘性普通 シルト
地山土粒(1-5mm)30%混入
- 5 にぶい黄褐色土(10YR 5/3) しまり普通 粘性強 シルト
地山土粒(1mm)1%混入
- 6 褐色土(10YR 4/6) しまり強 粘性強 シルト
地山土塊(5-30mm)50%混入

SKF86

- 1 暗褐色土(10YR 3/4) しまり強 粘性極めて強 シルト-粘土
地山土粒(1-3mm)5%、炭化物(1mm)1%混入
- 2 黒褐色土(10YR 2/3) しまり普通 粘性強 シルト
地山土粒(1mm)3%混入
- 3 黄褐色土(10YR 5/6) しまり強 粘性強 シルト-粘土
- 4 褐色土(10YR 4/4) しまり強 粘性極めて強 シルト-粘土
- 5 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり普通 粘性極めて強 シルト-粘土

SKF92

- 1 暗褐色土(10YR 3/4) しまり強 粘性強 シルト
地山土粒(1-5mm)10%、地山土塊(50mm)1%混入
炭化物(1-10mm)2%混入
- 2 黄褐色土(10YR 5/6) しまり強 粘性普通 シルト
1層の土10%混入
- 3 暗褐色土(10YR 3/3) しまり弱 粘性弱 シルト
地山土塊(50mm)50%、炭化物(1mm)1%混入
- 4 暗褐色土(10YR 3/3) しまり強 粘性強 シルト
地山土粒(1-10mm)5%、炭化物(1mm)2%混入
- 5 暗褐色土(10YR 3/4) しまり弱 粘性弱 シルト
地山土粒(1-5mm)20%、炭化物(1mm)1%混入
- 6 黒褐色土(10YR 2/3) しまり強 粘性強 シルト
地山土粒(1-5mm)7%、炭化物(1-2mm)1%混入
- 7 暗褐色土(10YR 3/3) しまり極めて強 粘性極めて強 シルト
地山土粒(1-5mm)10%、炭化物(1-2mm)1%混入
- 8 褐色土(10YR 4/6) しまり普通 粘性普通 シルト
4層の土30%混入
- 9 にぶい黄褐色土(10YR 5/4) しまり弱 粘性極めて強 シルト
7層の土10%混入
- 10 褐色土(10YR 4/6) しまり強 粘性極めて強 シルト
7層の土10%混入
- 11 にぶい黄褐色土(10YR 6/4) しまり極めて強 粘性弱 シルト
- 12 暗褐色土(10YR 3/4) しまり強 粘性強 シルト
炭化物(1mm)1%、地山土20%混入
- 13 明黄褐色土(10YR 6/6) しまり極めて強 粘性普通 シルト
- 14 暗褐色土(10YR 3/4) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土5%混入
- 15 にぶい黄褐色土(10YR 6/4) しまり極めて強 粘性極めて強 シルト

0 (S=1/40) 2m

第35図 SKF75・86・92プラスチック土坑

遺物は剥片1点が出土している。

S K F 92 フラスコ状土坑 (第35図、図版13)

M J・M K 43 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸90cm、短軸70cmの不整な楕円形を呈し、長軸方向はN64° E、確認面からの深さは136cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から上位まで急に内傾しながら立ち上がり、その後屈曲してほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、楕円形を呈する。

覆土は15層に分層した。底面直上と中位の地山土に由来する褐色土は壁面の崩落土であり、緩やかに進化した自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K F 93 フラスコ状土坑 (第36図、図版13)

M J・M K 43 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸92cm、短軸88cmの円形を呈し、長軸方向がN72° W、確認面からの深さは80cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は中央に向かって浅く凹み、不整な円形を呈する。

覆土は13層に分層した。堆積状況は不明である。遺物は礫1点が出土した。

S K F 95 フラスコ状土坑 (第36・45図、図版14)

M J 44 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸135cm、短軸95cmの不整な楕円形を呈し、長軸方向がN45° W、確認面からの深さは84cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から上位まで内傾しながら立ち上がり、その後屈曲して外傾しながら立ち上がる。底面と壁面は丸みをもって接続する。底面はほぼ平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は15層に分層した。全体にわたって地山土粒を含むが、堆積状況は不明である。遺物は敲磨器類1点(第45図86)、剥片1点、礫2点が出土した。86は円礫の礫平坦面に磨痕があり、側縁に敲打痕を有する。

S K F 96 フラスコ状土坑 (第37図、図版14)

M H 47 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸95cm、短軸73cmの楕円形を呈し、長軸方向がN23° W、確認面からの深さは61cmである。

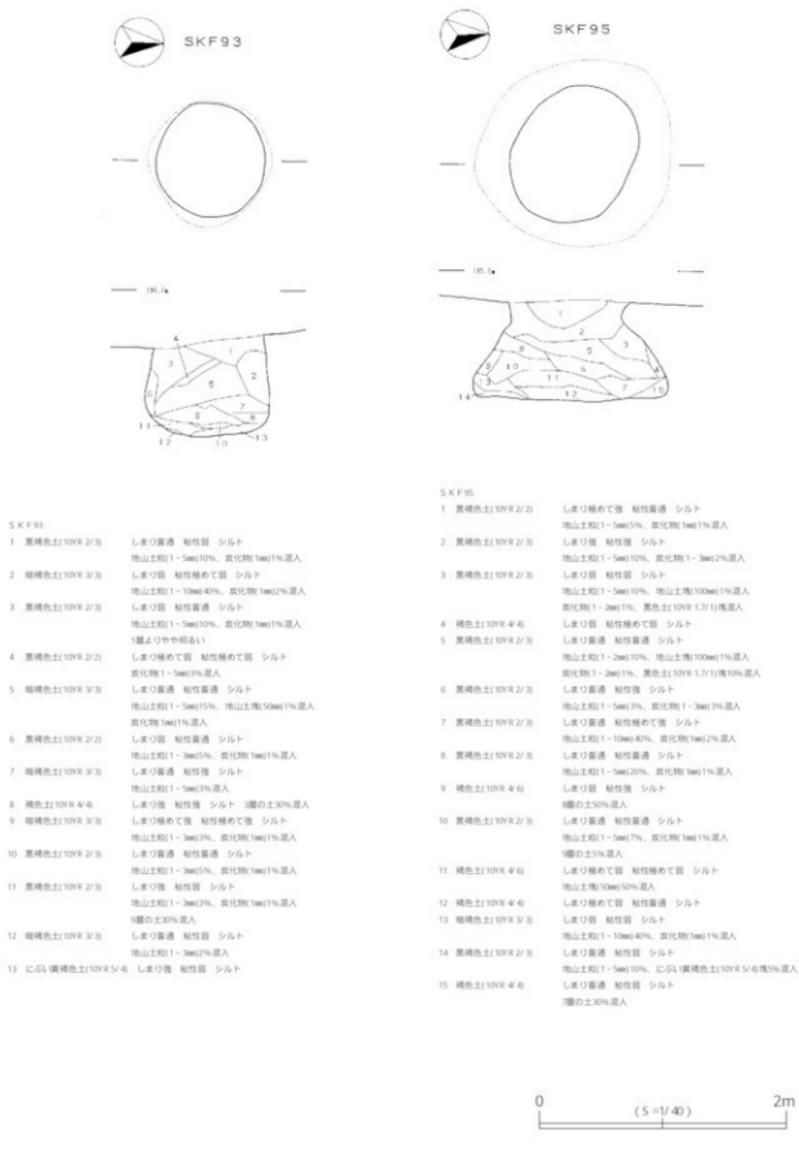
壁は全体的にオーバーハングし、底面から膨らみをもって、内傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦で、円形を呈する。

覆土は11層に分層した。堆積状況は壁の崩落による黄褐色土の堆積後、黒褐色土が堆積する自然堆積と考えられる。遺物は礫1点が出土した。

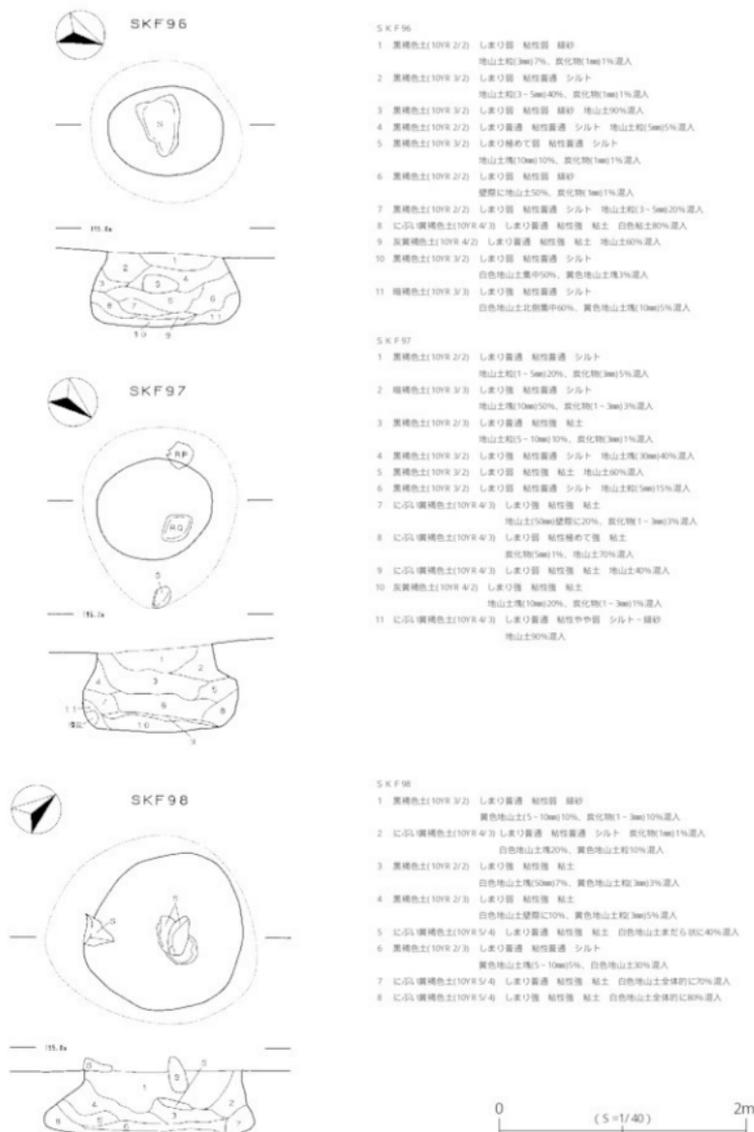
S K F 97 フラスコ状土坑 (第37・42・45図、図版14・17)

M C 46 グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸95cm、短軸82cmの円形を呈し、長軸方向はN64° W、確認面からの深さは69cmである。



第36図 SKF93・95フラスコ状土坑



第37図 S K F 96・97・98フラスコ状土坑

壁は全体的にオーバーハングし、底面から中位まで膨らみをもち、内傾しながら立ち上がる。一部北西側が中位からほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、円形を呈する。

覆土は11層に分層した。遺物は下位からほぼ完形の深鉢形土器が1点（第42図64）、石皿1点（第45図87）、礫1点が出土した。64は縄文時代晩期前葉に比定される深鉢形土器で、口唇部にB字状突起が施され、その突起の中心から横位の沈線が派生し、1対の補修孔が穿たれる。胴部には単節LRの斜行縄文が施される。87は円礫の平坦面に磨痕、端部に敲打痕を有する。

ほぼ完形の深鉢形土器が出土したことや礫の出土状況から、貯蔵穴から転用した土坑墓と考えられる。

S K F 98 フラスコ状土坑（第37・42図、図版14・18）

M B 45・46、M C 45グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸133cm、短軸120cmの不整な楕円形を呈し、長軸方向はN30° E、確認面からの深さは53cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、北側は底面からほぼ垂直に立ち上がり、南側は底面から上位に緩やかに内傾し、その後屈曲してほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は8層に分層した。堆積状況は不明である。遺物は上位から縄文土器片3点（第42図65）、剥片1点、礫3点が出土した。65は中期に比定される深鉢形土器の胴部で複節LRの斜行縄文を施した後、沈線で楕円を施文する。確認面で出土した礫は縦に配され、その直下の中位にも扁平な礫を置いている。この礫の配置状況から土坑墓と想定することが可能であろう。

S K F 104 フラスコ状土坑（第38・42図、図版14・17）

M F 44グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸135cm、短軸123cmの不整な円形を呈し、長軸方向はN30° W、確認面からの深さは100cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は10層に分層した。遺物は底面からほぼ完形の台付鉢形土器1点（第42図66）、縄文土器片2点、UF1点、礫1点が出土した。66は縄文時代後期後葉に比定され、口縁部には単節LRの入組状の磨消縄文が施され、底部には高台が付く。

土器の出土状況から貯蔵穴から転用した土坑墓と考えられる。

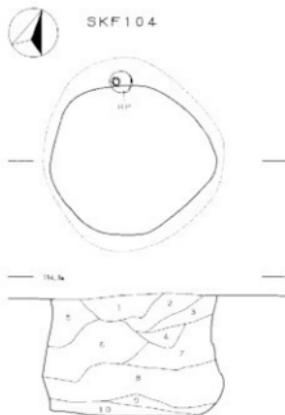
S K F 105 フラスコ状土坑（第39・42・45・46図、図版14・18）

M K・M L 43グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

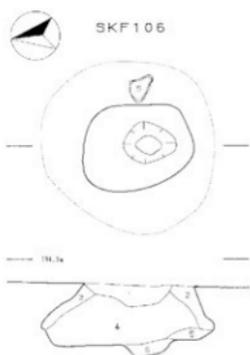
開口部の平面形は長軸115cm、短軸99cmの不整な楕円形を呈し、長軸方向はN47° E、確認面からの深さは128cmである。

壁は全体的に大きくオーバーハングし、北側は底面から上位はほぼ垂直に、その後屈曲して緩やかに内傾しながら立ち上がる。南側は底面から中位は外傾し、中位（確認面からの深さ約55cm）で最大径を測り、その後屈曲して内傾しながら立ち上がる。底面は南西から北東に緩やかに傾斜し、不整な円形を呈する。また底面南東部から直径36cm、深さ16cmのピットを1基を検出した。

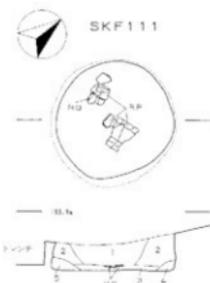
覆土は31層に分層した。底面付近で地山土に由来する黄褐色土が見られ、人為堆積と考えられる。



- SKF 104
- 1 黒褐色土(10R 3/1) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土程(1-5)603%, 炭化物(160)1%混入
 - 2 黒褐色土(10R 3/2) しまり普通 粘性弱 シルト
地山土程(1-3)605%, 炭化物(160)1%混入
 - 3 黒褐色土(10R 2/2) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土程(1-10)613%, 炭化物(160)1%混入
 - 4 黒褐色土(10R 3/2) しまり弱 粘性普通 シルト
地山土程(1-5)603%, 炭化物(160)3%混入
 - 5 黒褐色土(10R 3/2) しまり弱 粘性弱 シルト
地山土程(1-5)603%, 炭化物(160)1%混入
 - 6 黒褐色土(10R 2/2) しまり強 粘性弱 シルト
地山土程(1-5)605%, 炭化物(1-2)602%混入
地山土30%混入
 - 7 黒褐色土(10R 2/2) しまり強 粘性普通 シルト
地山土程(1-10)615%, 炭化物(1-3)602%混入
 - 8 黒褐色土(10R 3/2) しまり強 粘性極めて弱 シルト
地山土程(1-5)605%, 炭化物(1-2)602%混入
 - 9 にごい(黒褐色土(10R 6/4) しまり普通 粘性極めて弱 シルト
8層の土30%混入
 - 10 灰黒褐色土(10R 4/2) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土程(1-5)602%, 炭化物(160)1%混入



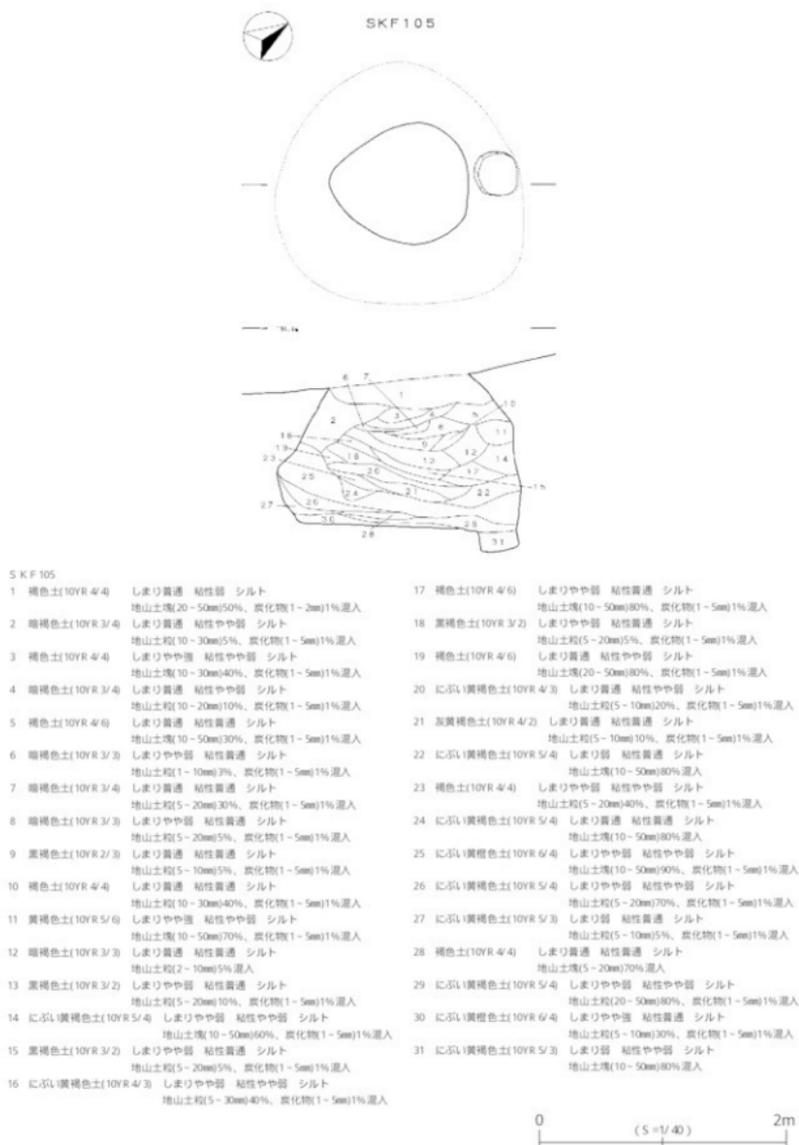
- SKF 106
- 1 黒色土(10R 1/21) しまり強 粘性弱 シルト
地山土程(1-7)607%, 炭化物(160)1%混入
 - 2 黒褐色土(10R 2/3) しまり普通 粘性普通 シルト
炭化物(160)1%, 地山土40%混入
 - 3 黒褐色土(10R 2/3) しまり普通 粘性普通 シルト 2層に類似
地山土程(1-7)610%, 地山土50%混入
 - 4 黒色土(10R 2/1) しまり弱 粘性弱 シルト
地山土程(1-5)603%, 炭化物(160)1%混入
 - 5 黒褐色土(10R 3/2) しまり強 粘性普通 シルト
地山土程(1-2)603%, 炭化物(160)1%混入
地山土40%混入
 - 6 黒褐色土(10R 2/2) しまり強 粘性弱 シルト
地山土程(160)7%, 炭化物(160)1%混入



- SKF 111
- 1 暗褐色土(10R 3/3) しまり普通 粘性弱 シルト
地山土程(10-30)610%, 炭化物(1-2)601%混入
 - 2 にごい(黒褐色土(10R 5/4) しまり普通 粘性やや弱 シルト
地山土程(1-5)603%, 炭化物(1-5)601%混入
 - 3 褐色土(10R 4/4) しまりやや弱 粘性弱 シルト
炭化物(1-2)601%混入 地山由来土
 - 4 暗褐色土(10R 3/3) しまり弱 粘性やや弱 シルト
地山土程(1-5)601%, 炭化物(1-2)601%混入
 - 5 にごい(黒褐色土(10R 4/3) しまりやや弱 粘性弱 シルト
地山土程(1-10)605%, 炭化物(1-2)601%混入

0 (5=1/40) 2m

第38図 S K F 104・106・111フラスコ状土坑



第39図 SKF105プラスチック状土坑

遺物は底面付近から縄文土器1点(第42図67)、礫器1点(第45図88)、磨製石斧1点(第46図89)、U F 1点、剥片1点、敲磨器類2点(第46図90・91)、礫1点が出土した。67は粗製の深鉢形土器の胴部-底部で、胴部には単節LRの斜行縄文を施す。88は角礫の端部を背腹両面から剥離調整し、刃部を形成している。89はいわゆる定角式磨製石斧で、刃部が一部欠損している。90は円礫の平坦面両面にアバタ状の敲打痕がみられる。91は円礫の平坦面両面に磨痕、中央部に敲打痕による凹部を有し、半分が欠損する。

S K F 106フラスコ状土坑(第38図、図版14)

M E 44グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸88cm、短軸71cmの不整な隅丸方形を呈し、長軸方向はN10° W、確認面からの深さは50cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面から中位に向かって急に外傾し、中位(確認面から深さ約63cm)で最大径を測り、その後屈曲して緩やかに内傾して立ち上がる。底面は中央部に浅い凹部を有し、不整な円形を呈する。

覆土は6層に分層した。黒褐色土を主体とした自然堆積と考えられる。遺物は出土しなかった。

S K F 111フラスコ状土坑(第38・42・46図、図版15・17)

M L 43グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸99cm、短軸94cmの円形を呈し、長軸方向はN27° W、確認面からの深さは30cmである。

壁は全体的にオーバーハングし、底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で、不整な円形を呈する。

覆土は5層に分層した。全体的に一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は底面付近から粗製の深鉢形土器の口縁-胴部1点(第42図68)、敲磨器類1点(第46図92)が出土した。68は口唇部にナデが見られ、胴部に単節LRの斜行縄文を施す。92は円礫の端部に敲打痕を有する。

土器の出土状況から、貯蔵穴から転用した土坑墓の可能性がある。

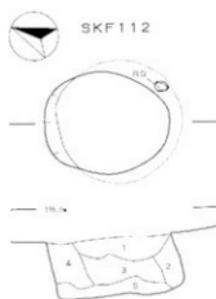
S K F 112フラスコ状土坑(第40・42・46図、図版15・18)

M D 53グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸102cm、短軸84cmの楕円形を呈し、長軸方向はN23° W、確認面からの深さは48cmである。

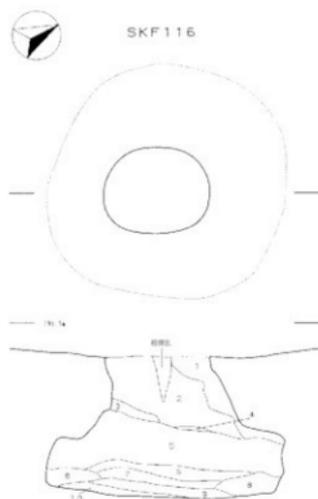
壁は北側を除きオーバーハングし、底面から急に内傾しながら立ち上がる。北側は急に外傾しながら立ち上がる。底面は若干の凹凸があり、円形を呈する。

覆土は5層に分層した。上位で地山土に由来する褐色土が見られ、人為堆積と考えられる。遺物は縄文土器片12点(第42図69-74)、石槍1点(第46図93)、スクレイパー1点(第46図94)、敲磨器類1点(第46図95)、円盤状石製品1点(第46図96)、R F 1点、U F 1点、剥片4点が出土した。69-74は縄文時代後期前葉に比定される土器で、69は波状を呈し、口縁部に粘土紐の隆線で方形を区画し、胴部には単節LRの斜行縄文を施し、沈線で曲線を描く。70-72は口縁部に横位の平行沈線を施し、沈線間に爪形状の刺突が連続する。93は背腹両面を剥離調整して尖頭部と基部を作出し、平面形は木の葉形を呈する。尖頭部と基部が欠損している。94は全面に剥離が見られる。95は円礫の平坦



SKF112

- 1 にがし黄褐色土(10YR 5/4) しまり強 粘性やや弱 シルト
炭化物(1-2mm)3%混入
シラス由来土
- 2 暗褐色土(10YR 3/4) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土粒(1-5mm)5%、炭化物(1-2mm)1%混入
- 3 黒褐色土(10YR 3/2) しまりやや強 粘性やや弱 シルト
地山土粒(1-10mm)3%、炭化物(1-5mm)3%混入
- 4 暗褐色土(10YR 3/3) しまりやや弱 粘性やや弱 シルト
地山土粒(1-5mm)3%、炭化物(1-5mm)1%混入
- 5 黒褐色土(10YR 2/2) しまりやや強 粘性普通 シルト
地山土粒(1-10mm)3%、炭化物(1-5mm)3%混入



SKF116

SKF116

- 1 にがし黄褐色土(10YR 4/3) しまり普通 粘性やや弱 シルト
地山土粒(5-10mm)10%、炭化物(1-2mm)1%混入
- 2 にがし黄褐色土(10YR 6/4) しまり普通 粘性普通 シルト
炭化物(1-5mm)1%混入
シラスの埋め戻し土
- 3 褐色土(10YR 4/4) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)20%、炭化物(1-2mm)3%混入
- 4 暗褐色土(10YR 3/4) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)20%、炭化物(1-2mm)1%混入
- 5 黄褐色土(10YR 5/6) しまりやや弱 粘性やや強 シルト
炭化物(1-2mm)1%混入
地山の埋め戻し土
- 6 暗褐色土(10YR 3/3) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)5%、炭化物(1-5mm)3%混入
- 7 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)10%、炭化物(1-10mm)1%混入
- 8 にがし黄褐色土(10YR 6/4) しまり普通 粘性やや弱 シルト
シラス壁面の剥落土
- 9 暗褐色土(10YR 3/4) しまり普通 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)5%、炭化物(1-10mm)1%混入
- 10 褐色土(10YR 4/4) しまりやや弱 粘性普通 シルト
地山土粒(5-10mm)30%、炭化物(1-2mm)1%混入



第40図 SKF112・116フラスコ状土坑

面の1面に磨痕が見られる。

S K F 116フラスコ状土坑(第40・42図、図版15)

M J 44グリッドに位置する。地山面精査中に確認した。

開口部の平面形は長軸82cm、短軸71cmの楕円形を呈し、長軸方向がN25° E、確認面からの深さは114cmである。壁は全体的にオーバーハングし、底面から中位はほぼ垂直に、その後直角に屈曲して頸部を持つ。その後急に内傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦で、円形を呈する。

覆土は10層に分層した。上位で地山土に由来するにぶい黄橙色土、中位で黄褐色土が見られ、一括して埋め戻された人為堆積と考えられる。遺物は縄文土器の底部1点(第42図75)、R F 1点が出土した。

7 柱穴様ビット

柱穴様ビットは85基検出した。その分布については調査区西部から中央部に広がる。詳細な時期・性格は不明である。第5表に位置、形態、規模等の一覧を提示し、個々の詳細について割愛する。

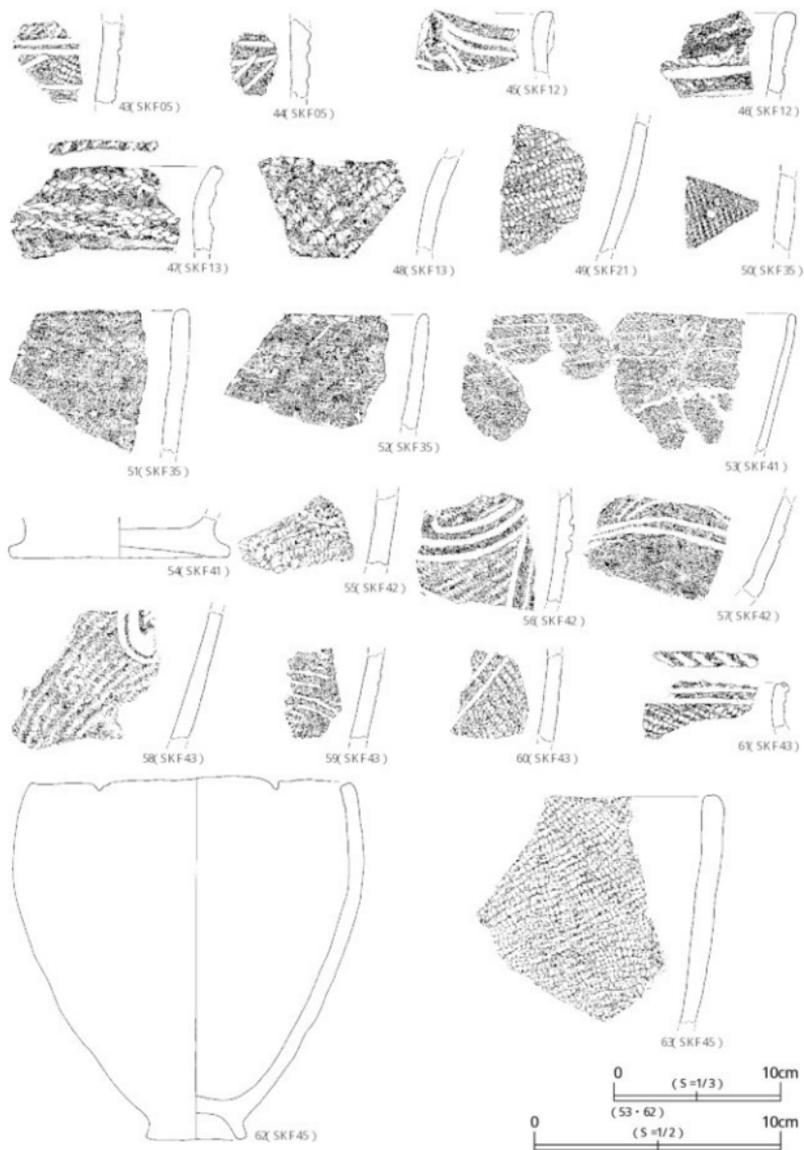
1 平面形の表記には以下の略号を用いた。

円形：A 楕円形：B 方形：C 不整形：D 不整円形：D A

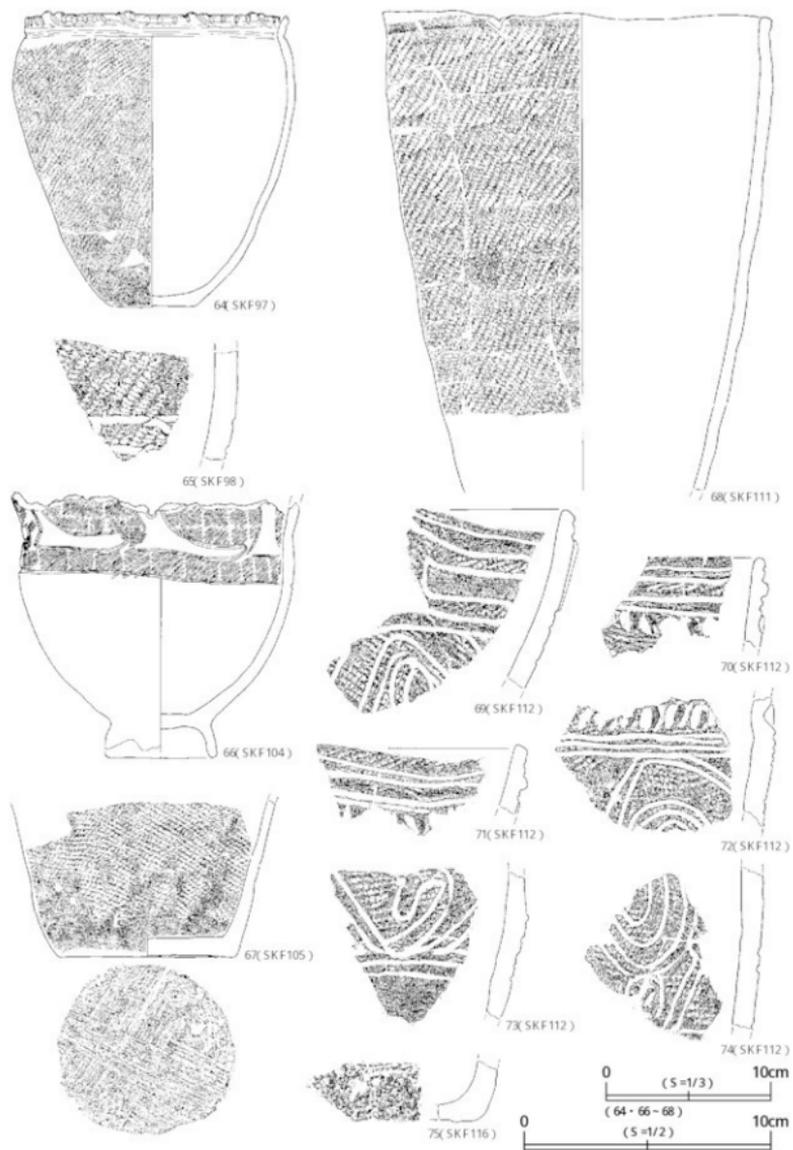
2 覆土の表記には以下の略号を用い、該当するものは全て列記した。

黒(褐)色土主体：A 地山土主体：B 黒(褐)色土と地山土の混合土：C

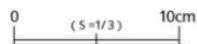
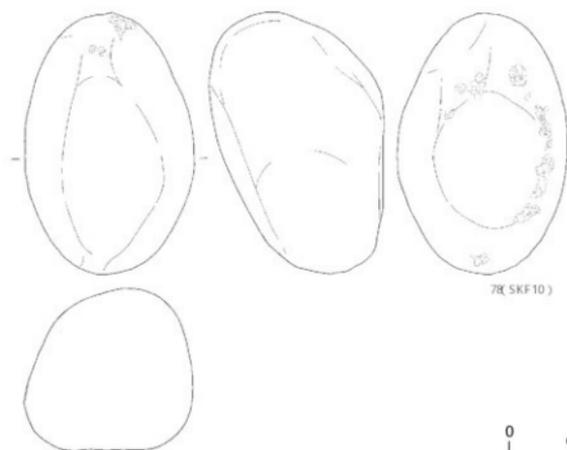
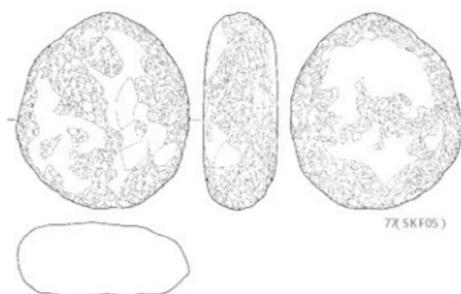
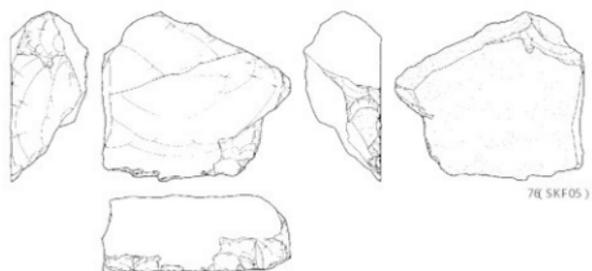
また柱痕が確認された場合、()内にその表記を行った。



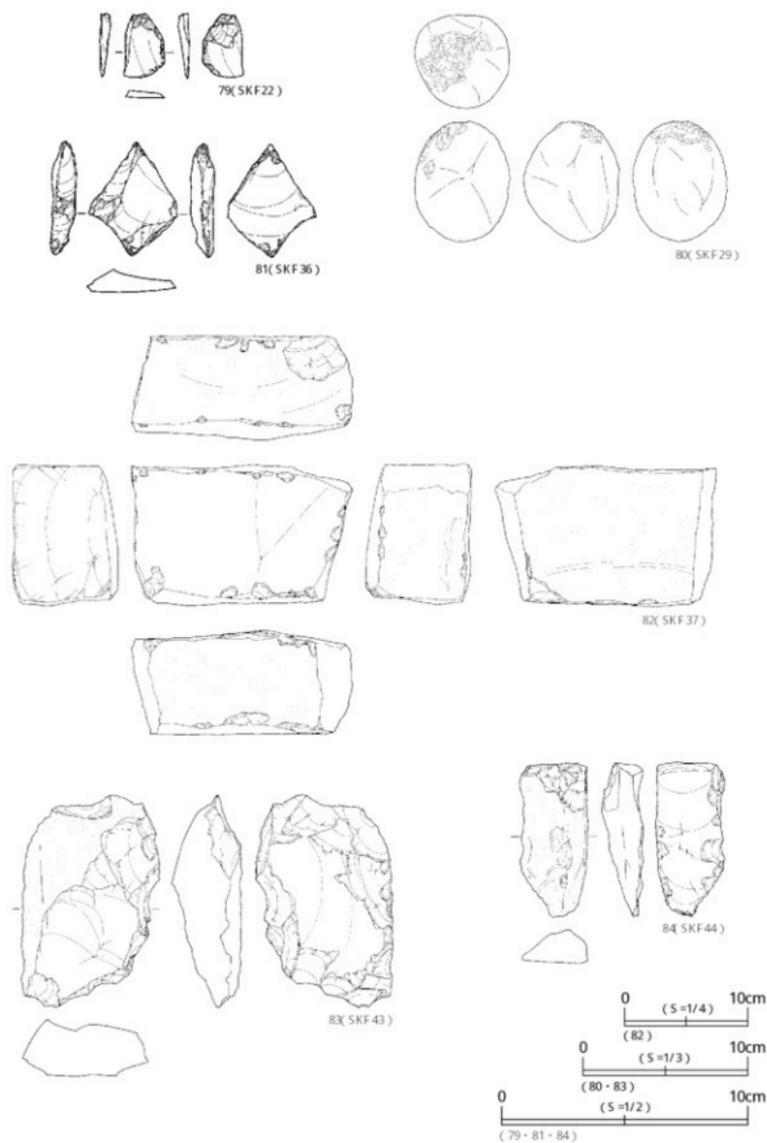
第41図 S K F 05・12・13・21・35・41・42・43・45出土土器



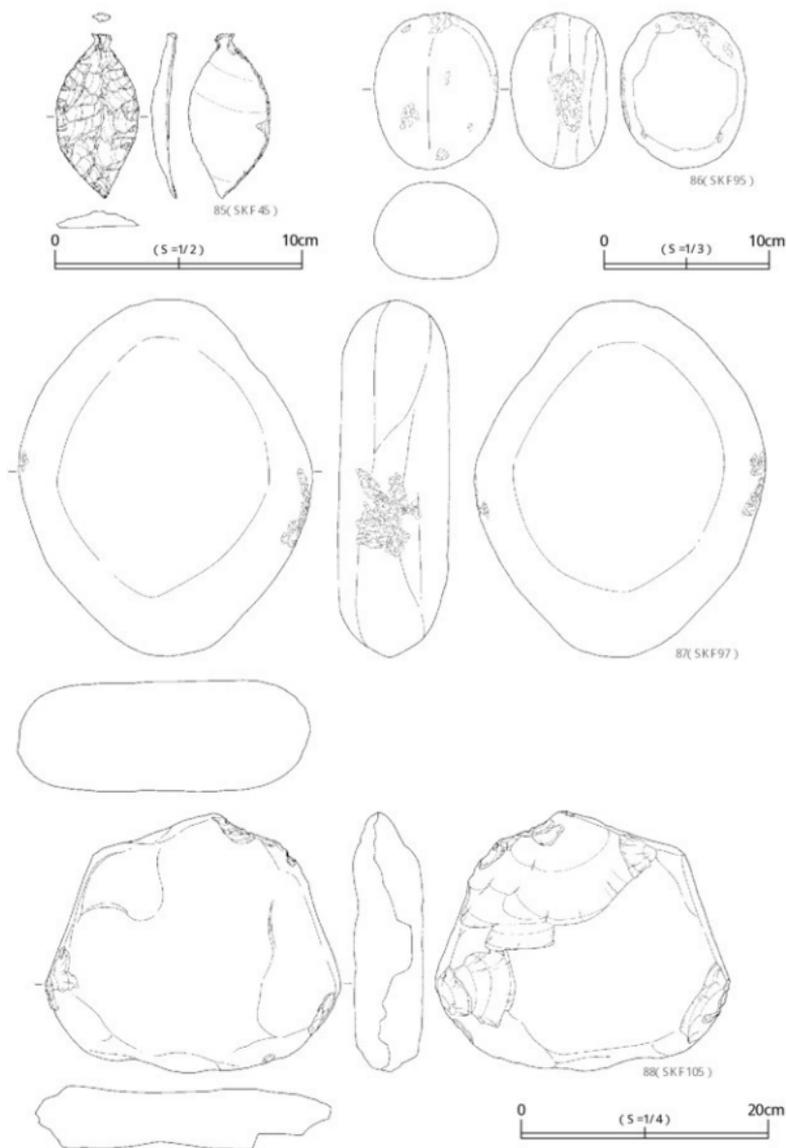
第42図 SKF97・98・104・105・111・112・116出土土器



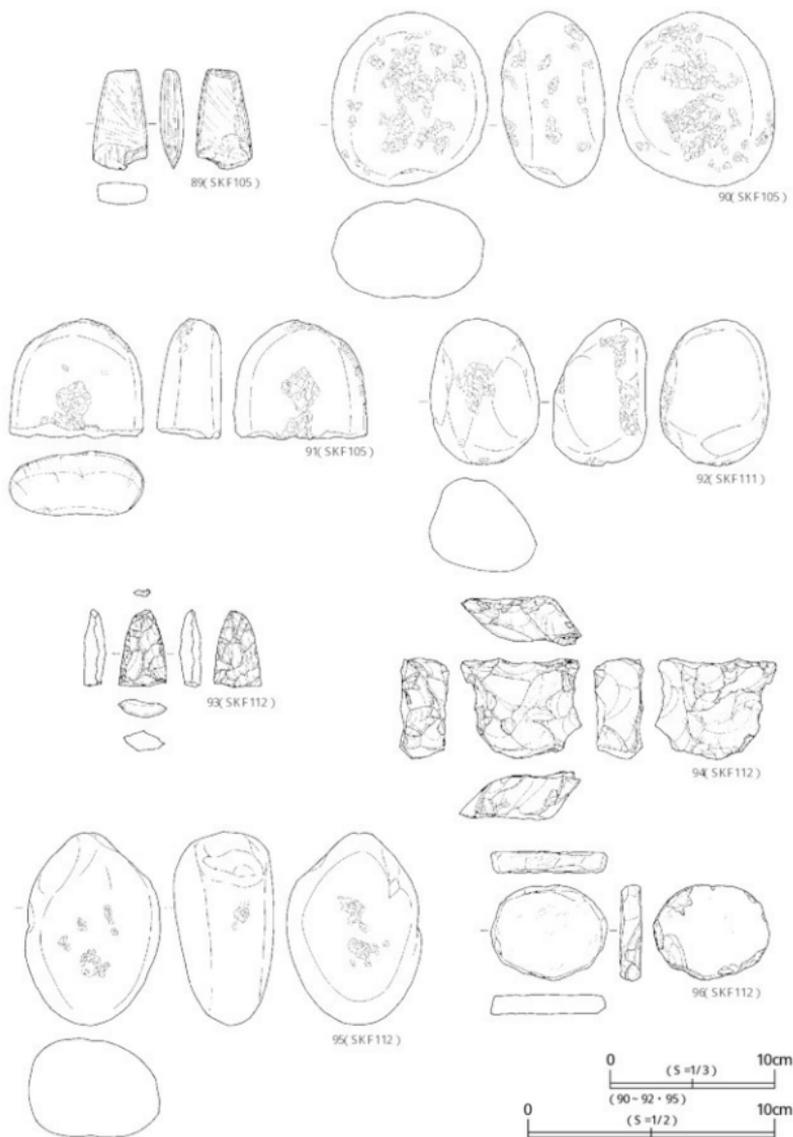
第43図 S K F 05・10出土石器



第44図 SKF 22・29・36・37・43・44出土石器



第45図 S K F 45・95・97・105出土石器



第46図 S K F 105・111・112出土石器

第3表 土坑一覧表

遺構番号	検出番号	図面番号	グリッド位置	遺構	平面形	口径(cm)	深さ(cm)	底径(cm)	長軸方向
S K 02	18-22	7	M K 44	S R 01 新	楕円方形	127× 125	20	N 82° W	
S K 03	18	7	M G 46-47, M H 46-47		円形	122× 114	26	N 20° E	
S K 07	18	7	M G 47		楕円方形	99× 94	45	N 19° W	
S K 08	19-22	7-17	M D・M E 46		不整な円形	166× 148	25	N 40° E	
S K 24	19	7	M D 48		不整な円形	120× 116	18	N 53° W	
S K 25	19	7	M C・M D 48	M D 48 P 01 旧	不整な楕円形	65× 51	62	N 20° W	
S K 27	19	7	M C 49, M D 49-50		楕円形	92× 73	15	N 85° W	
S K 30	20	7	M B 50		不整な円形	110× 99	28	N 1° W	
S K 72	20	8	L N 53-54		円形	90× 89	10	N 83° E	
S K 73	20	8	L N 52-53		円形	78× 68	16	N 30° W	
S K 84	20	8	L G 47		円形	129× 117	23	N 80° E	
S K 99	20	8	M B 47		不整な円形	115× 105	21	N 70° E	
S K 100	21	8	M K 42	S K 101 新	不整な円形	98× 82	16	N 57° W	
S K 101	21-22	8-17	M J・M K 42	3× 30× 10-18 旧	不整な円形	(129× 118)	31	N 50° W	
S K 102	21	8	M K 42	S K 101 新	不整な楕円形	92× 81	5	N 70° E	
S K 103	21	9	M J・M K 42	S K 101 新	円形	109× 101	32	N 82° E	
S K 110	21	9	M L 43		円形	106× 95	87	N 25° E	
S K 114	22	9	M B 49-46		円形	108× 105	16	N 30° E	

第4表 フラスコ状土坑一覧表

遺構番号	検出番号	図面番号	グリッド位置	遺構	平面形	口径(cm)	深さ(cm)	底径(cm)	長軸方向
S K F 04	23	9	M J 44		不整な円形	87× 75	50	156× 138	N 23° W
S K F 05	23-41-43	9-18	M F 46		円形	145× 123	26	146× 134	N 44° W
S K F 06	23	9	M E 46		楕円形	106× 101	26	130× 111	N 23° E
S K F 10	24-43	9	M D 46-47, M E 46-47		不整な楕円形	111× 108	53	165× 151	N 16° W
S K F 11	25	9	M C・M D 45		楕円形	(142× 116)	62	148× 136	N 16° W
S K F 12	24-41	10-18	M G 47	S K F 13 新	不整な円形	107× 96	66	219× 174	N 62° W
S K F 13	24-41	10-18	M G 47-48	S K F 12 旧	円形	(138× 132)	66	155× 146	N 23° W
S K F 14	25	10	M F 47-48		不整な円形	115× 102	90	199× 191	N 11° E
S K F 16	26	10	M E 48		円形	132× 108	37	117× 116	N 18° E
S K F 17	27	10	M D 46-48, M E 43-48		不整な円形	150× 126	76	173× 161	N 21° W
S K F 18	27	10	M E 48		不整な円形	102× 94	31	136× 124	N 6° W
S K F 19	26	10	M E・M F 47	S K F 20 新	楕円形	138× 110	28	172× 148	N 82° W
S K F 20	26	10	M E 47	S K F 19 旧	不整な円形	(153× 123)	72	192× 185	N 80° W
S K F 21	28-41	11-18	M E・M F 48		楕円形	130× 142	98	182× 177	N 62° W
S K F 22	29-44	11	M D・M E 48	M E 48 P 01 旧	不整な楕円形	(71× 52)	50	113× 110	N 72° W
S K F 26	29	11	M C・M D 49		円形	109× 93	104	169× 160	N 45° W
S K F 29	30-44	11	M D 47		円形	111× 105	18	120× 116	N 43° E
S K F 32	30	11	M E 50-51		楕円形	80× 72	69	123× 108	N 41° W
S K F 34	30	12	M D 51		不整な楕円方形	110× 103	85	164× 147	N 82° E
S K F 35	31-41	12-18	M D 51-52		円形	154× 134	126	214× 204	N 16° E
S K F 36	31-44	12	M C 53		円形	93× 82	40	128× 125	N 16° E
S K F 37	32-44	12	M B 53-54		不整な円形	138× 120	32	155× 138	N 75° E
S K F 38	32	12	M C 54		楕円形	121× 119	55	195× 188	N 53° W
S K F 40	32	12	M B 54		円形	(104× 90)	67	156× 130	N 81° E
S K F 41	33-41	12-18	M B 54	S K F 42 不崩	円形	(111× 100)	48	134× 133	N 29° W
S K F 42	33-41	12-18	M B 54	S K F 41 不崩	円形	(104× 87)	47	150× 146	N 22° W
S K F 43	33-41-44	13-18	M B 54-55		楕円形	118× 93	73	142× 118	N 70° W
S K F 44	33-44	13	M D 54-55		楕円形	98× 75	19	115× 102	N 44° W
S K F 46	34-41-46	13-19-18	M A 54		円形	134× 132	93	186× 166	N 85° W
S K F 75	35	13	L N 52		楕円形	(133× 101)	58	145× 130	N 27° W
S K F 86	35	13	L F 48		円形	90× 84	31	123× 102	N 14° W
S K F 92	35	13	M J・M K 43		不整な楕円形	90× 70	136	165× 140	N 64° E
S K F 93	36	13	M J・M K 43		円形	92× 88	80	104× 96	N 72° W
S K F 95	36-45	14	M J 44		不整な楕円形	135× 95	84	166× 156	N 45° W
S K F 96	37	14	M H 47		楕円形	95× 73	61	125× 116	N 24° W
S K F 97	37-42-46	14-17	M C 46		円形	95× 82	69	150× 125	N 62° W
S K F 98	37-42	14-18	M B 49-46, M C 45		不整な楕円形	133× 120	53	171× 150	N 30° E
S K F 104	39-42	14-17	M F 44		不整な円形	135× 123	100	170× 160	N 30° W
S K F 105	39-42-46	14-18	M K・M L 43		不整な楕円形	115× 99	128	218× 199	N 40° E
S K F 106	38	14	M E 44		不整な楕円方形	88× 71	50	148× 140	N 10° W
S K F 111	38-42-46	15-17	M L 43		円形	99× 94	30	105× 100	N 27° W
S K F 112	40-42-46	15-18	M D 53		楕円形	102× 84	48	104× 101	N 23° W
S K F 116	40-42	15	M J 44		楕円形	82× 71	114	206× 197	N 25° E

第5表 柱穴様ビット一覧表

地区	番号	平面形	長さ (cm)	外径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	層土	出土遺物	備考
LK55	01	A	36	35	29	195.91	C		
	02	A	34	30	35	195.808	C		
	03	A	46	45	15	195.821	C		
	04	A	30	29	16	195.957	C		
LM50	01	A	36	31	15	195.291	C		
LM51	01	A	32	31	13	195.819	C		
	02	B	34	24	22	195.785	C		
LM52	01	A	33	31	20	195.759	C		
	02	B	38	33	25	195.846	C		
	03	A	34	33	35	195.841	C		
	04	B	27	24	24	196.016	C		
LM53	01	B	25	19	44	195.890	C		
	02	B	34	22	65	195.653	C		
	03	A	25	22	18	196.104	C		
	04	A	28	25	19	196.095	C		
	05	A	32	30	73	195.484	C		
	06	A	27	25	15	195.926	C		
	07	C	29	25	27	196.086	C		
LM54	01	A	33	30	18	195.901	C		
	02	A	27	25	38	195.730	C		
	03	B	30	20	48	195.853	C		
LM55	01	A	22	17	31	195.711	C		
	02	A	19	15	20	195.651	C		
LM56	01	A	20	19	12	195.549	C		
LM57	01	B	50	38	53	194.578	C		
LNS2	01	A	48	45	27	195.153	C		
	02	A	47	38	21	195.315	C		
	03	A	28	28	17	195.644	C		
	04	B	38	22	19	195.797	C		
LNS3	01	B	27	23	17	195.959	C		
	01	A	26	25	26	195.431	C		
LNS7	01	B	46	40	14	194.936	C		
	02	B	46	40	12	194.671	C		
	01	C	30	25	34	195.184	A		
LOS2	02	DA	29	21	46	194.990	A	陶器1点	
	03	A	30	20	23	195.104	C		
	04	A	20	15	44	194.901	C		
	05	A	23	19	18	194.999	C		
	01	A	30	27	45	194.988	C		
LOS7	02	A	23	20	30	194.778	C		
	01	C	26	25	42	194.488	C		
	02	C	44	44	14	194.410	C		
LOS3	03	C	43	40	22	194.733	C		
	01	A	40	38	10	194.886	C		
LP55	01	A	35	32	38	194.475	C		
LTS4	01	B	43	24	48	194.547	C		
	02	A	38	32	62	194.427	C		
	03	A	27	20	43	194.554	B		
04	A	22	22	49	194.564	A			
MAS4	01	A	56	52	62	193.707	C		
	02	B	49	42	27	193.919	C		
	03	B	56	45	47	193.871	C		
MB47	01	C	31	24	16	194.852	A		
MB49	01	A	33	32	31	194.695	C		
	02	A	35	32	51	194.519	(A)C	柱痕	
	03	A	30	29	22	194.793	(A)C	柱痕	
MB50	01	A	32	28	23	194.836	C		
	02	B	34	25	14	194.924	A		
MC45	01	A	38	30	45	194.512	C		
MC46	01	A	34	30	29	194.745	B		
MC47	01	A	32	27	17	194.872	B		
	02	A	30	26	20	194.776	C		
	03	A	33	26	22	194.761	B		
MC48	01	A	23	23	23	194.748	C		
	01	C	28	24	20	194.823	B		
MC49	02	C	26	25	21	194.805	B		
	03	A	34	30	38	194.623	(A)C	柱痕	
	04	A	37	34	48	194.569	(A)C	柱痕	
	02	DA	28	24	17	194.859	A		
MC51	01	A	37	31	11	194.921	C		
MD45	02	DA	28	24	17	194.859	A		
	01	A	32	24	28	194.685	B		
	01	A	35	32	23	194.695	C		
MD46	01	A	20	19	28	194.704	C		
MD48	02	A	33	27	43	194.538	(A)C	柱痕	
	03	A	31	30	33	194.625	(A)C	柱痕	
	01	C	30	24	17	194.801	B		
ME46	01	A	35	35	35	194.617	B		
MF46	01	C	33	30	31	194.602	A		
	01	A	27	26	37	194.599	(A)C	柱痕	
MF47	02	A	27	25	38	194.585	(A)C	柱痕	
	01	DA	32	25	18	194.788	C		
MG45	02	DA	34	29	19	194.774	C		
	03	A	34	30	41	194.553	(A)C	柱痕	
	04	A	36	35	36	194.591	(A)C	柱痕	
	05	A	30	29	36	194.586	(A)B	柱痕	

第3節 遺構外出土遺物

1 縄文時代の遺物

縄文時代の遺物は、縄文時代中期～後期のもので、主体となるのは縄文時代後期初頭から前葉の土器である。以下に細分して記す。

(1) 土器・土製品

縄文時代中期の土器（第47図97～100、図版19）

すべて深鉢形土器の破片資料である。円筒上層式土器と考えられ、粘土紐貼付隆帯を施し、隆帯間には刺突が施される。

縄文時代後期初頭～前葉の土器（第47～51図101～197、図版19～21）

1群 直線・曲線・渦巻き状・S字状などの沈線文を施文した土器（第47～51図101～194、図版19～21）

1類 地文として縄文を施文したもの（101～148）

101～144は深鉢形土器で、101は完形、102～130は口縁部及び口縁部～胴部、131～144は胴部である。101は口縁が5単位の波状を呈し、口縁部には横位の粘土紐貼付隆帯を施し、隆帯に沿って沈線が施される。沈線は波頂部下位で楕円形、渦巻きを描く。また口頸部、胴部上位、下位に平行沈線を施し、沈線間に単節LRの斜行縄文を施文後、三角形、渦巻き、蛇行等の沈線文を描く。胴下部は無文帯である。102～106は口縁部が波状を呈し、横位の粘土紐貼付隆帯が施される。102・103は波頂部の口唇部に刺突を施す。口縁部の横位の粘土紐貼付隆帯上には刺突が連続し、隆帯に沿った沈線は方形又は楕円形を描き、波頂部下位では楕円形、渦巻きを描く。107～110は波頂部直下に縦位の粘土紐を貼り付け、107～109は口縁部に横位の楕円形の沈線文を施す。113～115は平行沈線の区画内に爪形状の刺突が連続するもので、113は左方向から、114は左右両方向から曲線的に、115は右方向から刺突が連続する。116は山形突起を施し、口縁部には横位の平行沈線を施す。山形突起下位を頂点として3条の平行沈線で三角形を描き、頂点から蛇行する沈線文が垂下する。126は口縁部に横位の平行沈線を施し、蛇行する沈線が垂下する。142は円形を中心として、4単位の渦巻きの沈線文が施される。

145～147は鉢形土器で、145・146は口縁～胴部、147は胴部である。145は口縁部上位と下位に横位の沈線を施し、沈線間には竹管状工具による刺突が連続する。

148は壺形土器の胴部で単節LRの斜行縄文に蛇行する沈線文を描く。

2類 地文として撚糸を施文したもの（149～158）

149～157は深鉢形土器で、149は口縁～底部、150は口縁～胴部、151～153は口縁部、154～157は胴部である。149は口縁が波状を呈し、口縁部には口端に沿って平行沈線が施される。胴部上位、下位にも横位の平行沈線が施され、平行沈線間には波頂部下に縦位の連結するU字・楕円形の沈線文を施し、これに対向する弧状の沈線文を施す。150は口縁が波状を呈し、波頂部直下に縦位の粘土紐を貼り付ける。この粘土紐を頂点として斜位の平行沈線で三角形文を施し、交点には刺突のあるボタン状突起を貼り付ける。156・157は網目状撚糸文を地文とし、横位、斜位、蛇行する沈線文を描く。

158は鉢形土器の口縁～胴部である。口縁は波状を呈し、波頂部から垂下する粘土紐貼付隆帯には刺突が連続する。口縁部は沈線で方形区画し、区画内は無文である。方形区画直下には横位に刺突が連続し、胴部には沈線で曲線を描く。

3類 沈線主体のもの(159～194)

159～178は深鉢形土器で、159～175は口縁部及び口縁部～胴部、176～178は胴部である。159・160は口縁が波状を呈し、波頂部直下に縦位のS字または渦巻き状の粘土紐を貼り付ける。また内面から外面に細長い粘土紐を貼り付ける。161は橋状把手が施されている。162・163は山形突起が施され、突起直下に縦位の刺突が2単位施される。172・173は平口縁で、口縁に沈線で円形を描き、その周りには4単位の刺突が施される。172はこの円形文から縦位の楕円形の沈線文が、173は横位の楕円形の沈線文が施される。

179～183は鉢形土器で、179～181は口縁～胴部、182・183は胴部である。181は口縁が波状を呈し、口唇部には刻みが入る。口縁から胴部には曲線・弧状の沈線文が施される。

184～187は壺形土器で、184・185は胴部、186は略完形、187は蓋部である。186は胴部上半に渦巻き状の沈線文が施され、下半は無文である。187は切断壺形土器の蓋部分で、対称的に2個の突起を配置し、突起には斜位の貫通孔が見られる。楕円形が崩れた沈線文を施し、内外面とも全面に赤色塗彩され、口縁部の内外面両面に黒色の漆状物質が付着する。

4類 赤色塗彩が施されたもの(188～194)

188・189・191・192は鉢形土器、190・193・194は深鉢形土器である。3類と同様に沈線文を主体とし、すべて内外面ともに赤色塗彩が施される。

2群 縄文原体の側面圧痕が主体の土器(第51図195～197、図版21)

すべて深鉢形土器で、195・196は口縁～胴部、197は胴部である。195は口縁部にボタン状突起を貼り付け、側面圧痕によって直線、弧線を描く。197は口縁部には横位の粘土紐貼付による隆帯の両側及び、下位には鋸歯状の側面圧痕を施す。

後期後葉の土器(第51図198・199、図版21)

ともに深鉢形土器で、198は胴部、199は口縁部である。199は口縁に単節LRの入組状の磨消縄文を施す。

その他の土器(第52・53図200～228、図版21)

1群 地文として体部に縄文が施されたもの(第52図200～205)

すべて深鉢形土器で、200～202は口縁部～胴部、203～205は胴部である。200は羽状縄文が、204・205は複節の斜行縄文が施される。

2群 地文として体部に刺突が連続して施されたもの(第52図206～209、図版21)

206～208は深鉢形土器である。206・207は竹管状工具で刺突が施され、208は爪形状の刺突が左方向から斜位に施される。209は横位の隆帯上に連続した刺突が施され、隆帯下には右方向から爪形状の刺突が施される。

3群 地文として体部に撚糸文を施したもの（第52・53図210～228、図版21）

すべて深鉢形土器である。220～223は網目状の撚糸文、224～228は不整撚糸文である。

4群 底部資料（第53図232～236）

土器製作時に置かれたものの圧痕が残る資料を扱った。233は木葉痕、234は網代痕、236は十字の線刻が見られる。

土製品（第53図229・230、図版21）

229・230は同一個体の板状土偶で、逆三角形を呈し、頭部～右肩部、左肩部、胴部上位が欠損している。左肩部には斜位に貫通孔が入る。胸部と下腹部に小さな膨らみをもつ。文様は表面は網目状に沈線を描き、沈線の交差する箇所に渦巻文を描く。裏面は沈線によって弧線、渦巻文を描く。

（2）石器・石製品

調査区全体からは総点数473点が出土し、遺構外からは総点数382点が出土した。その内訳は石鏃3点、石筥1点、石匙2点、不定形石器119点、微細剥離痕のある剥片（以下UF）43点、剥片145点、楔形石器7点、礫器3点、磨製石斧4点、石核3点、敲磨器類27点、石皿4点、砥石4点、円盤状石製品4点、不明石製品2点、礫11点が出土した。以下に概要を記す。

石鏃（第54図237～239、図版22）

237・238は凸基有茎石鏃である。239は凹基無茎石鏃で一部欠損している。

石筥（第54図240、図版22）

刃部付近で最大幅を測る椀形平面を呈し、背腹両面の周縁に調整剥離を施している。

石匙（第54図241・242、図版22）

241は主要刃部がつまみ部に対して横につき、背腹両面の周縁に剥離調整を施している。242は主要刃部がつまみ部に対して縦につき、背面の周縁を剥離調整を施している。しかし剥離調整が雑であるため、利用頻度の少ないものが、未製品の可能性がある。

不定形石器（第54～56図243～258、図版22）

二次加工の施された石器で、いわゆる石鏃などの定形石器を除いたものを不定形石器として扱った。以下に細分して記す。

1類：スクレイパー（243～252）

243～245は剥片を素材とし、側縁の背腹両面から剥離調整を加え、刃部を形成する。246は剥片を素材とし、一側縁を背面から、対向する一側縁を腹面から剥離調整を加え、刃部を形成する。247～250は剥片を素材とし、側縁の背面から剥離調整を加え、刃部を形成するもので、247・248は末端が尖り、249・250は尖らない。251は石筥状を呈し、基部を背腹両面剥離によって作出し、一側縁を背面からの調整によって丸刃を形成する。252は全面が剥離調整されている。

第4章 調査の記録

2類：RF (253-258)

剥片を素材とし、部分的な二次加工を有するものを扱った。

255は二次加工により尖頭を作出している。石錐の未製品の可能性がある。256・257は切断石器である。258は二次加工によって対向する縁辺に抉れを有する。

UF (第56図259-262)

剥片の縁辺に微細剥離痕を有する。

模形石器 (第56図263・264)

剥片を素材とし、両極剥離を有する。

礫器 (第56・57図265-267)

265は自然面を大きく残し、端部に背腹両面からの剥離調整によって刃部を形成する。刃部はほぼ直刃で、刃角は急である。266・267は礫の一部に背腹両面から剥離調整を加え、刃部を形成している。

磨製石斧 (第57図268-271、図版22)

268・269はいわゆる定角式磨製石斧である。268は刃部が一部欠損する。270・271はいわゆる乳棒状磨製石斧である。ともに刃部が欠損し、敲打痕を有するため、敲石として転用した可能性がある。

石核 (第58図272-274)

272は打面と作業面を展開しながら、剥片剥離を行ったもの。273は平坦な打面を作出し、打面の周縁に沿って剥片剥離が行われたもの。274は両極石核である。

敲磨器類 (第59・60図275-290)

円形または棒状の礫を素材とし、磨痕、敲打痕等の使用痕が認められるものを敲磨器類として扱った。その機能から以下に細分して記す。

1類：敲石 (275-278)

275・276は棒状礫を素材とし、端部に敲打痕を有する。277は角礫を素材とし、礫周縁の全周にわたって敲打痕を有する。278は小型の円礫を素材とし、その端部に敲打痕を有する。

2類：磨石 (279・280)

279は円礫を素材とし、礫平坦面の片面に磨面を有する。280は円礫を素材とし、礫平坦面の両面に磨り面を有する。

3類：凹石 (281-283)

281-283は円礫を素材とし、礫平坦面両面の中央部に敲打による凹みを有するもので、281は凹部が浅く、282・283は凹部が深い。

4類：敲・磨石 (284・285)

284はやや厚めの楕円形の礫を素材とし、平坦面の片面に磨痕、対向面に敲打痕を有する。285は円

礫を素材とし、礫平坦面の同一面に磨痕、敲打痕を有する。

5類：磨・凹石（286～288）

286・287は楕円形の礫を素材とし、礫平坦面の片面に磨痕、対向する面の中央部に敲打による凹部を有する。288は円礫を素材とし、礫平坦面の同一面で磨痕、敲打痕を有する。

6類：敲・磨・凹石（289・290）

289・290は円礫を素材とし、礫平坦面の両面に磨痕、中央部に敲打による凹部を有し、周縁全周にわたって敲打痕を有する。

石皿（第61図291、図版22）

扁平な礫の全面を磨って三角形に成形し、縁辺に明確な縁取りを有する。使用面の中央部が浅く凹む。

砥石（第61・62図292～294）

角礫素材の一面中央部に浅くやや凹み、磨痕が見られる。

円盤状石製品（第62図295～298、図版22）

軟質な素材の礫の両面及び側面を研磨して円形に整形したものである。295～297は一部欠損するが、円形を呈し、298は大半が欠損している。

石製品（第62図299・300、図版22）

299は平面形は撥形を呈し、平坦である。300は楕形を呈し、内外面ともに器面調整している。

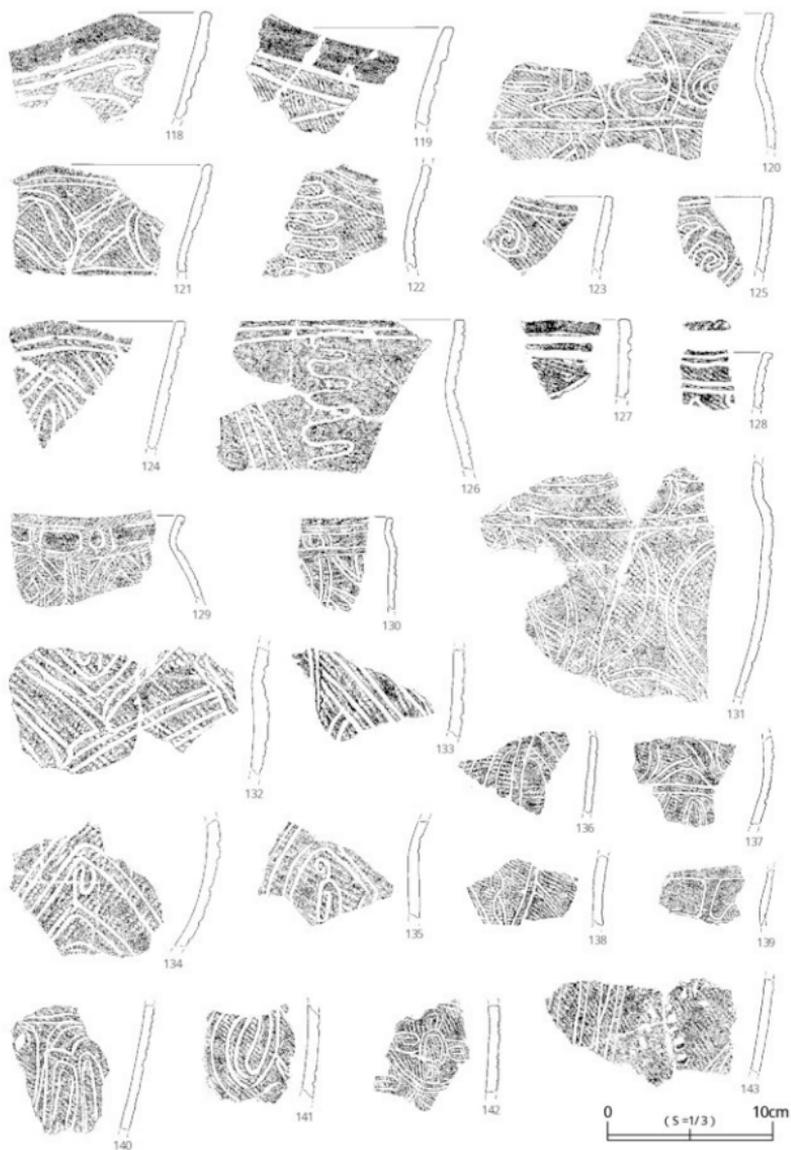
2 近世の遺物（第62図301～303、図版22）

近世の遺物は陶器、土製品等が出土した。

301は18世紀中頃の肥前産波佐見の碗で、2条の網目文が施される。302は肥前産の皿で、詳細な時期は不明である。303は犬をモチーフにした土製の人形で、前後型合せで成形し、底部に1つの穿孔を有する。詳細な時期・産地は不明である。



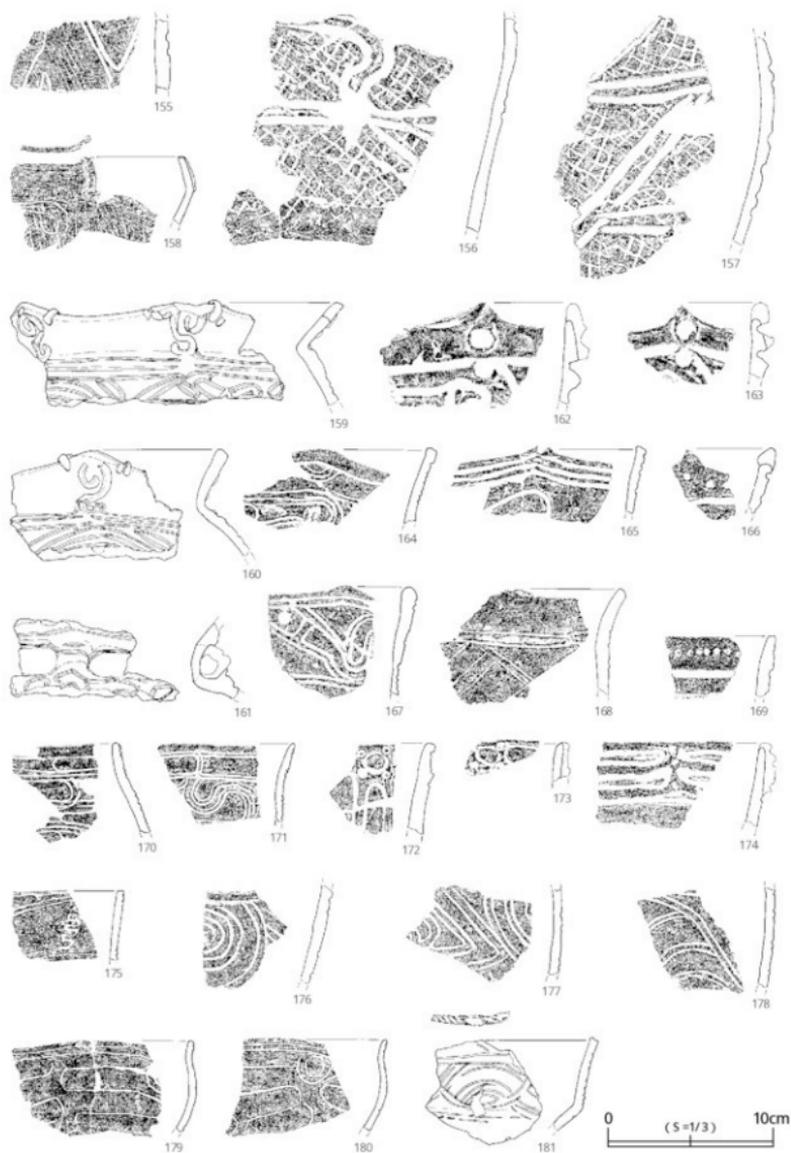
第47図 遺構外出土土器 縄文時代



第48図 遺構外出土土器 縄文時代



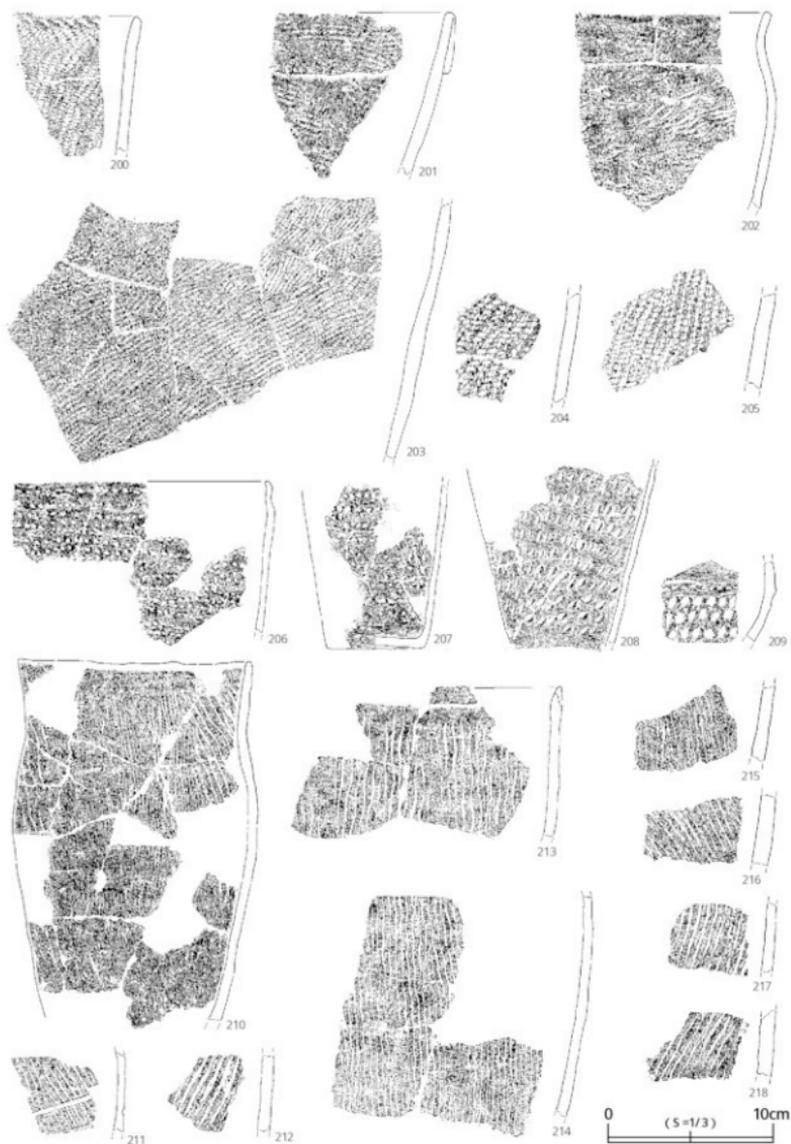
第49図 遺構外出土土器 縄文時代



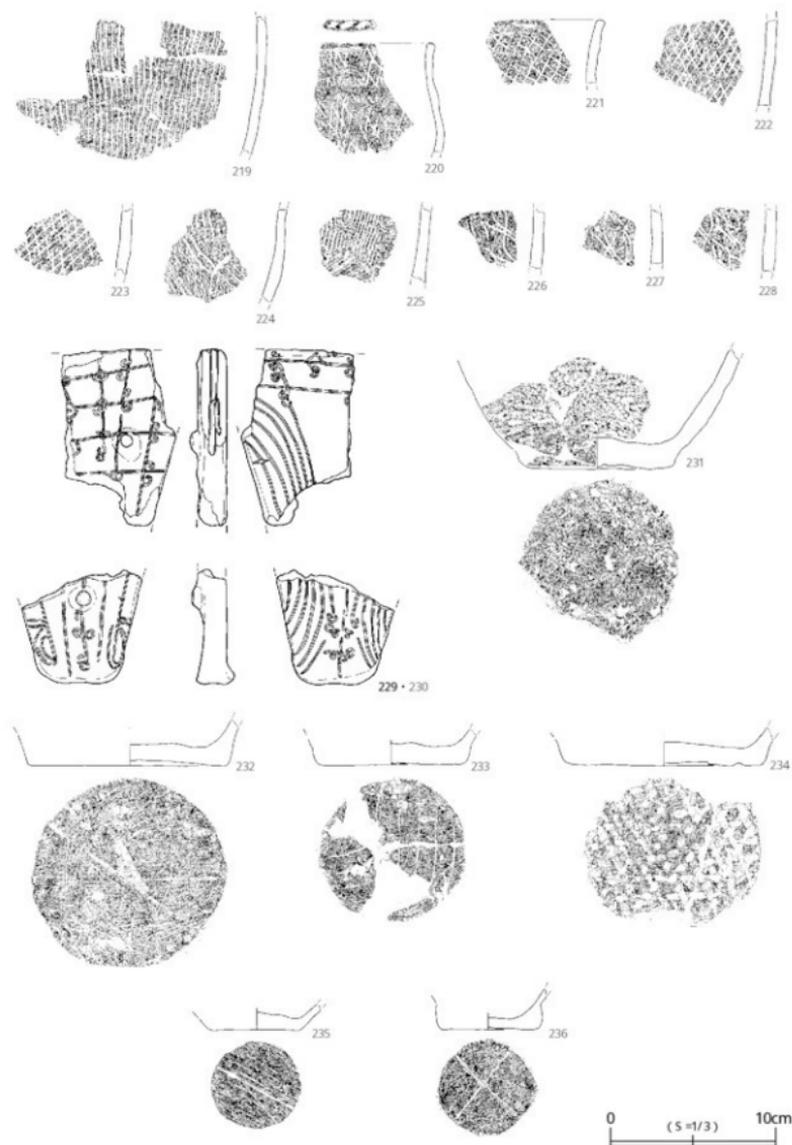
第50図 遺構外出土土器 縄文時代



第51図 遺構外出土土器 縄文時代



第52図 遺構外出土土器 縄文時代



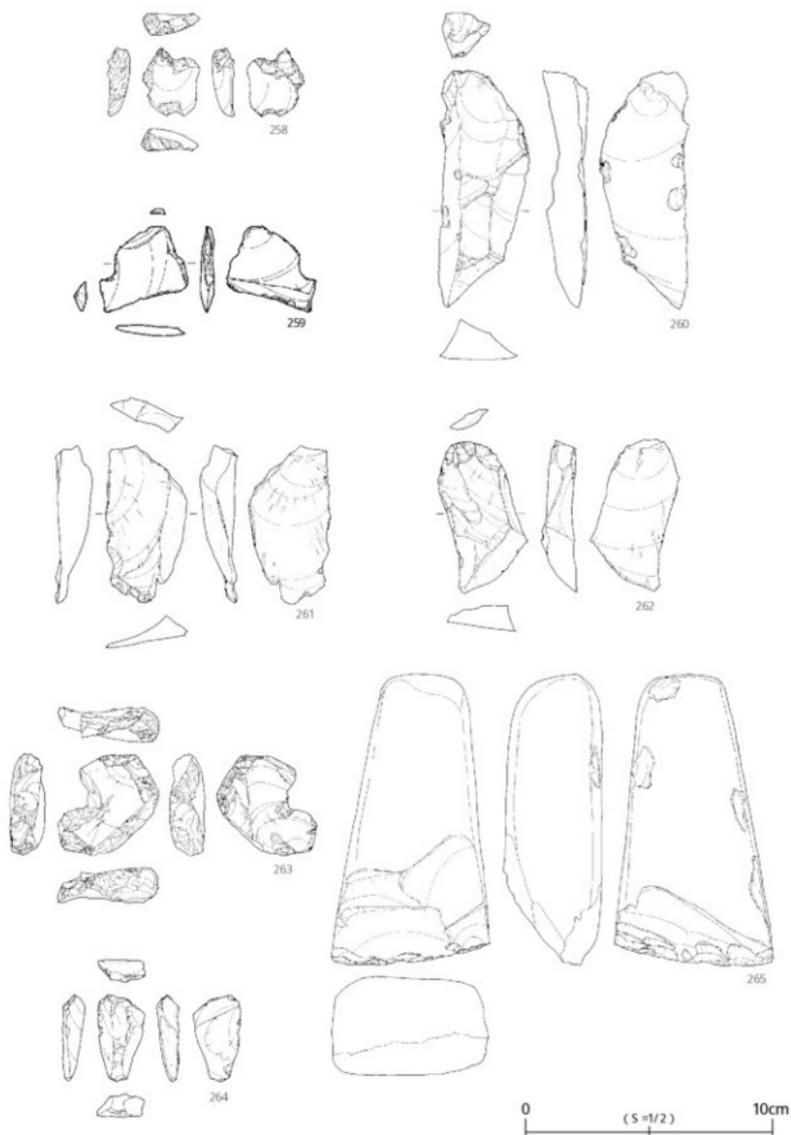
第53図 遺構外出土土器・土製品 縄文時代



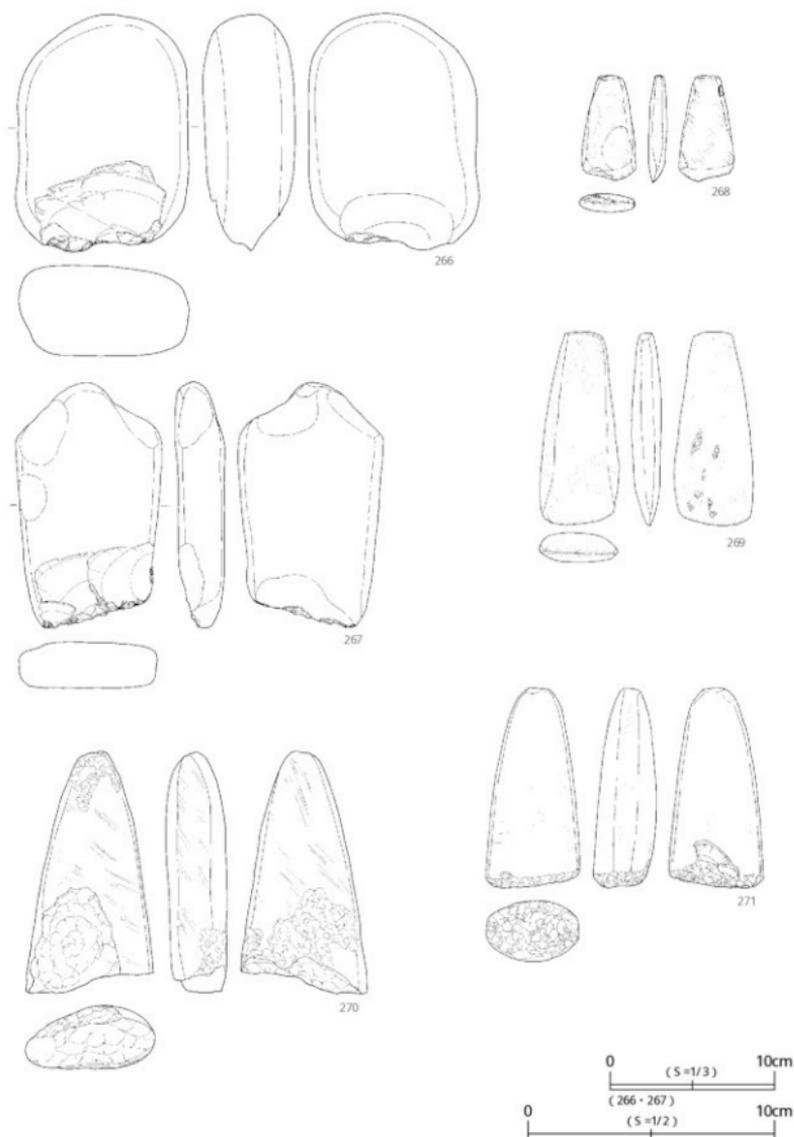
第54図 遺構外出土石器



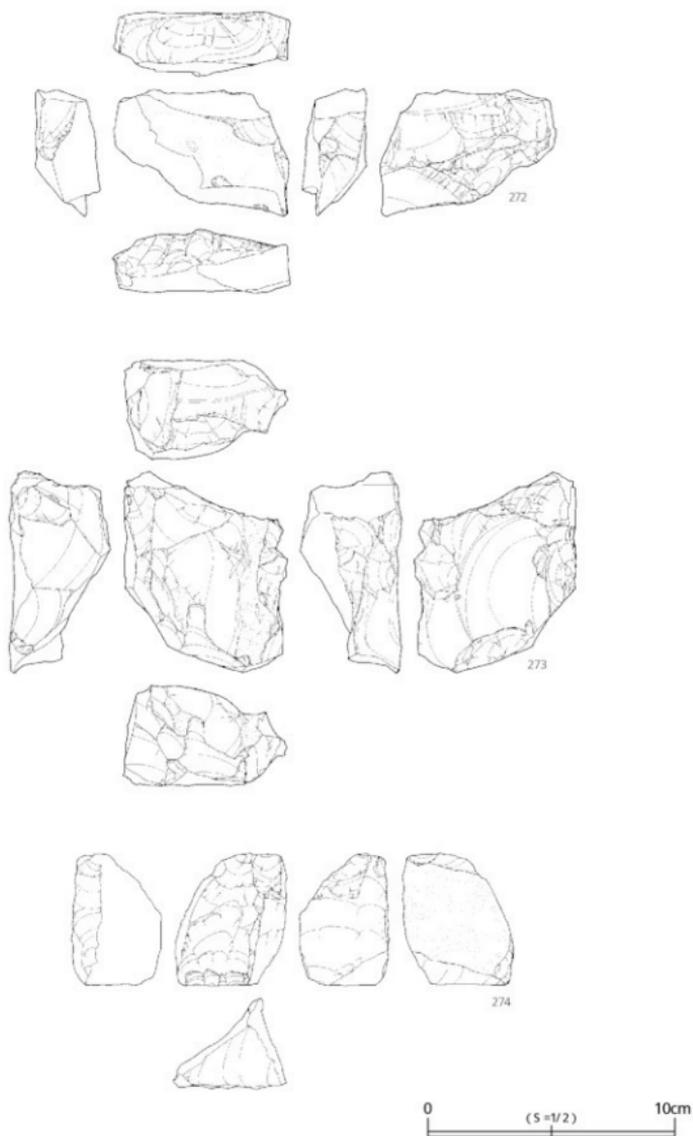
第55図 遺構外出土石器



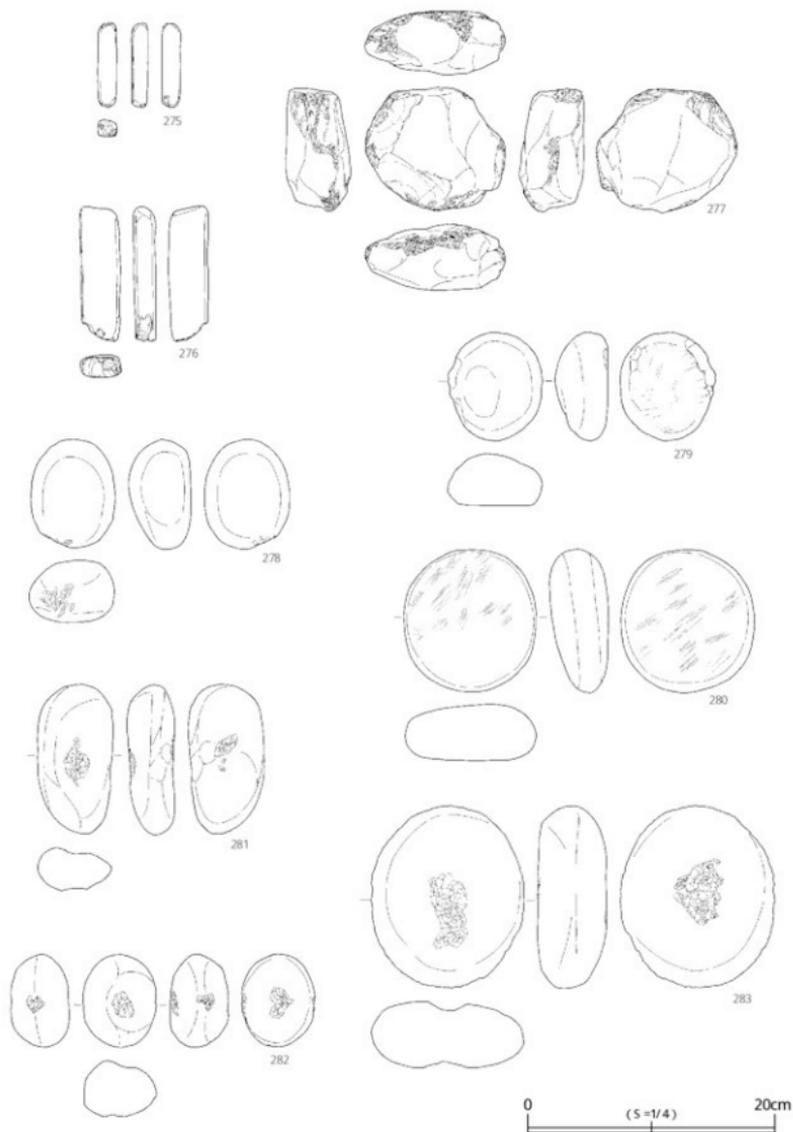
第56図 遺構外出土石器



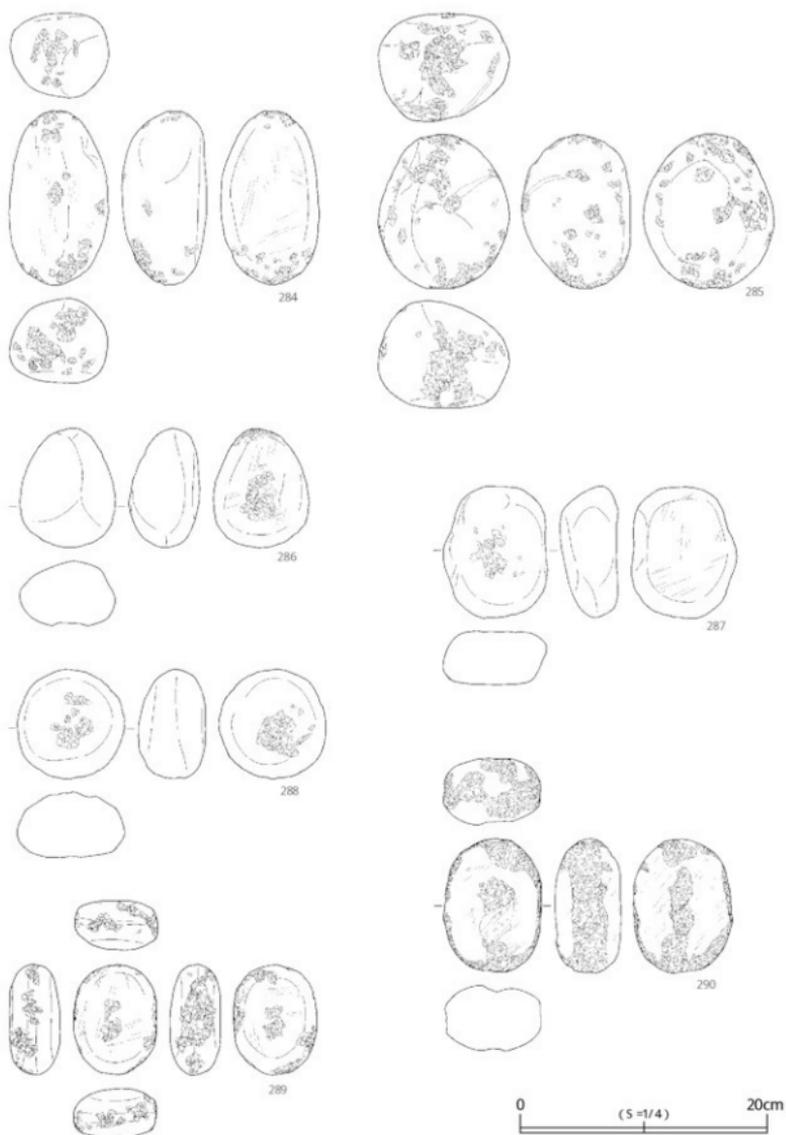
第57図 遺構外出土石器



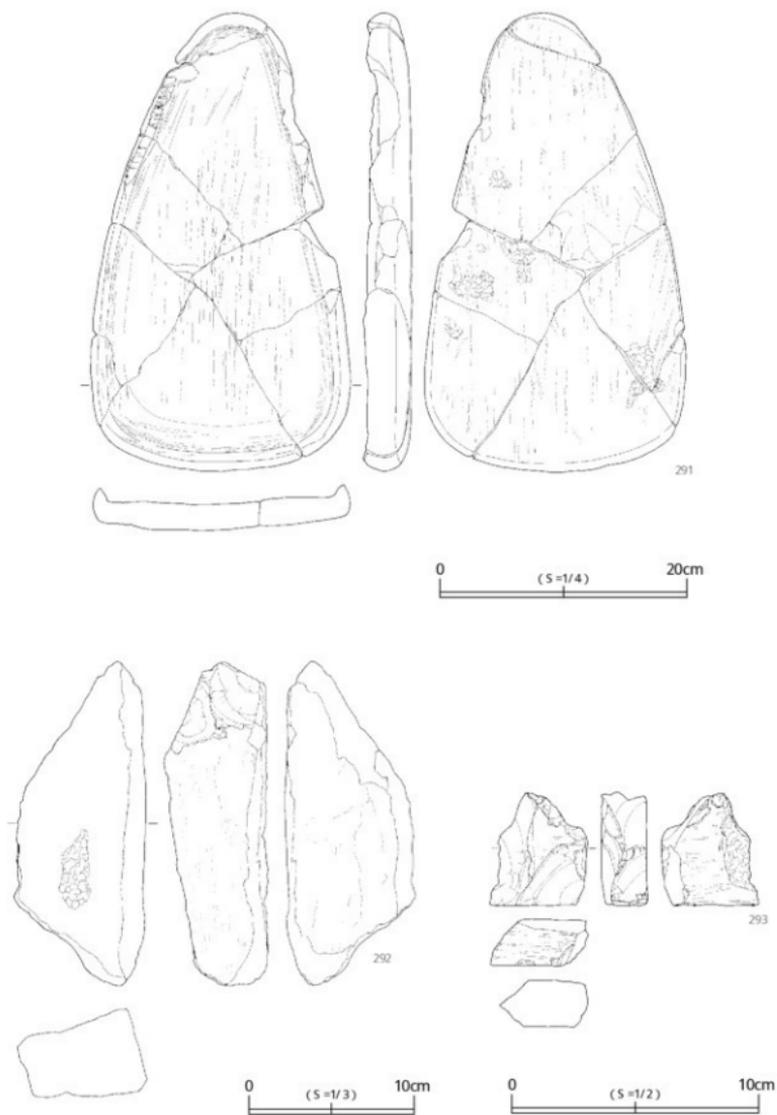
第58図 遺構外出土石器



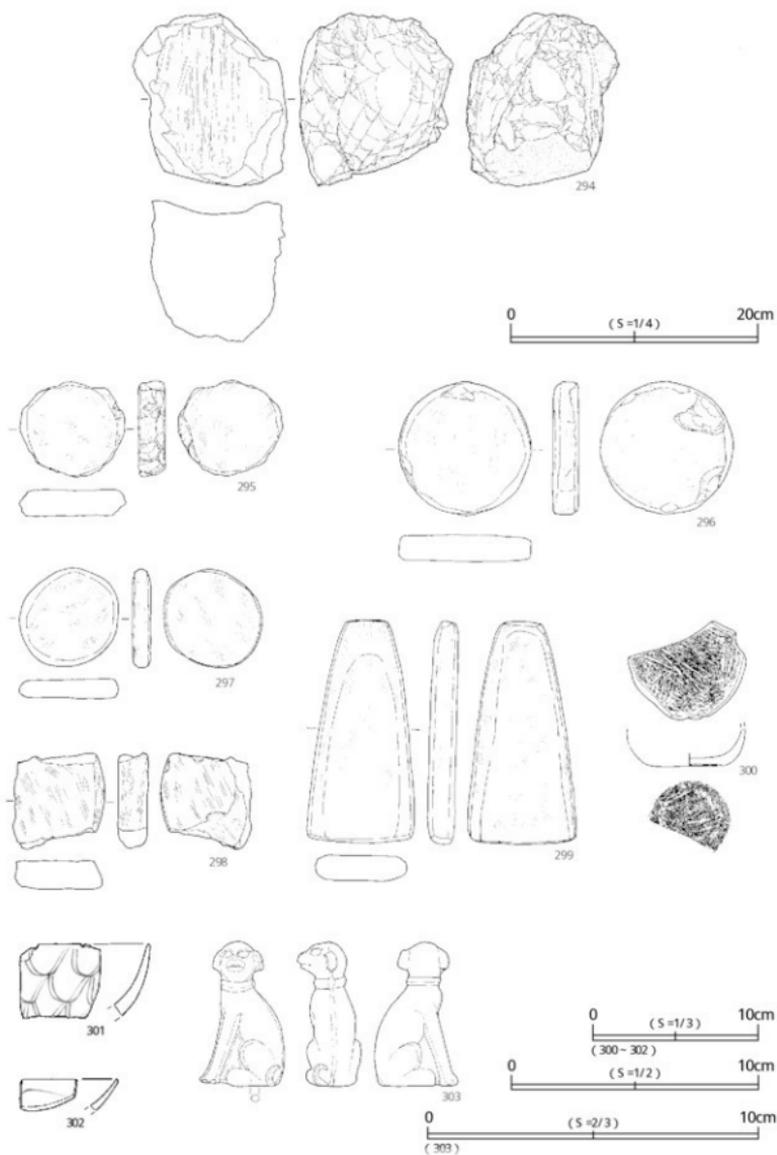
第59図 遺構外出土石器



第60図 遺構外出土石器



第61図 遺構外出土石器



第62図 遺構外出土石器・石製品 縄文時代、陶器・土製品 近世

第6表 縄文土器観察表

遺物番号	検出番号	図録番号	出土地区	器形	部位	文様・調整等	口径(mm)	底径(mm)	体高(mm)
1	8	36	5190	深鉢	胴部	単部 L R 内外面煤状灰化物			
2	8	36	5190	深鉢	胴部	羽状文 外面煤状灰化物			
3	8	36	5190	鉢形	胴部	照糸文 内外面煤状灰化物			
4	8	36	5190	深鉢	胴部	単部 R L 粘土結付残層 残層上に縄文器体断面圧痕 内面煤状灰化物			
5	8	36	5190	深鉢	胴・底部	単部 L R 内外面煤状灰化物		54	
6	8	36	5190	深鉢	口・胴部	口縁部：横位沈線で無文帯区画 斜位の粘土結付 胴部：単部 L R 内外面煤状灰化物			
7	8	36	5190	深鉢	口・胴部	口縁部：横位沈線で無文帯区画 胴部：単部 L R 内外面煤状灰化物			
8	8	36	5190	鉢	口・胴部	口縁部：縄文器体断面圧痕による横羽状区画 胴部：単部 L R			
9	8	36	5190	深鉢	胴部	粘土結付残層の方形区画 区画内無文 残層下に縄文器体断面圧痕 単部 L R 外面煤状灰化物			
14	11	36	5194	深鉢	口・胴部	外面煤状灰化物	(330)		
15	11	36	5194	深鉢	口縁部	口唇部：B字状突起 横位平行沈線 沈線間のみ 入組状の磨消縹文(L R)			
16	11	36	5194	深鉢	胴部	横位平行沈線 沈線間のみ 入組状の磨消縹文(L R)			
17	11	36	5194	深鉢	胴部	横位平行沈線 沈線間のみ 入組状の磨消縹文(L R)			
18	11	36	5194	浅鉢	口・胴部	横位平行沈線 入組状の磨消縹文(L R)			
19	11	36	5194	深鉢	口・胴部	口縁部：横位平行沈線(非連続) 単部 L R 胴部：入組状の磨消縹文(L R)	(279)		
20	11	36	5194	深鉢	胴部	沈線文(直線) 単部 L R 外面煤状灰化物			
21	12	36	5194	深鉢	口・胴部	口縁部：単部 L R 横唇孔 胴部：単部 L R			
22	12	36	5194	深鉢	胴部	単部 L R 単部 R L 外面煤状灰化物			
23	12	36	5194	深鉢	胴部	照糸文			
24	12	36	5194	深鉢	胴部	単部 R L(2層体)			
25	12	36	5194	深鉢	胴部	沈線文(湾巻き) 照糸文 外面煤状灰化物			
26	12	36	5194	深鉢	口縁部	照糸文			
27	12	36	5194	深鉢	胴部	照糸文			
28	12	36	5194	深鉢	胴・底部	単部 L R 内外面煤状灰化物		40	
35	14	17	5801	深鉢	口・胴部	単部 L R 単部 L R 内外面煤状灰化物	(233)		
36	15	17	5801	深鉢	胴部	入組状の磨消縹文(L R)			
37	15	17	5801	深鉢	胴部	単部 L R			
38	15	17	5801	深鉢	胴部	斜位沈線照糸文			
39	22	17	5808	深鉢	口縁部	口唇部：山形突起三突 口縁部：横位平行沈線 照糸文			
40	22	17	5801	深鉢	胴部	単部 R L 内外面煤状灰化物			
43	41	18	58F05	深鉢	口縁部	横位平行沈線 沈線文(直線) 単部 L R			
44	41	18	58F05	深鉢	口縁部	横位平行沈線 沈線文(直線)			
45	41	18	58F12	深鉢	口縁部	波状口縁 波頭部直下に斜位の粘土結付付 沈線文(直線)			
46	41	18	58F12	深鉢	口縁部	波状口縁 横位平行沈線 照糸文			
47	41	18	58F13	深鉢	口縁部	口唇部：鈎み 口縁部：縄文器体断面圧痕(L R)			
48	41	18	58F13	深鉢	胴部	単部 L R			
49	41	18	58F21	深鉢	胴部	単部 L R			
50	41	18	58F35	深鉢	胴部	単部 L R			
51	41	18	58F35	深鉢	口縁部	内外面煤状灰化物			
52	41	18	58F35	深鉢	口縁部	内外面煤状灰化物			
53	41	18	58F41	深鉢	口・胴部	口縁部：帯状の磨消縹文(L R)			
54	41	18	58F41	深鉢	底部	上付底	(86)		
55	41	18	58F42	深鉢	胴部	羽状文			
56	41	18	58F42	深鉢	胴部	沈線文(直線) 単部 R L			
57	41	18	58F42	深鉢	胴部	沈線文(直線)			
58	41	18	58F43	深鉢	胴部	沈線文(直線) 単部 R L			
59	41	18	58F43	深鉢	胴部	沈線文(直線) 単部 L R			
60	41	18	58F43	深鉢	胴部	単部 L R 斜位に平行沈線			
63	41	18	58F43	深鉢	口縁部	口唇部：鈎み 口縁部：横位平行沈線 単部 L R			
62	41	17	58F45	深鉢	底部	高台付 内外面煤状灰化物	193	61	218
63	41	18	58F45	深鉢	口縁部	単部 L R 外面煤状灰化物			
64	42	17	58F97	深鉢	底部	口唇部：B字状突起 口縁部：横位平行沈線 沈線間のみ 横唇孔 胴部：単部 L R 内外面煤状灰化物	139	50	179
65	42	18	58F98	深鉢	胴部	沈線文(直線) 単部 R L			
66	42	17	58F104	鉢	横光形	口縁・胴部：入組状の磨消縹文 底部：高台付		68	
67	42	18	58F105	深鉢	胴部	単部 L R 内外面煤状灰化物			307
68	42	17	58F111	深鉢	口・胴部	単部 L R			(227)
69	42	18	58F112	深鉢	口・胴部	口縁部：波状口縁 粘土結付残層による方形区画 残層下に沈線 残層上に単部 L R 胴部：沈線文(直線) 単部 L R 外面煤状灰化物			
70	42	18	58F112	深鉢	口縁部	横位平行沈線 爪形状刺突連続 単部 L R 外面煤状灰化物			
71	42	18	58F112	深鉢	口縁部	波状口縁 横位平行沈線 爪形状刺突連続 単部 L R 内外面煤状灰化物			
72	42	18	58F112	深鉢	胴部	爪形状刺突連続 横位平行沈線 沈線文(直線) 単部 L R 外面煤状灰化物			

第4章 調査の記録

遺物番号	探検番号	図録番号	出土地区	器形	部位	文様・調整等	口径(mm)	直径(mm)	高さ(mm)
151	49		MF48	深鉢	口縁部	口唇部：割突 口縁部：波状口縁 深鉢部直下に縦位の粘土粘貼付 深鉢部から縦位の平行洗練 洗練時に割突 洗練文(横折形) 煎茶文			
152	49		MG43	深鉢	口縁部	波状口縁 折り返し口縁 横位平行洗練 洗練文(直線・折行) 煎茶文 外面深鉢状灰化物			
153	49	20	4トレ	深鉢	口縁部	波状口縁 折り返し口縁 横位平行洗練 洗練文(直線・折行) 煎茶文 外面深鉢状灰化物			
154	49		MA47	深鉢	胴部	洗練文(直線・折行) 煎茶文 外面深鉢状灰化物			
155	50		4トレ	深鉢	胴部	洗練文(直線・折行) 煎茶文			
156	50	20	2トレ	深鉢	胴部	平行洗練 洗練文(直線・折行) 網目状煎茶文			
157	50		2トレ	深鉢	胴部	平行洗練 洗練文(直線) 網目状煎茶文			
158	50		MB52	鉢	口・胴部	口唇部：割突 口縁部：波状口縁 深鉢部直下に縦位の粘土粘貼付 貼付上に割突 洗練文(方形) 横位の割突連続 胴部：洗練文(直線) 煎茶文			
159	50	20	ME46	深鉢	口・胴部	口縁部：波状口縁 粘土粘貼付(高巻き・S字) 胴部：横位平行洗練 洗練文(直線)			
160	50	20	ME46	深鉢	口・胴部	口縁部：波状口縁 粘土粘貼付(高巻き・S字) 胴部：横位平行洗練 洗練文(直線)			
161	50	20	LS52	深鉢	口縁部	横状把手 洗練文(直線)			
162	50	21	MA47	深鉢	口縁部	口唇部：山形突起 口縁部：突起直下に縦位の割突2単位 洗練文(直線)			
163	50		MF43	深鉢	口縁部	口唇部：山形突起 口縁部：突起直下に縦位の割突2単位 洗練文(直線)			
164	50		MG43	深鉢	口縁部	波状口縁 洗練文(直線) 外面深鉢状灰化物			
165	50		2トレ	深鉢	口縁部	波状口縁 頸部2文 横位に3条平行洗練 洗練文(直線)			
166	50	21	4トレ	深鉢	口唇部	口唇部：山形突起 口縁部：割突連続 横位洗練			
167	50		MG43	深鉢	口縁部	波状口縁 横位平行洗練 洗練文(直線) 横穿孔			
168	50		MG42	深鉢	口縁部	波状口縁 横位平行洗練 洗練文(直線)			
169	50	21	MF43	深鉢	口縁部	割突連続 横位洗練 外面深鉢状灰化物			
170	50		MF43	深鉢	口縁部	洗練文(方形・直線) 外面深鉢状灰化物			
171	50		MH47	深鉢	口縁部	洗練文(方形・直線・S字) 内外面深鉢状灰化物			
172	50	21	MF42	深鉢	口縁部	洗練文(円形・横位の横折形) 4単位の割突			
173	50		2トレ	深鉢	口縁部	洗練文(円形・横位の横折形) 4単位の割突			
174	50	21	MF43	深鉢	口縁部	横位に粘土粘貼付 粘土粘上縦位に割突3条 粘土粘貼付洗練 洗練文(横折形)			
175	50		MG43	深鉢	口縁部	洗練文(折行) 外面深鉢状灰化物			
176	50		MG42	深鉢	胴部	洗練文(高巻き)			
177	50		3トレ	深鉢	胴部	洗練文(三角形・直線)			
178	50		MF42	深鉢	胴部	洗練文(直線)			
179	50		MD46	鉢	口・胴部	横位平行洗練 洗練文(方形)			
180	50		MA52	鉢	口・胴部	横位平行洗練 洗練文(円形・直線)			
181	50		MB52	鉢	口・胴部	口唇部：折み 口縁部：波状口縁 洗練文(直線・弧状)			
182	51		MJ42	鉢	胴部	洗練文(直線) 粘土粘貼付隆帯 隆帯上に割突連続 隆帯沿いに洗練			
183	51		3トレ	鉢	胴部	洗練文(直線)			
184	51		MG43	蓋	胴部	洗練文(直線) 内面深鉢状灰化物			
185	51		MB48	蓋	胴部	洗練文(直線)			
186	51	20	MA52	蓋	胴部上半	洗練文(直線・高巻き)		38	
187	51	20	MG44	蓋	蓋部	洗練文(横折形・直線) 把手 内外面赤色塗彩 裏色の波状物質付着			
188	51	21	MB51	鉢	口縁部	洗練文(円形・直線) 内外面赤色塗彩			
189	51	21	LS52	鉢	口縁部	横位平行洗練 内外面赤色塗彩			
190	51	21	LR53	深鉢	胴部	洗練文(直線) 内外面赤色塗彩			
191	51	21	MA51	鉢	胴部	洗練文(直線) 内外面赤色塗彩			
192	51	21	MA52	鉢	胴部	洗練文(円形・直線) 内外面赤色塗彩			
193	51	21	MB52	深鉢	胴部	洗練文(直線) 内外面赤色塗彩			
194	51	21	MA51	深鉢	胴部	洗練文(直線) 内外面赤色塗彩			
195	51	21	MJ42	深鉢	口・胴部	ボタノ状突起 縦文部体側面(直線・直線)			
196	51	21	MG48	深鉢	口縁部	粘土粘貼付隆帯 隆帯上に縦文部体側面(直線)			
197	51	21	MK46	深鉢	胴部	粘土粘貼付隆帯 隆帯沿いに縦文部体側面(直線・直線)			
198	51	21	MA51	深鉢	胴部	帯状の磨消線刻(L・R) 割突連続			
199	51	21	LT46	深鉢	口縁部	人指状の磨消線刻(L・R)			
200	52		MK42	深鉢	口縁部	帯状磨文			
201	52		3トレ	深鉢	口縁部	折り返し口縁 単部L・R			
202	52		LR53	深鉢	口・胴部	胴部：無部 L			
203	52		LS53	深鉢	胴部	単部L・R			
204	52		MD50	深鉢	胴部	横部L・R・L			
205	52		MK45	深鉢	胴部	横部L・R・L			
206	52		MG43	深鉢	口・胴部	割突連続 外面深鉢状灰化物			
207	52	21	MG43	深鉢	口・底部	胴部：割突連続 内外面深鉢状灰化物			
208	52	21	MI42	深鉢	胴部	爪形状割突連続 内外面深鉢状灰化物			60
209	52		MI42	鉢	胴部	竹筴状割突連続 爪形状割突連続 外面深鉢状灰化物			
210	52	21	MG43	深鉢	口・胴部	煎茶文(2部様)			(14)
211	52		MG49	深鉢	胴部	煎茶文 外面深鉢状灰化物			
212	52		MB43	深鉢	胴部	煎茶文 内面深鉢状灰化物			
213	52		MA47	深鉢	口・胴部	口縁部：貼付 煎茶文 胴部：煎茶文 外面深鉢状灰化物			

遺物番号	陣段番号	図録番号	出土地区	器 形	部 位	文様・調整等	口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)
214	52		MG43	深鉢	口・頸部	照糸文 外面煤状炭化物			
215	52		MG43	深鉢	胴部	照糸文 外面煤状炭化物			
216	52		MG43	深鉢	胴部	照糸文 外面煤状炭化物			
217	52		MG43	深鉢	胴部	照糸文			
218	52		2トレ	深鉢	胴部	照糸文			
219	53		MG43	深鉢	胴部	照糸文 外面煤状炭化物			
220	53		MF43	深鉢	口縁部	口部部：列糸 口縁部：縹目状照糸文			
221	53		4トレ	深鉢	口縁部	縹目状照糸文			
222	53		MG43	深鉢	胴部	縹目状照糸文			
223	53		MG43	深鉢	胴部	縹目状照糸文			
224	53		MG43	深鉢	胴部	不整照糸文			
225	53		MG43	深鉢	胴部	不整照糸文			
226	53		MB46	深鉢	胴部	不整照糸文			
227	53		MB52	深鉢	胴部	不整照糸文			
228	53		MG43	深鉢	胴部	不整照糸文			
231	53		ML42		底部				95
232	53		MG44		底部				119
233	53		MG43		底部				91
234	53		MB46		底部				(120)
235	53		MA51		底部				55
236	53		MG43		底部				60

第7表 石器観察表

遺物番号	採回番号	図版番号	出土地区	器種	石質	最大径(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)
10	9		S190	スクレイパー	頁岩	99	86	13	88.9
11	9		S190	スクレイパー	頁岩	38	25	11	6.0
12	9	16	S190	スクレイパー	頁岩	80	58	8	48.1
13	9		S190	刮磨器類	凝灰岩(安山岩)	213	78	46	90
29	12		S194	スクレイパー	頁岩	69	46	14	23.0
30	12	16	S194	スクレイパー	頁岩	117	53	25	103.7
31	12	16	S194	スクレイパー	頁岩	67	81	17	66.5
32	13	16	S194	磨製石斧	頁岩	96	40	24	148.3
33	13		S194	刮磨器類	安山岩	154	123	72	3,900
34	13		S194	刮磨器類	安山岩	140	125	67	1,760
41	22		SK02	スクレイパー	頁岩	22	33	7	4.7
42	22		SK02	刮磨器類	安山岩	198	129	53	1,440
76	43		SKF05	礫器	頁岩	104	114	46	530
77	43		SKF05	刮磨器類	安山岩	120	107	45	790
78	43		SKF10	刮磨器類	安山岩	160	103	107	2,350
79	44		SKF22	スクレイパー	頁岩	26	21	5	1.8
80	44		SKF29	刮磨器類	凝灰岩(安山岩)	73	56	59	288.4
81	44		SKF36	楔形石器	頁岩	46	35	10	12.3
82	44		SKF37	石皿	安山岩	115	179	85	3,130
83	44		SKF43	礫器	緑色凝灰岩	129	83	47	500
84	44		SKF44	スクレイパー	頁岩	62	28	17	29.1
85	45	18	SKF45	石匙	頁岩	67	36	10	128
86	45		SKF95	刮磨器類	パンレイ岩	95	76	59	640
87	45		SKF97	石皿	安山岩	290	235	90	9,630
88	45		SKF105	礫器	安山岩	210	238	58	3,790
89	46	18	SKF105	磨製石斧	凝灰岩(安山岩)	41	21	9	13.7
90	46		SKF105	刮磨器類	安山岩	106	95	63	840
91	46		SKF105	刮磨器類	安山岩	73	81	39	340
92	46		SKF111	刮磨器類	安山岩	89	66	57	440
93	46	18	SKF112	石錐	玉髓	31	19	9	5.6
94	46		SKF112	スクレイパー	頁岩	40	48	20	44.4
95	46		SKF112	刮磨器類	安山岩	116	82	60	810
96	46	18	SKF112	円筒状石製器	緑色凝灰岩	43	36	6	17.3
237	54	22	M052	石錐	頁岩	41	12	7	3.0
238	54	22	M055	石錐	頁岩	34	11	5	1.5
239	54	22	LQ52	石錐	頁岩	22	16	2	0.7
240	54	22	3トレ	石錐	頁岩	46	23	12	13.3
241	54	22	MF45	石匙	頁岩	62	58	16	35.4
242	54	22	MF47	石匙	玉髓	45	25	6	5.7
243	54		MG43	スクレイパー	頁岩	41	42	13	23.6
244	54		LRS3	スクレイパー	頁岩	39	41	15	20.4
245	54		LM40	スクレイパー	頁岩	40	30	7	7.9
246	54		MD48	スクレイパー	頁岩	93	37	11	29.7
247	54		MH44	スクレイパー	頁岩	37	21	7	4.8
248	54		ME53	スクレイパー	頁岩	43	22	5	4.8
249	55		LR49	スクレイパー	頁岩	53	51	19	29.9
250	55		MAS2	スクレイパー	頁岩	79	48	13	43
251	55	22	MX44	スクレイパー	頁岩	73	48	23	47.5
252	55		MG43	コアスクレイパー	頁岩	38	51	22	35.8
253	55		MF42	リタッチドフレーク	頁岩	53	48	22	43.2
254	55		ME44	リタッチドフレーク	頁岩	69	62	23	57.1
255	55		4トレ	リタッチドフレーク	頁岩	87	31	11	18.9
256	55		LS52	折衝石器	頁岩	32	30	8	8.2
257	55		MF42	折衝石器	頁岩	23	24	14	7.7
258	56		LQ52	挿入石器	頁岩	28	23	9	3.9

遺物番号	押込番号	図版番号	出土地区	器種	材質	最大径(mm)	最大径(mm)	最大径(mm)	重量(g)
259	56		LP-4f	コースドフレーク	頁岩	35	36	6	5.4
260	56		MF-47	コースドフレーク	頁岩	97	36	19	48.9
261	56		MF-42	コースドフレーク	頁岩	65	34	15	17.7
262	56		MD-44	コースドフレーク	頁岩	52	36	20	22
263	56		MG-43	楔形石器	頁岩	41	40	14	18.9
264	56		MG-43	楔形石器	頁岩	34	18	9	6.2
265	56		MG-45	礫器	頁岩	119	64	40	40.45
266	57		LT-52	礫器	安山岩	146	105	54	123
267	57		LT-53	礫器	頁岩	150	86	30	590
268	57	22	MC-46	磨製石斧	頁岩	43	22	7	12.4
269	57	22	LN-90	磨製石斧	凝灰岩質安山岩	79	32	12	55.9
270	57	22	MB-52	磨製石斧	凝灰岩質安山岩	100	53	26	177.2
271	57	22	MA-53	磨製石斧	頁岩	81	38	26	131.6
272	58		MA-49	石核	頁岩	53	72	27	98.3
273	58		MB-48	石核	頁岩	82	67	41	204.5
274	58		ME-46	角棒石核	閃緑岩	54	46	37	87.8
275	59		MH-42	剝離器類	頁岩	67	16	14	33.3
276	59		MG-44	剝離器類	頁岩	110	33	17	127.1
277	59		LS-53	剝離器類	凝灰岩	151	113	53	740
278	59		LT-53	剝離器類	安山岩	88	69	51	480
279	59		MA-53	剝離器類	凝灰岩質安山岩	88	74	42	370
280	59		MD-48	剝離器類	凝灰岩質安山岩	115	106	47	920
281	59		MB-51	剝離器類	安山岩	122	62	39	390
282	59		MB-48	剝離器類	凝灰岩	75	59	47	277.9
283	59		MB-51	剝離器類	凝灰岩質安山岩	148	125	56	980
284	60		LS-52	剝離器類	凝灰岩質安山岩	141	79	69	1,070
285	60		MC-52P02	剝離器類	凝灰岩質安山岩	127	105	88	1,560
286	60		MF-45	剝離器類	凝灰岩質安山岩	97	78	55	440
287	60		LT-51	剝離器類	凝灰岩質安山岩	105	86	47	640
288	60		MG-44	剝離器類	凝灰岩質安山岩	90	86	55	530
289	60		MA-53	剝離器類	凝灰岩質安山岩	89	68	41	360
290	60		ME-52	剝離器類	安山岩	105	79	54	600
291	61	22	LS-53	石皿	凝灰岩	375	210	38	1,980
292	61		LS-53	砥石	凝灰岩	195	80	64	860
293	61		LR-48	砥石	頁岩	46	39	19	43.5
294	62		MA-51	砥石	凝灰岩質安山岩	142	125	125	2,440
295	62	22	MB-51	円錐状石製品	凝灰岩	39	43	11	23.1
296	62	22	MH-42	円錐状石製品	砂岩	54	54	11	34.8
297	62	22	MA-53	円錐状石製品	凝灰岩	39	40	8	14.8
298	62	22	MB-51	円錐状石製品	凝灰岩	39	35	12	20.6
299	62	22	MG-48	石製品	砂岩	91	44	11	52.5

第5章 自然科学的分析

第1節 炭化材の樹種同定

植田弥生 (バレオ・ラボ)

1 はじめに

ここでは、竪穴住居跡 S I 90・94、土器埋設遺構 S R 01、フラスコ状土坑 S K F 21・45・104・111 から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。

2 炭化材樹種同定の方法

樹種同定は炭化材の3方向の破断面の組織を走査電子顕微鏡で観察し行った。横断面(木口)は炭化材を手で割り新鮮な平滑面を出し、接線断面(板目)と放射断面(柾目)は片刃の剃刀を各方向に沿って軽くあて弾くように割り面を出す。この3断面の試料を直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子株式会社 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

3 結果

同定結果の一覧を、第8表にまとめた。検出された分類群は、針葉樹のイヌガヤ属、落葉広葉樹のクリ・カエデ属・トチノキであった。クリ?は、破片が小さいために広放射組織を含まない部分のコナラ節を見ている可能性があるためである。

検出された3分類群は、竪穴住居跡や土器埋設遺構そしてフラスコ状土坑のそれぞれ異なる遺構からも検出された。当時の生活の周辺で、ごく普通に利用または生育していた樹種であったためと思われる。

以下に同定の根拠とした材組織の観察結果を、分類配列順に記載する。

イヌガヤ属 *Cephalotaxus* イヌガヤ科 図版23 1a-1c (試料3 PLD-1207)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。中心部に髄がある細い材と中心部に近い材片であった。仮道管にらせん肥厚があり、樹脂細胞がある。分野壁孔はごく小型のヒノキ型で1分野に1~2個である。放射仮道管に2細胞幅になるものも見られ、材も木理もややうねっていたことから、ハイイヌガヤの可能性も考えられた。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版23 3a-3c (試料3 PLD-1207)

年輪の始めに大型の管孔が密に配列し、晩材部は非常に小型の管孔が火災状に配列する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

カエデ属 *Acer* カエデ科 図版23 4a-4c (試料1 PLD-1205)

小型の管孔が単独または2~3個が放射方向に複合してほぼ均一に分布し、年輪界は不明瞭な散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔に細いらせん肥厚がある。放射組織は同性、1~4細胞

幅、道管との壁孔は交互状で孔口はやや大きい。

トチノキ *Aesculus turbinata* Blume トチノキ科 図版23 5a-5c (試料6 PLD-1210)

小型の管孔が単独または2-3個が複合して散在する散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は単列同形で層階状に配列する。

第8表 出土炭化材の樹種同定結果

試料	遺構	試料内容	検出樹種	備考
1	SI90 壘穴住居跡	覆式炉土器内	カエデ属 クリ?	PLD-1205 微破片
2	SI94 壘穴住居跡	炉内	カエデ属 クリ?	PLD 1206 微破片
3	SR01 土器埋設遺構	埋設土器内 (I層土サンプル)	イスガヤ属 クリ	PLD-1207
4	SKF21 フラスコ状土坑	覆土内	カエデ属 クリ?	PLD-1208 微破片
5	SKF45 フラスコ状土坑	出土土器内	クリ	PLD 1209
6	SKF104 フラスコ状土坑	出土土器内	トチノキ	PLD-1210
7	SKF111 フラスコ状土坑	出土土器直下	クリ イスガヤ属	PLD-1211

第2節 放射性炭素年代測定

山形 秀樹（バレオ・ラボ）

1 はじめに

砒測遺跡より検出された炭化物の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

2 試料と方法

試料は、S I 90複式炉土器内覆土から出土した炭化材(カエデ属)1点、S I 94炉内から出土した炭化材(カエデ属)1点、S R 01から出土した炭化材(クリ)1点、S K F 21から出土した炭化材(カエデ属)1点、S K F 45から出土した炭化材(クリ)1点、S K F 104土器内覆土から出土した炭化材(トチノキ)1点、S K 111出土土器直下から出土した炭化材(クリ)1点の併せて7点である。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石塵(グラファイト)に調整した後、加速器質量分析計(AMS)にて測定した。測定された¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した¹⁴C濃度を用いて¹⁴C年代を算出した。

3 結果

第9表に、各試料の同位体分別効果の補正值(基準値-25.0‰)、同位体分別効果による測定誤差を補正した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代を示す。

¹⁴C年代値(yrBP)の算出は、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差(±1σ)は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差(One sigma)に相当する年代である。これは、試料の¹⁴C年代が、その¹⁴C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を較正し、より正確な年代を求めるために、¹⁴C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と¹⁴C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて¹⁴C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて¹⁴C年代を暦年代に較正した年代を算出する。

¹⁴C年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3(CALIB 3.0のバージョンアップ版)を使用した。なお、暦年代較正值は¹⁴C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、1σ暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその1σ暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。1σ暦年代範囲のうち、その確からしさを確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

4 考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した1 σ 暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い1年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

引用文献

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎.日本先史時代の¹⁴C年代、p.3- 20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J.(1993) Extended ¹⁴C Database and Revised CALIB3.0 ¹⁴C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M.(1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

第9表 放射性炭素年代測定及び暦年代較正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}C_{\text{perm}}$ (‰)	¹⁴ C年代 (yrBP \pm 1 σ)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1 σ 暦年代範囲
PLD-1205 (AMS)	炭化材 No.1 (カエデ属) SI90 複式炉埋設土器内覆土	-24.1	3810 \pm 30	cal BC 2275 cal BC 2255 cal BC 2230 cal BC 2220 cal BC 2205	cal BC 2290 - 2200 (100%)
PLD-1206 (AMS)	炭化材 No.2 (カエデ属) SI94 炉埋設土器内覆土 焼上サンプル	-24.3	3100 \pm 30	cal BC 1395 cal BC 1325	cal BC 1410 - 1370 (61.4%) cal BC 1340 - 1315 (33.8%)
PLD-1207 (AMS)	炭化材 No.3 (タリ) SR01	-26.6	3840 \pm 30	cal BC 2290	cal BC 2340 - 2275 (54.0%) cal BC 2255 - 2230 (23.5%) cal BC 2220 - 2205 (14.5%)
PLD-1208 (AMS)	炭化材 No.4 (カエデ属) SKF21	-27.7	2970 \pm 30	cal BC 1210 cal BC 1200 cal BC 1190 cal BC 1140 cal BC 1135	cal BC 1260 - 1230 (27.6%) cal BC 1220 - 1190 (29.3%) cal BC 1180 - 1150 (28.7%) cal BC 1145 - 1130 (14.4%)
PLD-1209 (AMS)	炭化材 No.5 (タリ) SKF45 土器内	-25.1	1160 \pm 30	cal AD 890	cal AD 825 - 840 (15.8%) cal AD 860 - 900 (40.2%) cal AD 920 - 955 (37.2%)
PLD-1210 (AMS)	炭化材 No.6 (トチノキ) SKF104 土器内	-25.1	3770 \pm 30	cal BC 2290 cal BC 2160 cal BC 2150	cal BC 2275 - 2255 (17.4%) cal BC 2205 - 2140 (29.1%)
PLD-1211 (AMS)	炭化材 No.7 (タリ) SKF111 出土土器直下	25.0	4770 \pm 30	cal BC 3630 cal BC 3580 cal BC 3570 cal BC 3560 cal BC 3540	cal BC 3635 - 3625 (15.4%) cal BC 3595 - 3550 (60.2%) cal BC 3545 - 3525 (24.4%)

第6章 まとめ

砂測遺跡の発掘調査の結果から、調査区西半は主に縄文時代中期末葉～後期前葉の集落が、調査区東半は主に縄文時代後期後葉の集落が営まれていたことが判明した。遺構は竪穴住居跡2軒、土器埋設遺構1基、焼土遺構2基、掘立柱建物跡2棟、土坑36基、フラスコ状土坑43基、柱穴様ビット85基を検出した。

本遺跡では調査区西半に大半の遺構が集中している。特に、台地縁辺部には竪穴住居跡、土坑、フラスコ状土坑などが密集して検出されている。調査区南西端で縄文時代中期末葉の竪穴住居跡1軒を検出した。本遺構は南西部に土器埋設部・石田部・前庭部からなる複式炉を伴っている。複式炉を伴う竪穴住居跡は同じ森吉山ダム建設事業区域では桐内D遺跡・二重鳥D遺跡・二重鳥E遺跡等で検出され、近年その検出例が増加している。本遺構の土器埋設部には縄文時代中期末葉から後期前葉の粗製の深鉢形土器が出土している。石田部の底面は硬化しており、本来敷かれていた礫を抜き取ったと考えられる。このような構造の複式炉は、同じダム建設事業区域では桐内D遺跡のS I 34複式炉が挙げられる。支柱穴の配置、複式炉の構造・配置なども桐内D遺跡の検出例と類似しており、ここから本遺構の全体像を想定することが可能であろう。また、周田から土器埋設遺構1基を検出した。柱穴や周溝等を検出できなかったため、ここでは土器埋設遺構としたが、構造が炉と類似しており、単独の屋外炉の可能性もある。単独の屋外炉だった場合には、遺跡南西部の斜面で崩落した箇所はこの屋外炉を使用した住居があったと想定できよう。また、土器埋設部からは縄文時代中期末葉から後期前葉と考えられる深鉢形土器が出土している。

遺跡西部平坦面からは多数の土坑・フラスコ状土坑を検出した。その大半が遺物を伴っておらず、詳細な所属時期は不明である。しかし、調査区全体の出土遺物の大半が縄文時代後期初頭から前葉であることから、当該期に構築された食料貯蔵穴群と考えられよう。

調査区北西部、南西部で亀甲形を呈する掘立柱建物跡2棟を検出した。S B 107の側には構造が炉と類似したS N 46を検出している。S N 46がS B 107に付随した炉であれば、S B 107を居住施設と想定することができる。こうして調査区西半の遺構分布を見ると、縄文時代中期末葉から後期前葉にかけて食料貯蔵穴群を伴う小規模な集落が営まれていたと考えられる。竪穴住居跡の検出はS I 90の1軒のみだが、台地縁辺に構築されていることから、斜面で崩落した南西部に居住区域が広がっていたのかもしれない。

また、調査区西半でフラスコ状土坑転用の土坑墓4基(S K F 45・97・104・111)を検出した。所属時期は、S K F 111が縄文時代後期前葉、S K F 45・104が縄文時代後期後葉、S K F 97が縄文時代晩期前葉と考えられる。底面付近からはほぼ完形の土器が出土したこと、覆土の堆積状況から判断した。この内S K F 45は底面でビット3基を検出しており、この内の1基からは逆位の状態で粗製の深鉢形土器が出土した。底面付近からは石匙も出土しており、副葬品として埋められたと考えられる。これらのフラスコ状土坑転用の土坑墓は点在していて、時期も異なるためそれぞれ単独の土坑墓と考えられる。

調査区東半の検出遺構は竪穴住居跡1軒、土坑3基、フラスコ状土坑1基と調査区西半に比べて、

極めて少ない。調査区北東端では縄文時代後期後葉の竪穴住居跡1軒を検出した。同じダム建設事業区域では、桐内A遺跡、二重鳥D遺跡、二重鳥E遺跡で当該期の竪穴住居跡が検出されており、近年検出例が増加してきている。本遺構は大半が消失しており、全体像を窺うことはできないが、注目されるのは炉の構造であろう。粗製の深鉢形土器の胴部上半の破片を炉の壁として用い、底面中央部には円筒を縦半分に割ったような凹みのある大礫を置き、その周囲には中型の円礫を敷き詰めて底面を構築している。この炉に類似した構造の炉は検出されておらず、今後の発掘調査による類例の増加で当該期の竪穴住居の構造がより明らかになると考える。

遺物は縄文時代中期中葉から晩期前葉の土器・土製品・石器・石製品、近世の陶器・土製品が出土した。主体となるのは縄文時代後期初頭から前葉の土器である。同じダム建設事業区域では姫ヶ岱C遺跡、桐内D遺跡、桐内A遺跡などで同時期の遺物の出土が見られる。本遺跡では明確に後期初頭と前葉、土器型式の分類ができなかったため、一括して扱った。この中でも特徴的なものは遺構外出土土器113・114・115・143・147の文様の構成要素として刺突が施された土器である。113・114は深鉢形土器の口縁部で、波頂部から垂下した平行沈線と横位の平行沈線で口縁部を方形区画し、113は横位に左方向から、114は左右両方向から弧状に刺突が施される。143は上下方向から縦位に弧状に刺突が施される。桐内D遺跡で文様の構成要素として刺突が器面に施される土器は出土しているが、類似例とは言い難く、今後の発掘調査成果で類例の増加に期待したい。遺構外出土土器187は切断蓋付壘形土器の蓋部分である。内・外面ともに全面に赤色塗彩が施され、切断部を含む下半の内・外面に黒色の漆状物質が付着する。下半のみ付着していることから、漆状物質が入った器の蓋として利用されたことが窺えよう。類例としては姫ヶ岱C遺跡SK12で切断壘形土器が出土しており、十腰内I群前半と位置づけている。このような土器の出土例は少なく、好資料である。

本遺跡周辺には縄文時代後期～晩期の深渡遺跡、深渡A遺跡、棚岱遺跡などが所在する。今後、これらの遺跡が発掘調査されることによって、この地域の当該期の様相の解明がより一層進展するものと考えられる。

参考文献

- 秋田県教育委員会 『姫ヶ岱C遺跡- 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査Ⅱ-』
秋田県文化財調査報告書第287集 1999(平成11)年
- 秋田県教育委員会 『桐内C遺跡- 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査Ⅲ-』
秋田県文化財調査報告書第299集 2000(平成12)年
- 秋田県教育委員会 『桐内B遺跡・桐内D遺跡- 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査Ⅴ-』
秋田県文化財調査報告書第318集 2001(平成13)年
- 秋田県教育委員会 『桐内A遺跡- 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査Ⅵ-』
秋田県文化財調査報告書第334集 2002(平成14)年
- 秋田県教育委員会 『からむし岱I遺跡- 大館能代空港アクセス道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査-』
秋田県文化財調査報告書第339集 2002(平成14)年
- 森吉町教育委員会 『埋蔵文化財発掘調査報告書- 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査-』1998(平成10)年
- 森吉町教育委員会 『埋蔵文化財発掘調査報告書二重鳥D・E・F遺跡- 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査-』
2002(平成14)年

第6章 まとめ

青森県教育委員会 『弥栄平(2)遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第81集 1984(昭和59)年

青森県教育委員会 『弥栄平(1)遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第98集 1986(昭和61)年

青森県教育委員会 『沖階(1)遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第100集 1986(昭和61)年

青森県教育委員会 『沖階(2)遺跡発掘調査報告書- むつ小川原開発事業関係埋蔵文化財調査報告書- 』

青森県埋蔵文化財調査報告書第101集 1986(昭和61)年

青森県教育委員会 『笹ノ沢(2)・(3)遺跡- 東北縦貫自動車道八戸線(八戸 - 八戸)建設事業に伴う遺跡発掘調査報告- 』

青森県埋蔵文化財調査報告書第305集 2001(平成13)年

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

『馬立 I ・太田遺跡発掘調査報告書 東北縦貫自動車道間連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第123集 1988(昭和63)年



遺跡全景（南東→）



遺跡全景（南→）

遺跡全景



SI 90完掘 (南東→)



SI 90複式炉確認 (南東→)



SI 90複式炉断面 (南東→)



SI 90複式炉土器埋設部断面 (南東→)



SI 90複式炉完掘 (南東→)



S194断面 (南東→)



S194確認 (南→)



S194断面 (南西→)



S194炉断面 (南→)



S194炉完掘 (南→)

S R01確認 (北東→)



S R01断面 (東→)



S R01完掘 (東→)



S N46確認 (東→)



S N91確認 (南→)



S N91断面 (南→)



焼土遺構



S B 107完掘 (南→)



S B 108完掘 (南→)

掘立柱建物跡



S K02断面 (東→)



S K03断面 (東→)



S K07断面 (西→)



S K08断面 (東→)



S K24断面 (北→)



S K25断面 (南西→)



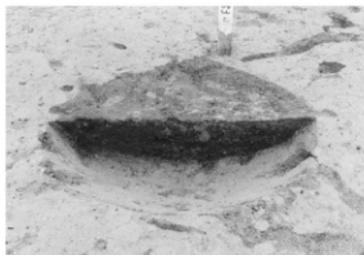
S K27断面 (南→)



S K30断面 (南西→)



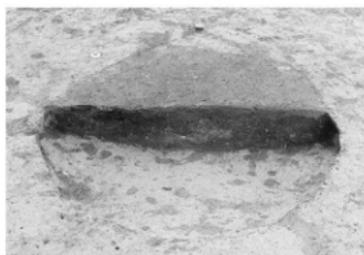
S K 72断面 (北→)



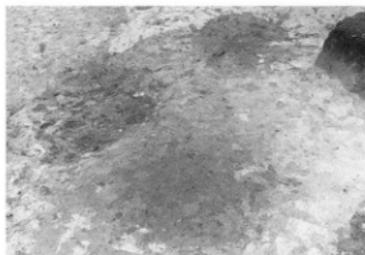
S K 73断面 (西→)



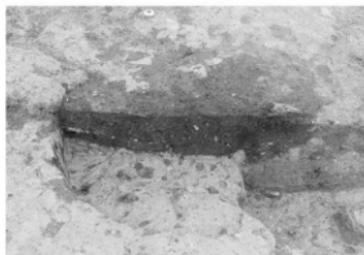
S K 84断面 (北→)



S K 99断面 (北→)



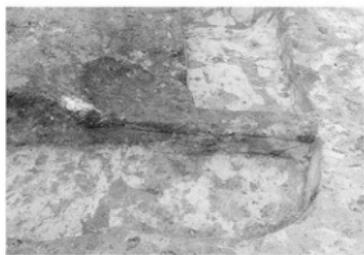
S K 100-103確認 (南東→)



S K 100断面 (西→)



S K 101断面 (西→)



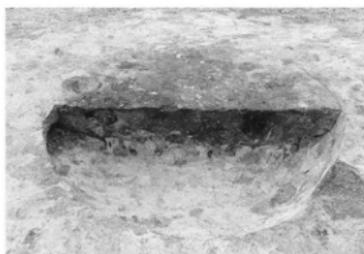
S K 102断面 (西→)



S K103断面 (南→)



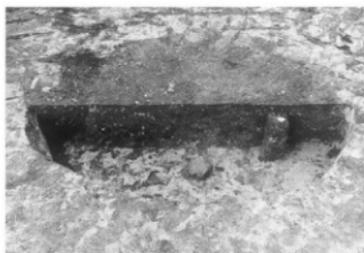
S K110断面 (南西→)



S K114断面 (南東→)



S K F04断面 (南西→)



S K F05断面 (南西→)



S K F06断面 (南→)

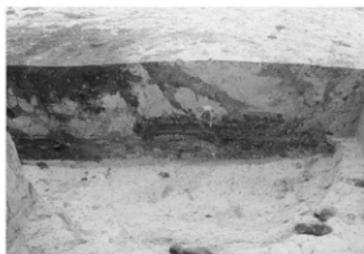


S K F10断面 (北東→)



S K F11断面 (東→)

土坑、フラスコ状土坑



S K F 12断面 (北西→)



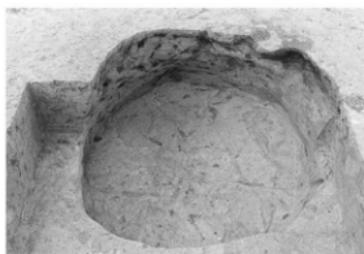
S K F 13断面 (北西→)



S K F 14断面 (東→)



S K F 16断面 (南西→)



S K F 17完掘 (東→)



S K F 18断面 (東→)



S K F 19断面 (南西→)



S K F 20断面 (南西→)



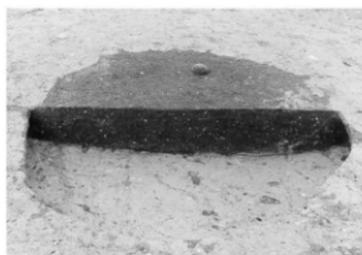
S K F 21断面 (南→)



S K F 22断面 (南→)



S K F 26断面 (南西→)

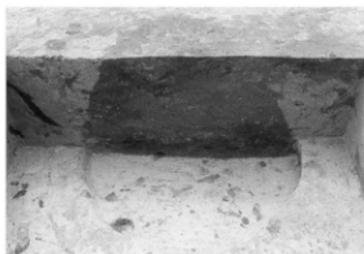


S K F 29断面 (東→)

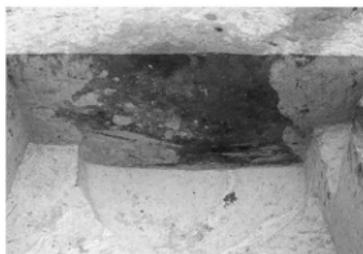


S K F 32断面 (南西→)

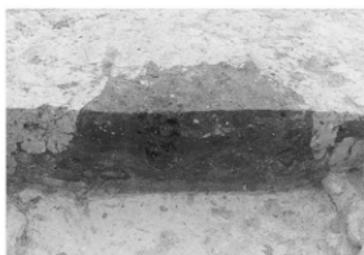
フラスコ状土坑



S K F 34断面 (東→)



S K F 35断面 (北西→)



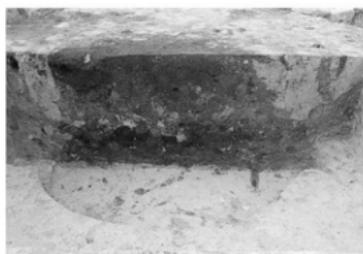
S K F 36断面 (北東→)



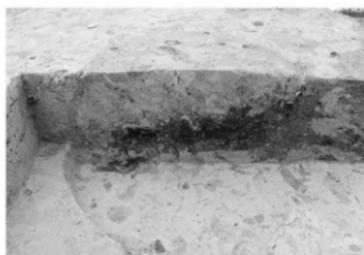
S K F 37断面 (南→)



S K F 38断面 (北西→)



S K F 40断面 (南東→)



S K F 41断面 (北東→)



S K F 42断面 (北東→)



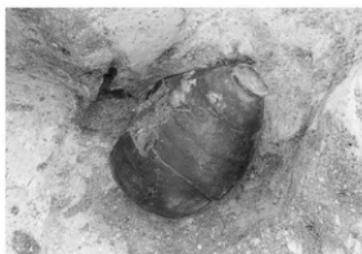
S K F 43断面 (西→)



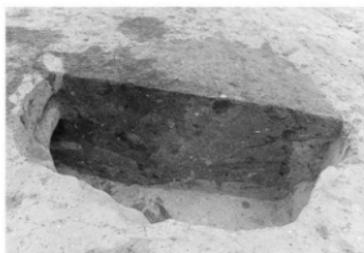
S K F 44断面 (北東→)



S K F 45断面 (北→)



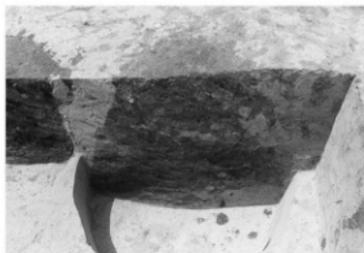
S K F 45遺物出土状況 (南西→)



S K F 75断面 (北西→)



S K F 86断面 (南→)



S K F 92断面 (東→)



S K F 93断面 (東→)